

県内遺跡発掘調査報告書VI

平成28年度県内遺跡試掘・確認調査

2018

新潟県教育委員会

県内遺跡発掘調査報告書VI

平成 28 年度県内遺跡試掘・確認調査

2018

新潟県教育委員会

序

新潟県教育委員会では、平成25年度から国土交通省及び東日本高速道路株式会社が所管する道路事業に伴う埋蔵文化財の事前調査を直営の体制で行っており、本書は平成28年度に実施した調査成果をまとめたものです。

本書には12か所で実施した試掘・確認調査の結果を掲載しました。国土交通省が新直轄道路として村上市朝日から山形県鶴岡市まで建設する一般国道7号朝日温海道路（日本海沿岸東北自動車道）の試掘・確認調査が平成27年度から本格化しており、今回の試掘・確認調査により範囲・内容の一部が明らかになった上野遺跡は縄文時代後期の大規模集落と予想されます。

一般国道17号六日町バイパスでは六日町藤塚遺跡の遺跡範囲や内容の一部が確認でき、本発掘調査範囲を明らかにできました。

本書が県内の埋蔵文化財保護行政の基礎資料となり、地域の歴史に興味を持つ多くの方にも活用されることを願っています。

最後になりますが、調査に際して多大な御協力と御援助を賜りました地元市町村教育委員会、近隣住民各位、国土交通省北陸地方整備局及び各国道事務所に対し、厚くお礼申し上げます。

平成30年3月

新潟県教育委員会

教育長 池田幸博

例　　言

- 1 本報告書は、新潟県教育委員会（以下、「県教委」とする）が平成28年度に実施した埋蔵文化財の事前調査（試掘・確認調査、詳細分布調査）の記録である。
- 2 本事業は、文化庁国庫補助金（県内遺跡発掘調査等）を受けて、県教委が主体となって実施した。
- 3 出土遺物の注記は、調査年度（平成28年）と略号を用い、トレンチ番号・層位等の記載を予定している。朝日温海道路は「28朝温、28アサ」、浦佐バイパスは「28ウラサ」、六日町バイパスは「28六日」である。
- 4 出土品及び調査・整理作業に係る各種資料は一括して県教委が保管・管理している。
- 5 本事業に係る重機・作業員等の調査支援業務は株式会社吉田建設に委託した。
- 6 各事業の図版の構成は、第1図位置図、第2図トレンチ位置図、第3図柱状図、第4図遺構図面を基本とし、複数ある場合は枝番を付した。それ以降を写真図版とし、遺構図面が無い場合は第4図から1点ごとに連番を付した。
- 7 柱状図は分層を行ったが、同一層名を付したトレンチがある。各トレンチ内で分層は可能だが、相対的に同じ層として捉えられると判断した場合、そのように記載した。
- 8 本書の執筆は石川智紀・滝沢規朗が行った。調査位置図・トレンチ位置図・土層柱状図・遺構平面図の作成は石川が行った。

凡　　例

第2図トレンチ位置図

凡例1			
	平成28年度 調査対象範囲		調査トレンチ (遺構検出)
	平成27年度以前 調査対象範囲		調査トレンチ (中世以前の遺物出土)
	調査トレンチ (遺構・遺物出土)		調査トレンチ (遺構・遺物なし)
凡例2			
	本調査必要範囲		判断保留範囲

目 次

第Ⅰ章 事業の概要

1 調査に至る経緯と体制	1
2 調査の概要	1

第Ⅱ章 調査の結果

1 一般国道7号朝日温海道路建設事業関係	4
「推定地8」ほか（村上市大須戸地区）試掘調査	
2 一般国道7号朝日温海道路建設事業関係	8
「推定地6」（村上市塩野町地区）試掘調査	
3 一般国道7号朝日温海道路建設事業関係	12
「推定地4」（村上市塩野町地区）試掘調査	
4 一般国道7号朝日温海道路建設事業関係	22
「周知1」「推定地1」（村上市桧原地区・猿沢地区）試掘・確認調査	
5 一般国道7号朝日温海道路建設事業関係	36
「推定地1」（村上市猿沢地区・川端地区）試掘調査	
6 一般国道7号栗ノ木道路関係	40
（新潟市笹口地区・鏡ヶ岡地区・長嶺町地区試掘調査）	
7 一般国道8号猪子場新田南地区・一つ屋敷新田地区事故対策事業関係	44
（三条市猪子場新田地区・一つ屋敷新田地区試掘調査）	
8 一般国道17号和南津改良事業関係（長岡市川口和南津地区試掘調査）	47
9 一般国道17号浦佐バイパス事業関係（魚沼市大浦地区・虫野地区試掘調査）	49
10 一般国道17号六日町バイパス事業関係（南魚沼市余川地区試掘調査）	56
11 一般国道17号五十嵐交差点入口事故対策事業関係（南魚沼市石打地区試掘調査）	60
12 一般国道8号九戸浜事故対策事業関係（上越市大潟区九戸浜～湯町地区試掘調査）	62

第Ⅰ章 事業の概要

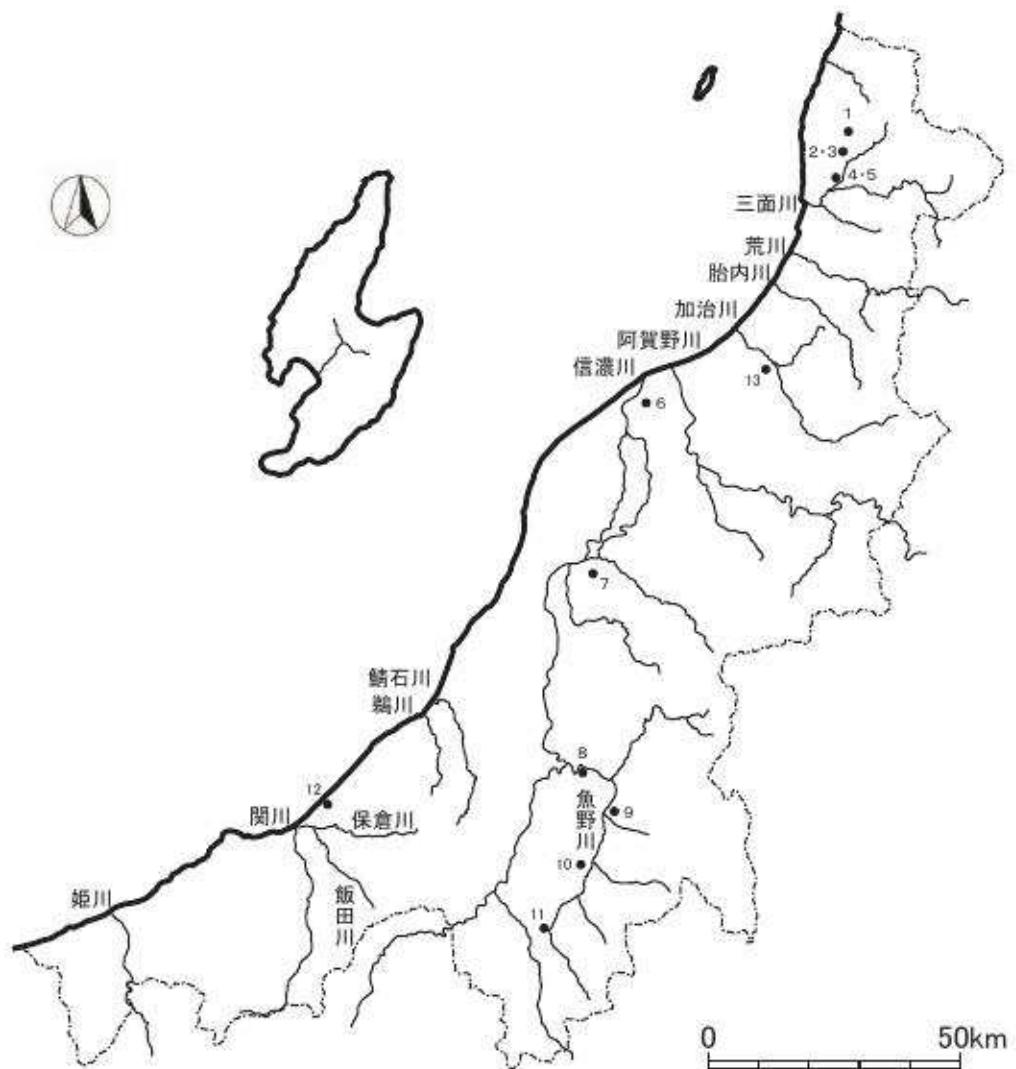
1 調査に至る経緯と体制

新潟県教育委員会（以下、県教委）では、文化庁国庫補助金（県内遺跡発掘調査等）を受けて、主に国土交通省及び東日本高速道路株式会社が所管する道路事業に伴う埋蔵文化財の事前調査（試掘・確認調査、詳細分布調査）を平成25年度から県教委が直営で行っている。調査に係る体制は以下のとおりである。

総括 牛腸 明（新潟県教育庁文化行政課長）
管理 斎藤 尚（新潟県教育庁文化行政課長補佐）
調査指導 滝沢 規朗（新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係長）
調査担当 石川 智紀（新潟県教育庁文化行政課専門調査員）
調査員 田中 祐樹（新潟県教育庁文化行政課文化財調査員）
工藤 祐大（新潟県教育庁文化行政課文化財調査員）
長谷川大旗（新潟県教育庁文化行政課文化財調査員）
牧野 耕作（新潟県教育庁文化行政課文化財調査員）

2 調査の概要

平成28年4月から平成29年3月までに行った調査は、第1・2表、調査か所は第1図のとおりである。ここでは試掘・確認調査の主な成果について述べる。



第1図 試掘・確認調査、分布調査位置図
※番号は第1・2表「位置番号」と一致する。

事業者名	調査種別	事業名	位置番号	所在地・地区名	調査期間	調査※1			調査結果			
						当初面積	実績面積	調査面積	本調査必要範囲	時代	遺跡名等	遺構面積
新潟国道	試掘	一般国道7号 朝日濱海道路	1	村上市大須戸 (推定地8)	5月16・17日、10 月11・12日	125,000	5,286	104	-			
	試掘		2	村上市塙野町 (推定地6)	10月13日～10月 27日		17,095	349	-			
	試掘		3	村上市塙野町 (推定地4)	10月28日～11月 24日		58,353	1,010				
	試掘確認		4	村上市棕原・猿沢 (周知1・推定地1)	7月26～29日、 10月4～7日、2 月27日～3月10 日		25,476	1,099	20,000m ² 以上	中世 縄文	◆上野	2
	試掘		5	村上市猿沢・川端 (推定地1)	5月18・19日、7 月4日		10,022	236				
	試掘	一般国道7号 栗ノ木道路	6	新潟市中央区笹口・競 が岡・長嶺町	5月27日、2月13 ～15日	360	3,074	113				
実施: 2件6か所						小計	125,360	119,306	2,911	-		
国土交通省	試掘	一般国道8号 猪子塙新田南地区 事故対策	7	三条市猪子塙新田	9月14・15日	1,487	1,575	52				
	試掘	一般国道8号 一ツ屋敷地区事故 対策		三条市一ツ屋敷新田	9月13・14日		2,286	845	50			
	試掘	一般国道8号 和南津改良	8	長岡市川口和南津	9月1・2日	4,000	2,685	100				
	試掘	一般国道17号 須佐バイパス	9	魚沼市大浦	6月20～24・27 日	11,800	12,300	376	※2			
	試掘	一般国道17号 六日町バイパス	10	南魚沼市余川	8月23～25日	4,100	4,100	209	16,810	平安 古墳	◆六日町 藤塚	1 2
	試掘	一般国道17号 五十嵐入口交差点 事故対策	11	南魚沼市石打	6月7・8日	971	970	49				
	実施: 6件5か所					小計	24,624	22,455	836			
	試掘	一般国道8号 九戸浜事故対策	12	上越市大潟区 九戸浜～潟町	7月7・8日、2月 3日	885	1,420	89				
	実施: 1件1か所					小計	885	1,420	89			
							143,181	3,838				

第1表 試掘・確認調査一覧

※1:「当初」は事業者からの要望対象面積、「実績」は取扱い判断をした面積、「調査」はトレーン面積を示す。

※2:杭列を1列検出。検出面より上位で珠洲焼1点出土するが、妙疊層中であり流れ込みの可能性が高い。杭の年代測定をして構築時期の参考資料を得る予定。

事業者名	調査種別	事業名	位置番号	所在地・地区名	調査期間	調査結果	
国土交通省	新潟国道	分布	一般国道7号 新発田拡幅	13	新発田市小舟街交差 点～三日市交差点	4月18日	小舟町～加治大橋間 試掘調査が必要
		分布	一般国道7号 栗ノ木道路	6	新潟市中央区栗ノ木 橋交差点～JR高架橋	12月19日	試掘調査が必要

第2表 分布調査一覧

第Ⅱ章 調査の結果

1 一般国道7号朝日温海道路建設事業関係

「推定地8」ほか（村上市大須戸地区）試掘調査

（1）立地

高根川の支流大須戸川右岸の河岸段丘上の山地に位置する。調査地点は、工事用道路造成に伴う試掘地点と道路本線部分に分かれる。前者は標高118.1～122.5mで、現況は林道・山林箇所である。道路工事により現耕作土の大半が削平されていた。後者は、標高112.2～112.7mで、現況は水田である。

（2）調査の概要

工事用道路造成箇所で8か所、本線部分で5か所のトレンチを設定した。本線部分は平成27年に北側隣接区を調査したが、遺構・遺物は検出できなかった。

深さは、前者が基盤層と考える黄褐色砂礫層を、後者も基盤となる砂礫層を目指とした。

（3）層序

工事用道路造成箇所と道路本線工事部分で基本層序が異なるため、以下では区分して記す。

【工事用道路造成箇所】

I a層 暗褐色～黒褐色土。表土。旧水田耕作土が腐葉土化したもの。

I b層 褐灰～褐色粘質シルト。旧水田床土。

II層 暗褐～黒褐色土。水田造成前の旧表土。中疊も含む。

III a層 黄褐～黄灰色砂質シルト。基盤層。小疊含む。

III b層 黄褐色砂礫。基盤層。小～中疊多く含む。

【道路本線部分】

I a層 暗褐色土。現水田耕作土。

I b層 暗灰～暗褐色土。床土又は旧耕作土。

II a層 灰色砂礫。I a層上の砂礫層で、洪水等による自然堆積層

II b層 暗褐色土。小～中疊を含む。圃場整備などによる盛土又はII a層と同じ自然堆積層。

III層 黒褐色～暗灰色シルト。圃場整備以前の旧耕作土。

IV a層 灰白色粘質シルト。

IV b層 暗灰色粘質シルト。IV a層の内、黒色が強い層。1Tのみで検出。

IV c層 灰白色粘質シルト。IV a層に似るが、砂礫が含まれる層。9Tのみで検出。

V a層 暗褐色～にぶい黄褐色シルト+砂礫。砂礫層の内、土が比較的多く含まれる層を一括した。

V b層 黄褐色～灰色砂礫層。

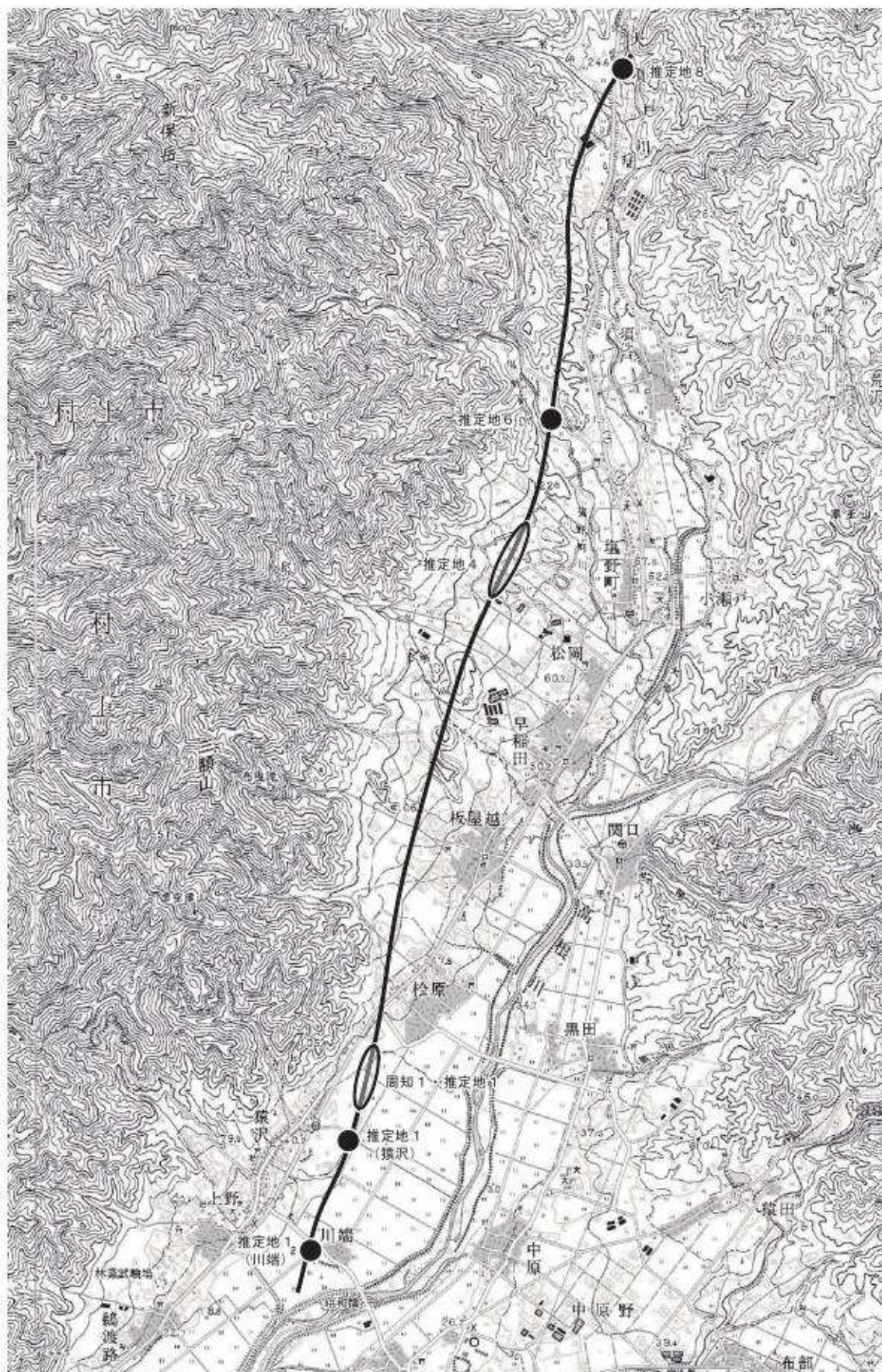
VI層 暗黄褐色細砂層。7Tのみで検出。

（4）遺構・遺物

なし。

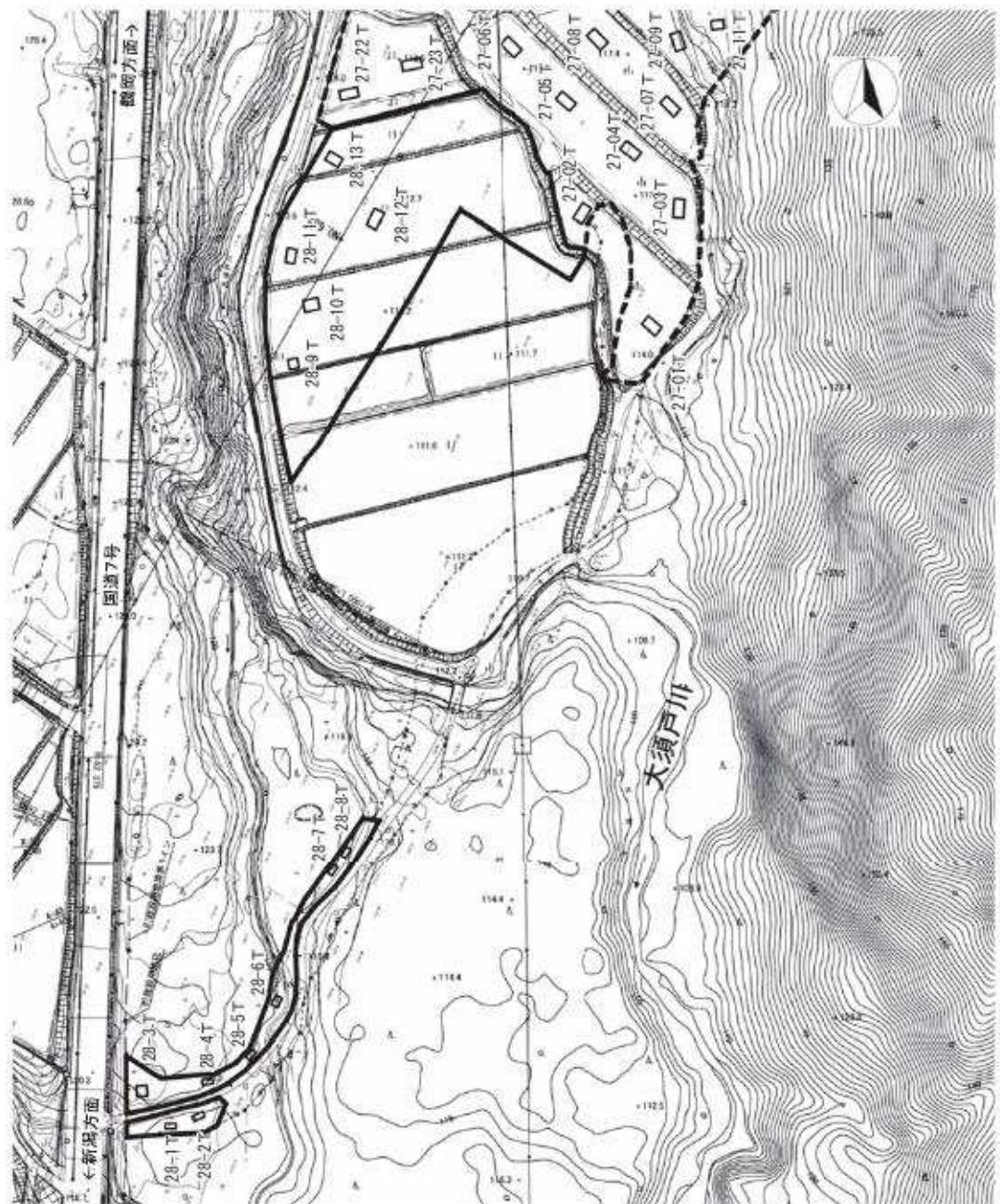
（5）調査の結果と取扱い

調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。対象範囲の本発掘調査は不要と判断する。



第1図 朝日温泉道路と調査位置図 (1 : 50,000)

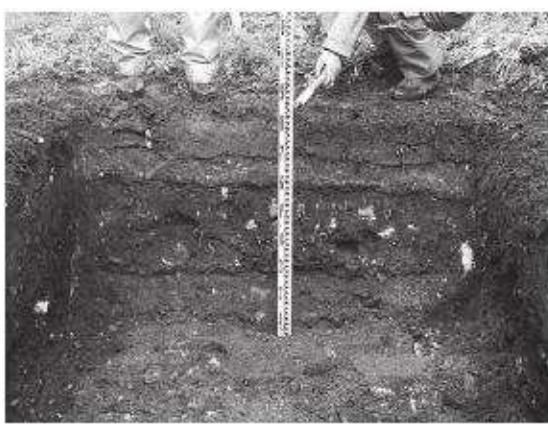
(国土地理院「坂野町」1:50,000原図 平成元年発行)



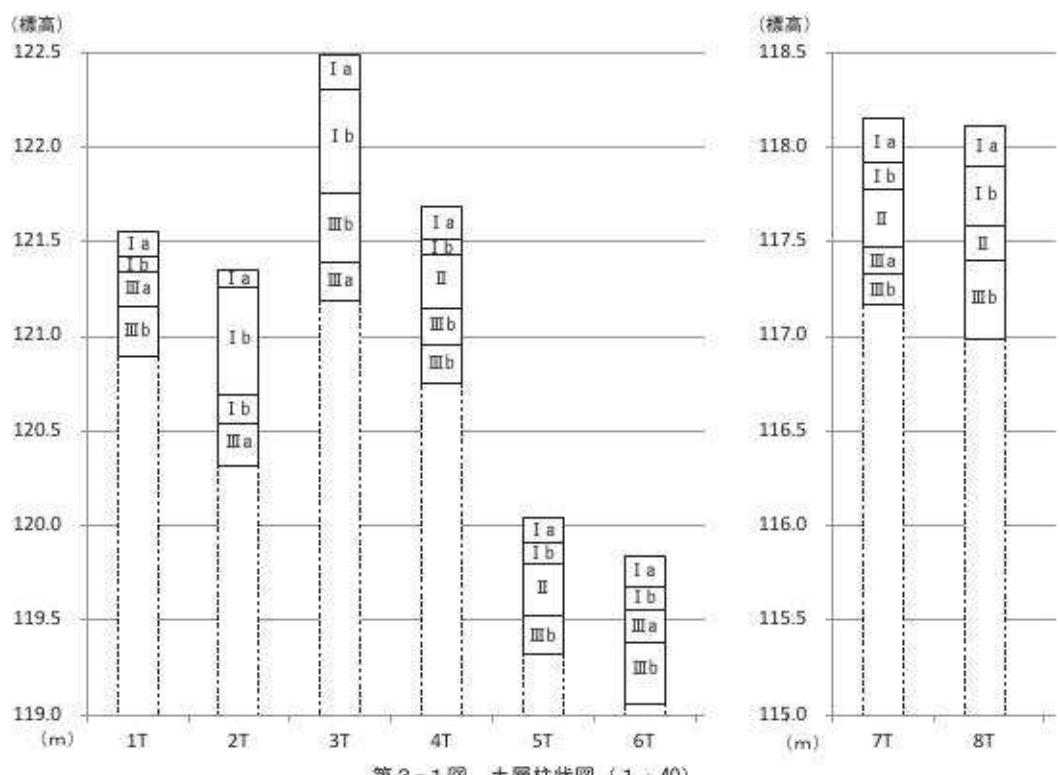
第2図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



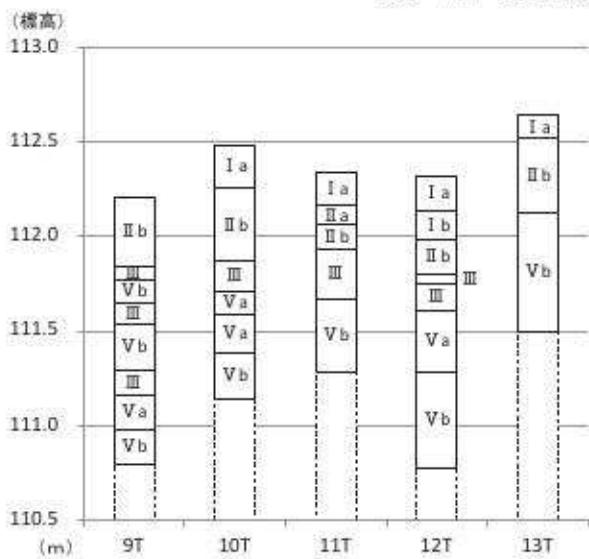
第4図 工事用道路全景 (南から)



第5図 5T土層断面 (北から)



第3-1図 土層柱状図（1:40）



第3-2図 土層柱状図（1:40）



第6図 道路本線部分全景（北東から）



第7図 12T土層断面（北西から）

2 一般国道7号朝日温海道路建設事業関係

「推定地6」(村上市塩野町地区) 試掘調査

(1) 立 地

塩野町川左岸の河岸段丘上に位置し、地形は段状に水田が形成される。標高は87.3m～93.1m前後で、現況は水田である。

(2) 調査の概要

29か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。深さは、基盤層と考える砂礫混じりのIV層の掘削を目途とした。

(3) 層 序

I層 表土・現耕作土と考える層を一括した。

I a層 褐色～暗褐色土。表土及び耕作土。

I b層 暗褐色砂質シルト。しまり強、小礫含む。

II層 園場整備及び旧耕作土に伴うものと考える層を一括した。

II a層 暗緑灰～暗灰色砂質シルト。砂と小礫を含む。

II b層 暗灰色シルト。

II c層 暗褐色シルト。

II d層 緑灰色砂。

III層 河川由来の層を一括した。

III a層 褐色砂礫。

III b層 灰白色～黄灰色砂質シルト。

III c層 明灰色粘質シルト。

III d層 灰褐色～褐色砂質土。

III e層 黄褐色砂。

III f層 明白色シルト主体。細砂との互層。

IV層 III層以下の砂礫を主体とした層をまとめた。

IV a層 青灰～褐色砂礫。

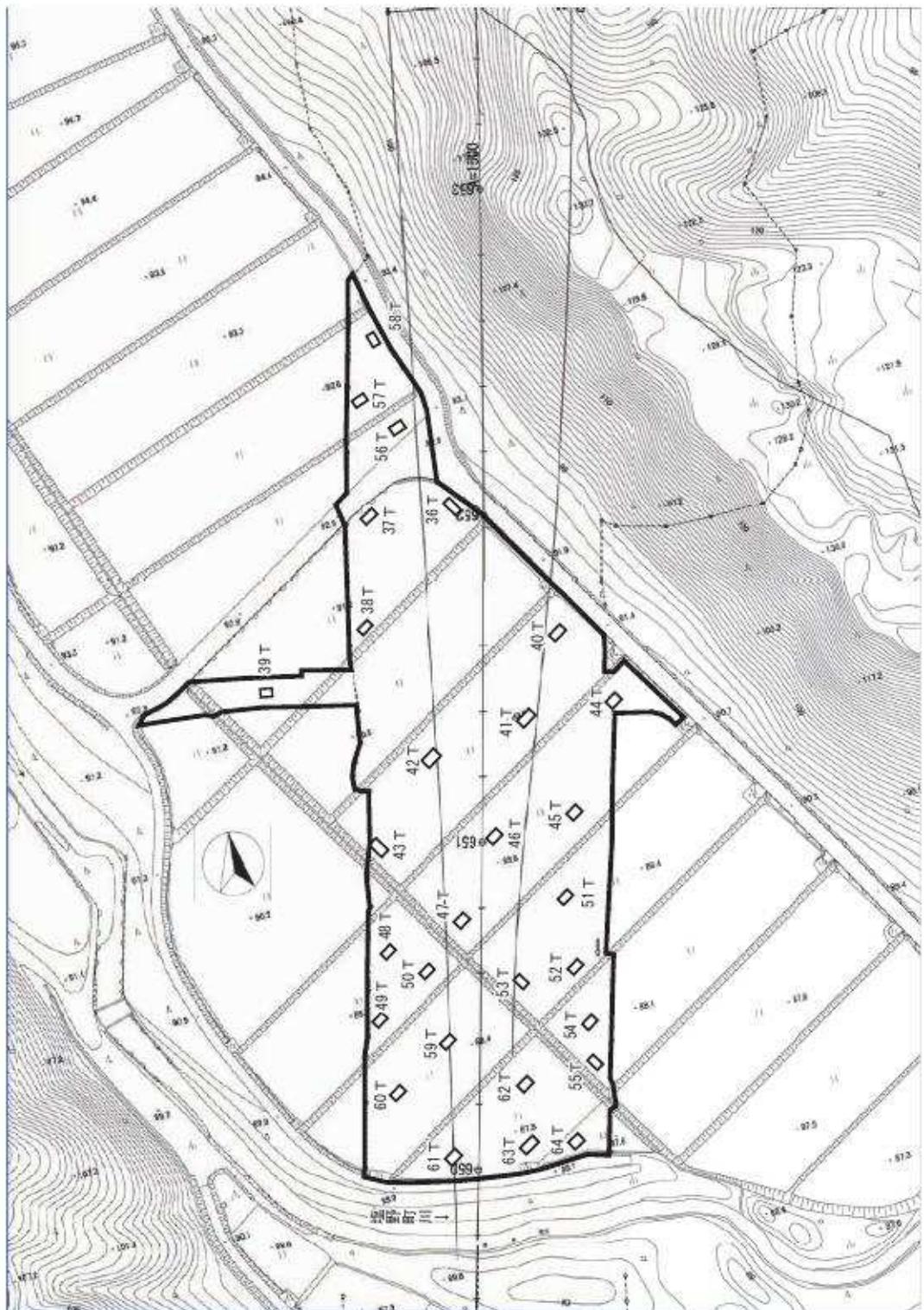
IV b層 砂礫主体。砂とシルトの互層を含む。

(4) 遺構・遺物

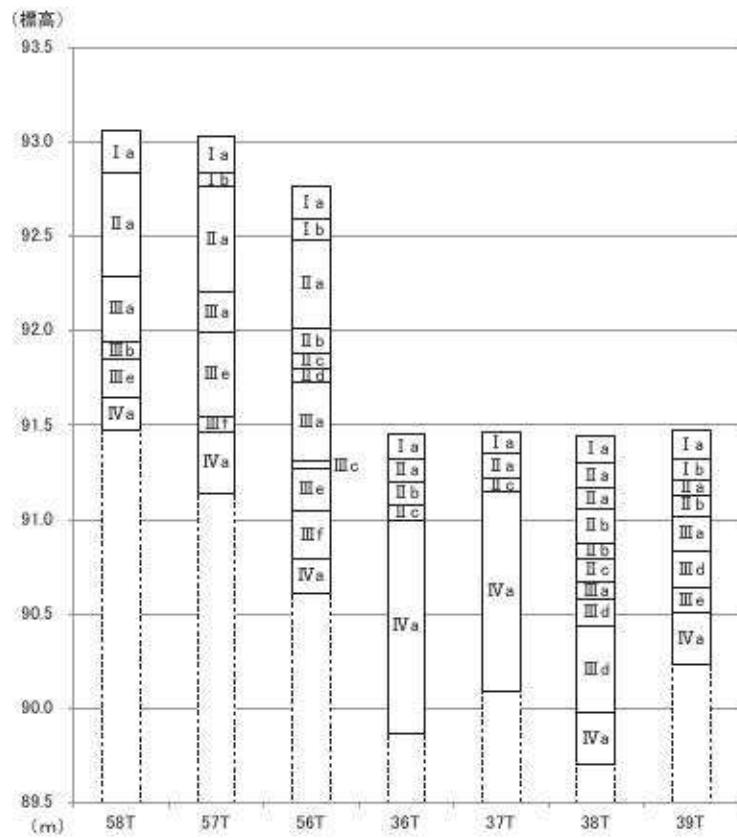
なし。

(5) 調査の結果と取扱い

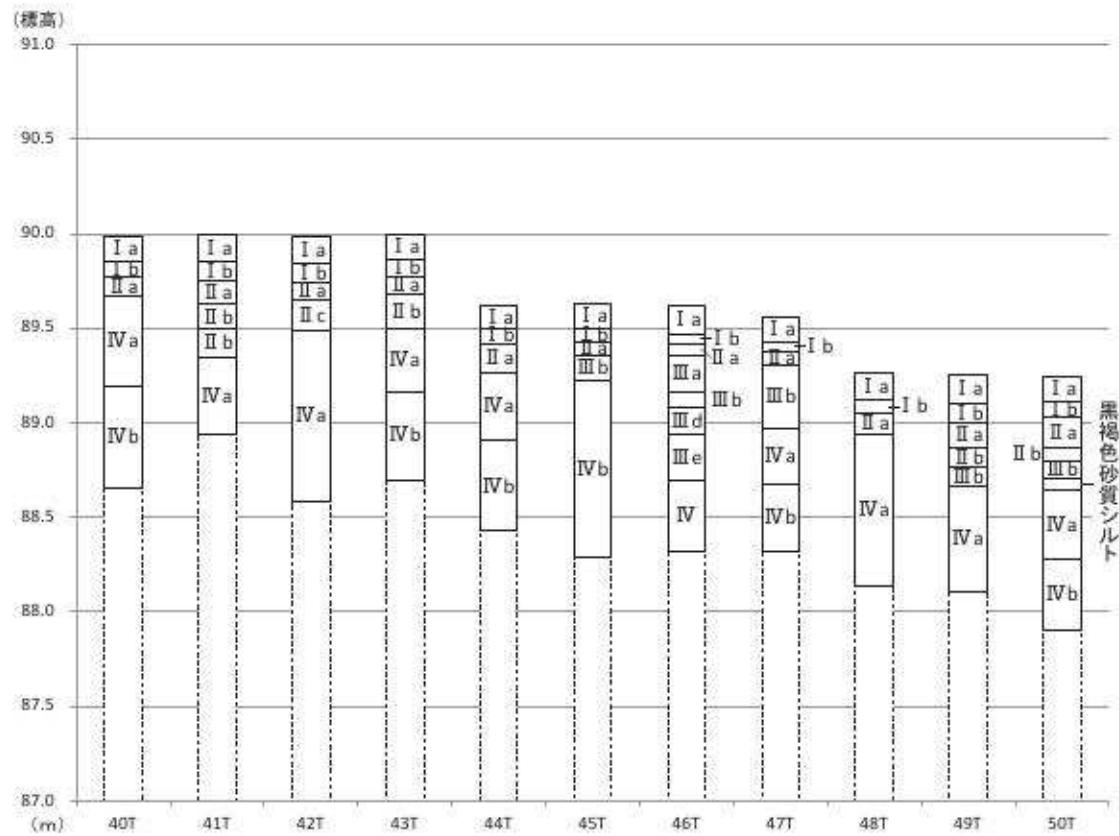
調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



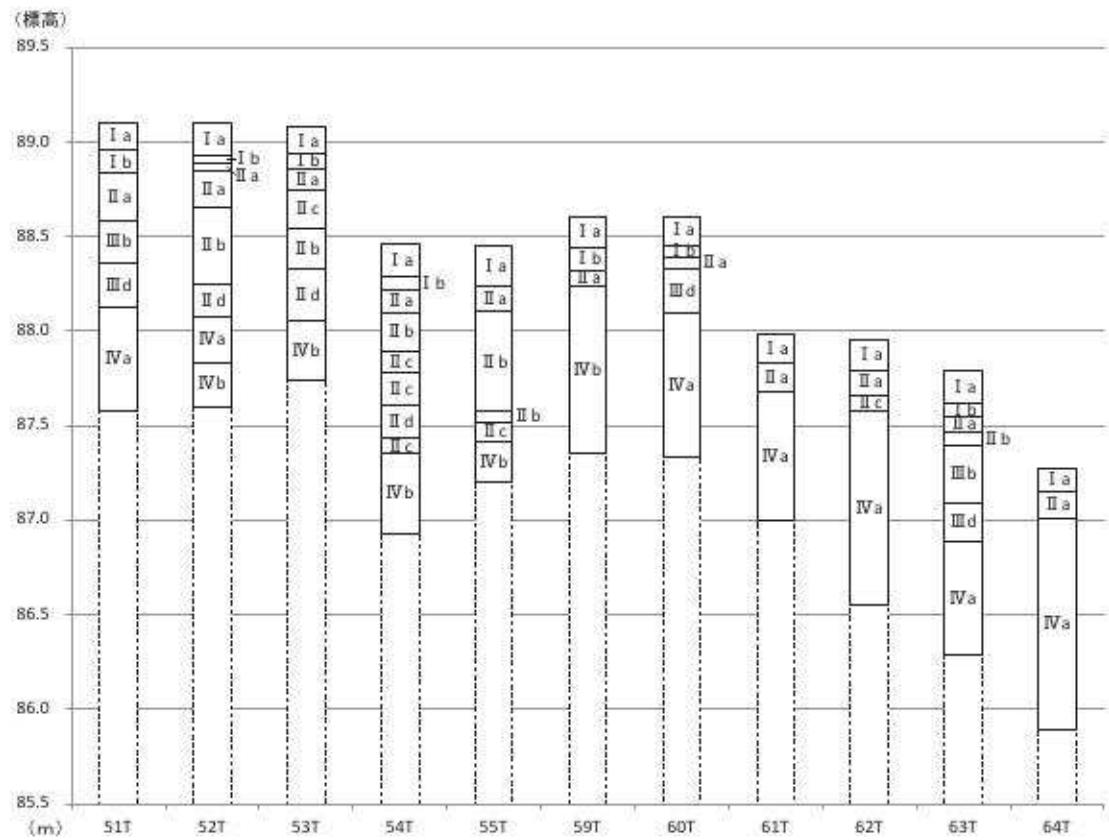
第2図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



第3-1図 土層柱状図 (1 : 40)



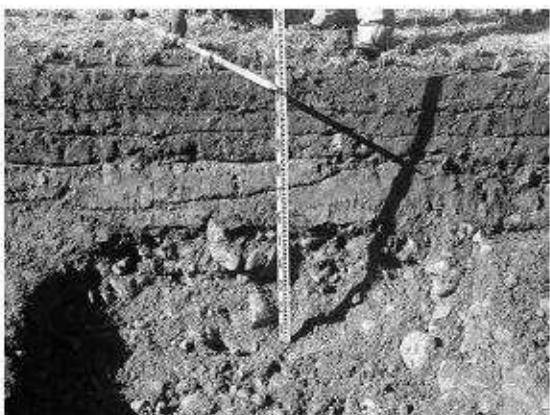
第3-2図 土層柱状図 (1 : 40)



第3-3図 土層柱状図 (1 : 40)



第4図 全景（南から）



第5図 41T 土層断面（南から）



第6図 58T 土層断面（西から）



第7図 63T 土層断面（南から）

3 一般国道7号朝日温海道路建設事業関係

「推定地4」(村上市塩野町地区) 試掘調査

(1) 立 地

丘陵裾部に位置し、いくつかの小谷によって形成された氾濫原と考える。標高は93.3m～80.5m前後で、北東から南西部では13mの高低差がある。現況は水田である。

(2) 調査の概要

57か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。深さは、基盤層と考える砂礫混じりのIV層の掘削を目途とした。

(3) 層 序

I層 表土・現耕作土・圃場整備に伴うものと考える層を一括した。

I a層 褐色～暗褐色土。表土及び耕作土。

I b層 褐色～暗褐色土。床土、小礫を含む。

I c層 暗褐色～褐色砂質土。圃場整備に伴う土及び盛土。

II層 腐植物をあまり含まないシルト系の自然堆積層を一括した。間層に礫を挟む場合がある。

II a層 黒褐色～青灰色砂質シルト主体。腐植物・小礫混じる。

II b層 青灰色～褐色砂礫層。

II c層 青灰色砂質土主体。砂とシルトの互層。

II c'層 暗青灰色シルト主体。砂を含む互層で部分的に腐植物及び粘質シルトが混じる。

III層 腐植物を含む水成堆積と考える粘質シルト層である。97T付近では流倒木などが確認できた。

III a層 暗褐灰色～青(緑)灰色粘質シルト。部分的に腐植物を含む。

III b層 黒色腐植粘質シルト。いわゆるガツボ層。

III c層 暗青灰色～褐灰色粘質シルト主体。砂質シルトとの互層で部分的に腐植物が混じる。

IV層 III層直下の層で砂礫層及び細砂や砂の互層を含むものを一括した。

IV a層 暗青灰色～緑灰色の砂質シルト主体。部分的に砂、腐植物、中礫を含む。

IV b層 青灰色～褐灰色砂主体。細砂との互層。

IV c層 砂礫層(酸化物を含む)。

V層 砂質土層及び砂礫層以下の粘質土層を一括

した。

V a層 青灰粘質シルト～粘質土層。

V b層 暗灰色～灰白粘質土層。

(4) 遺構・遺物

なし。

(5) 調査の結果と取扱い

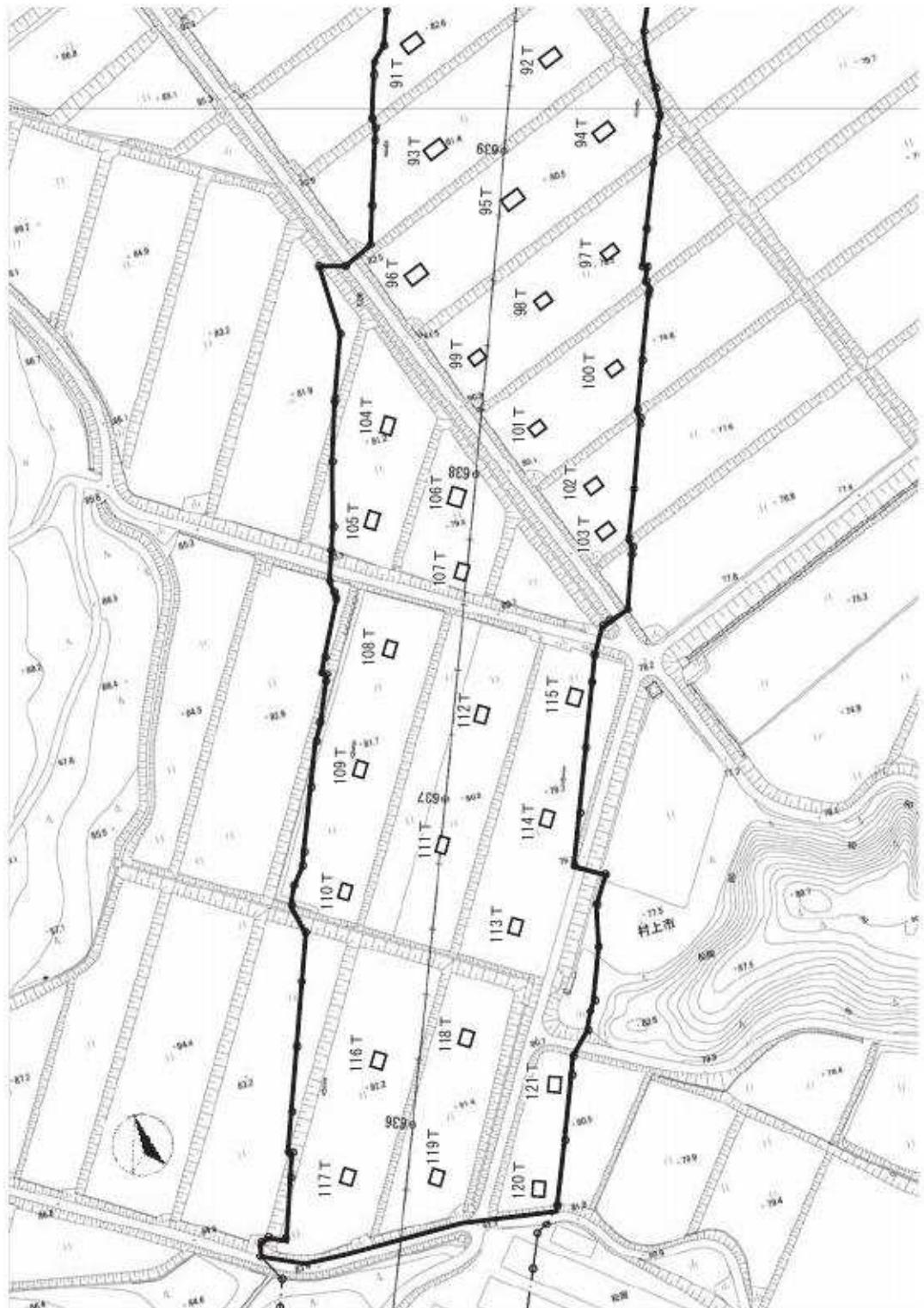
調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



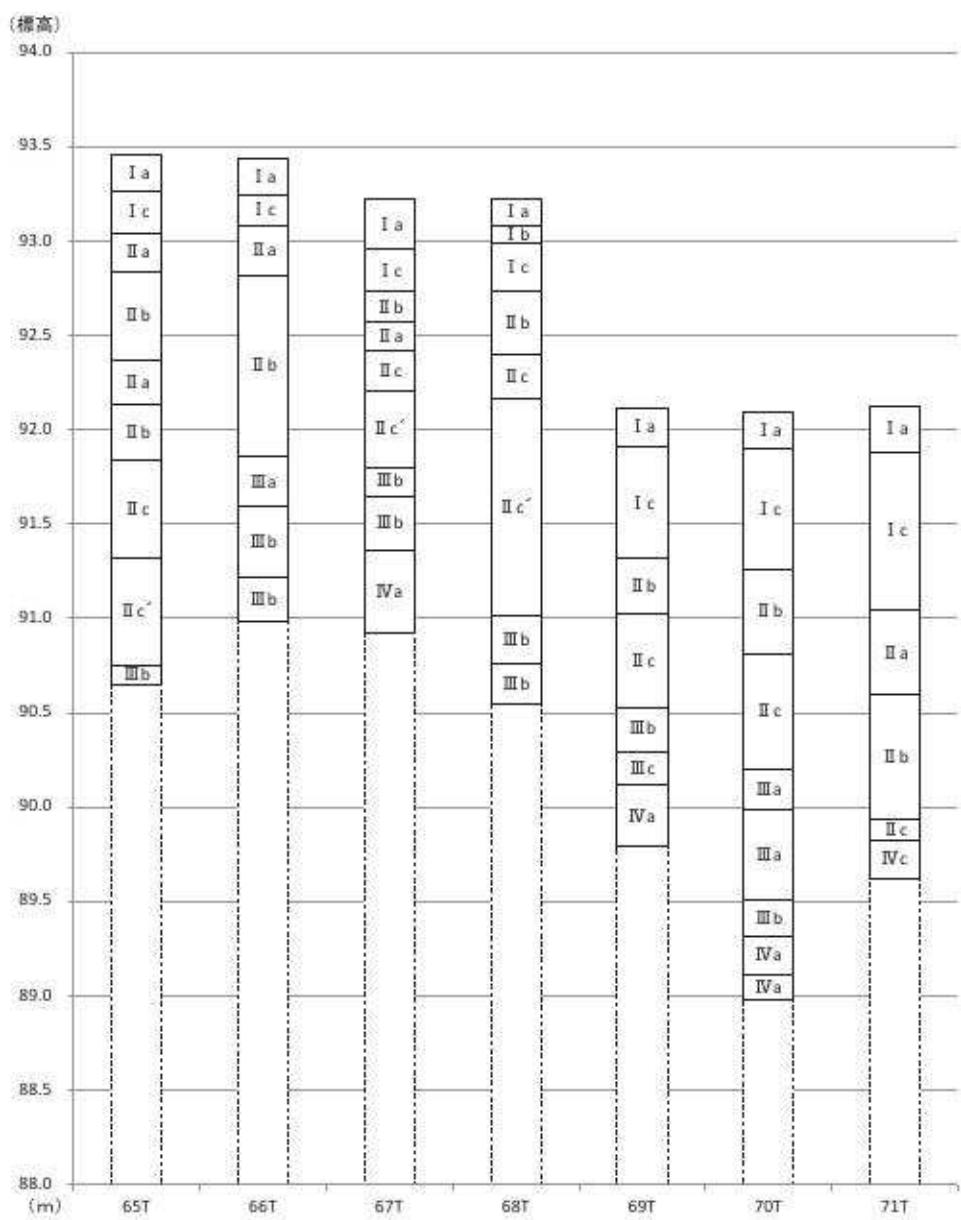
第4図 全景(南から)



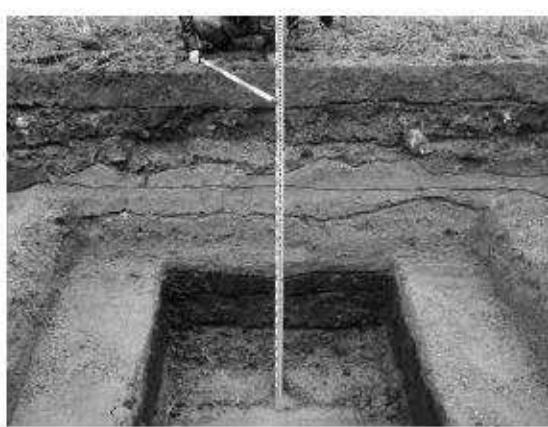
第2-1図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



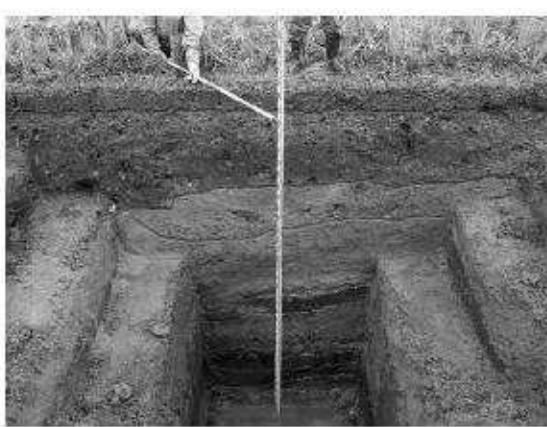
第2-2図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



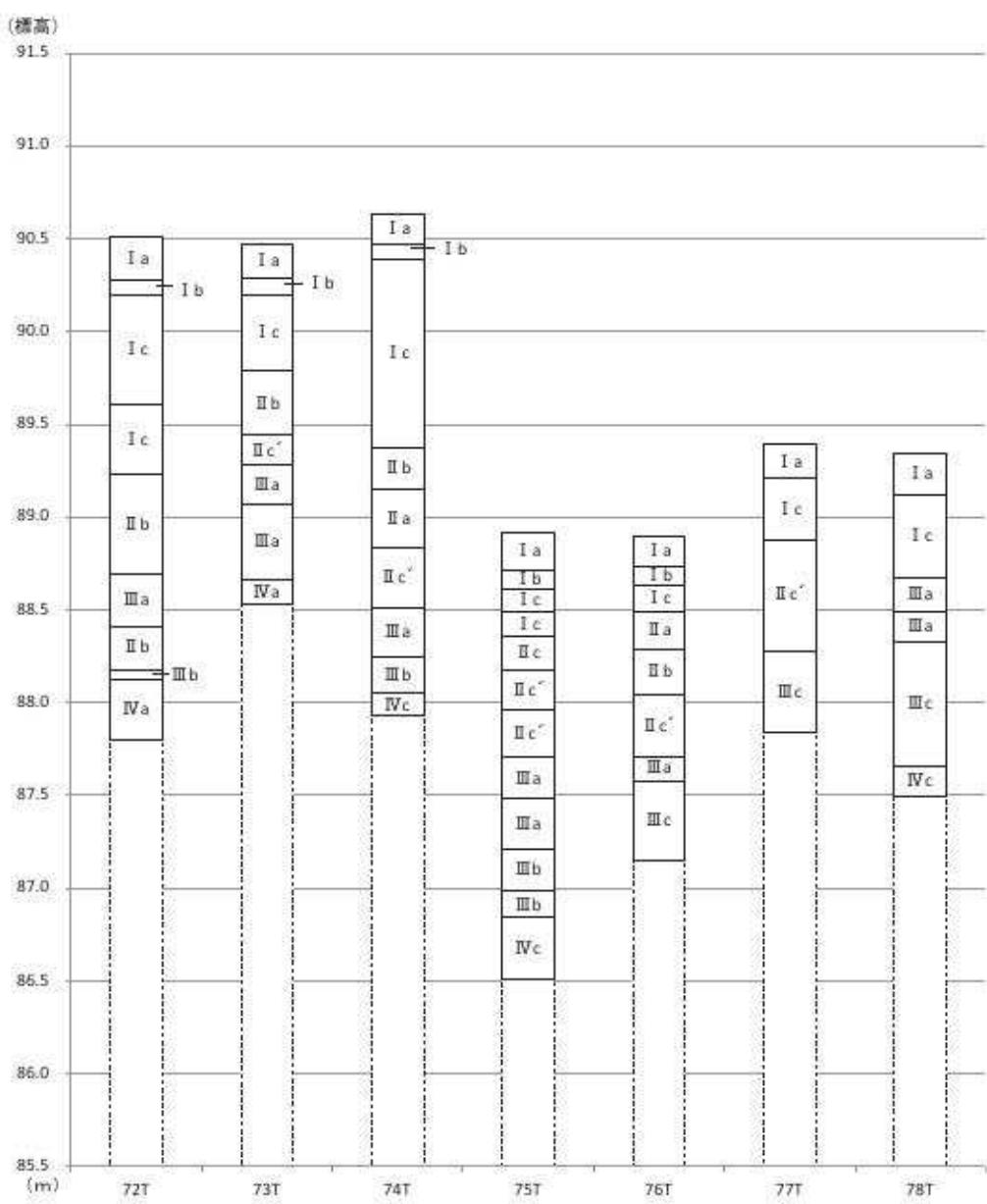
第3-1図 土層柱状図 (1 : 40)



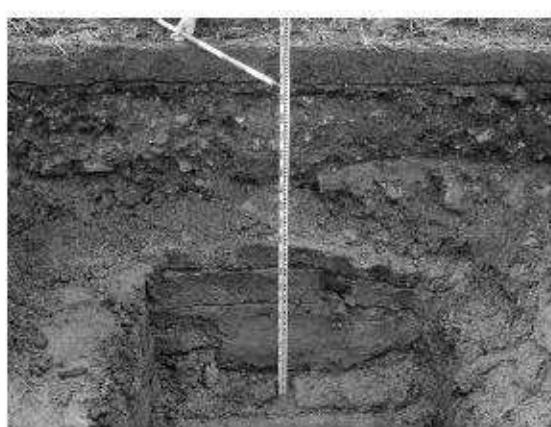
第5図 67T 土層断面（南から）



第6図 70T 土層断面（北から）



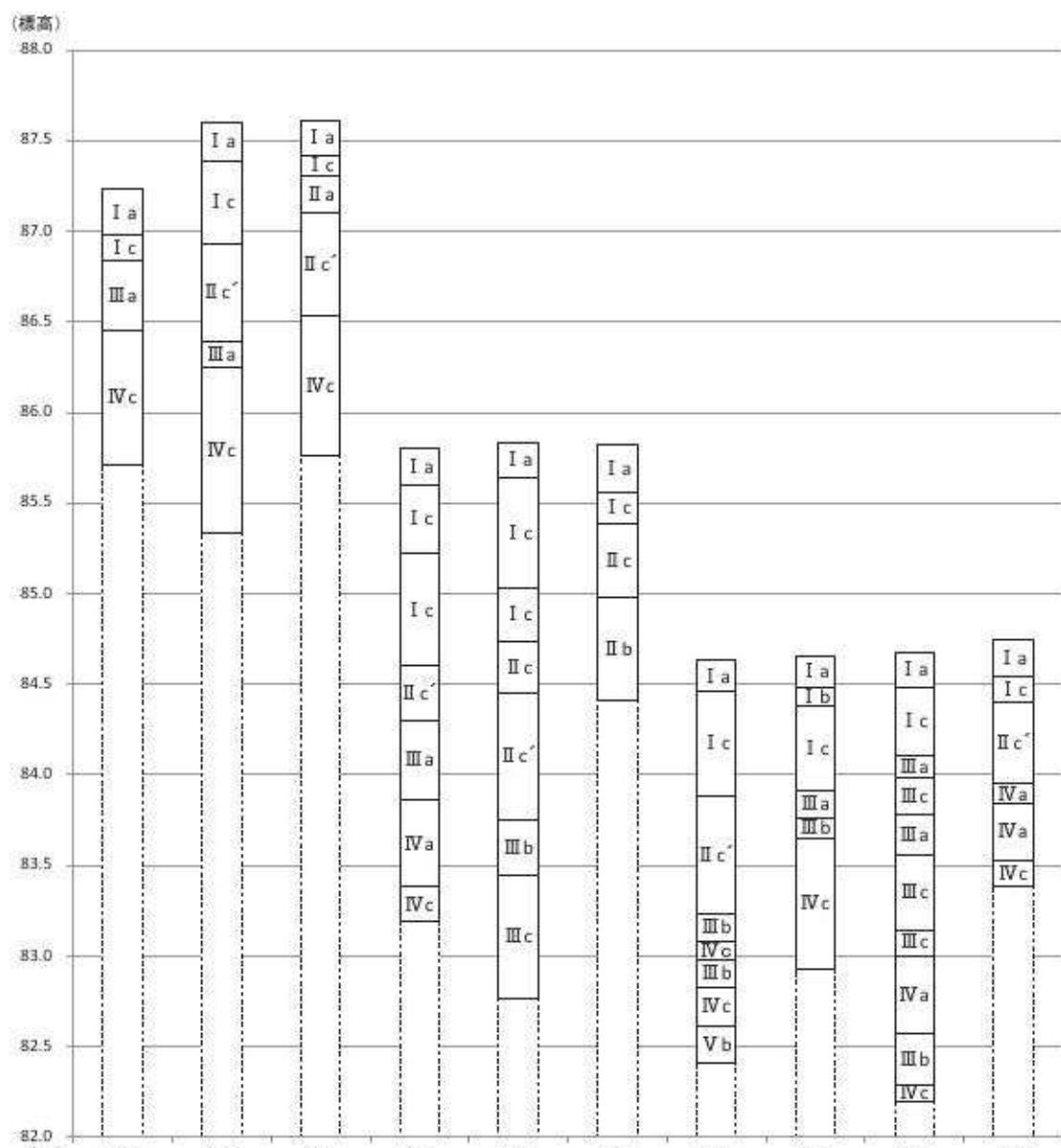
第3-2図 土層柱状図 (1 : 40)



第7図 73T 土層断面 (北から)



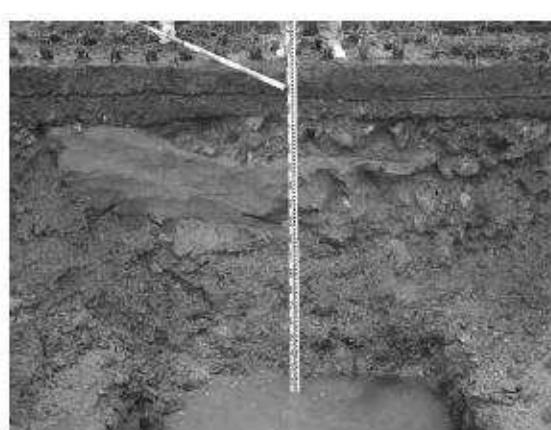
第8図 75T 土層断面 (北から)



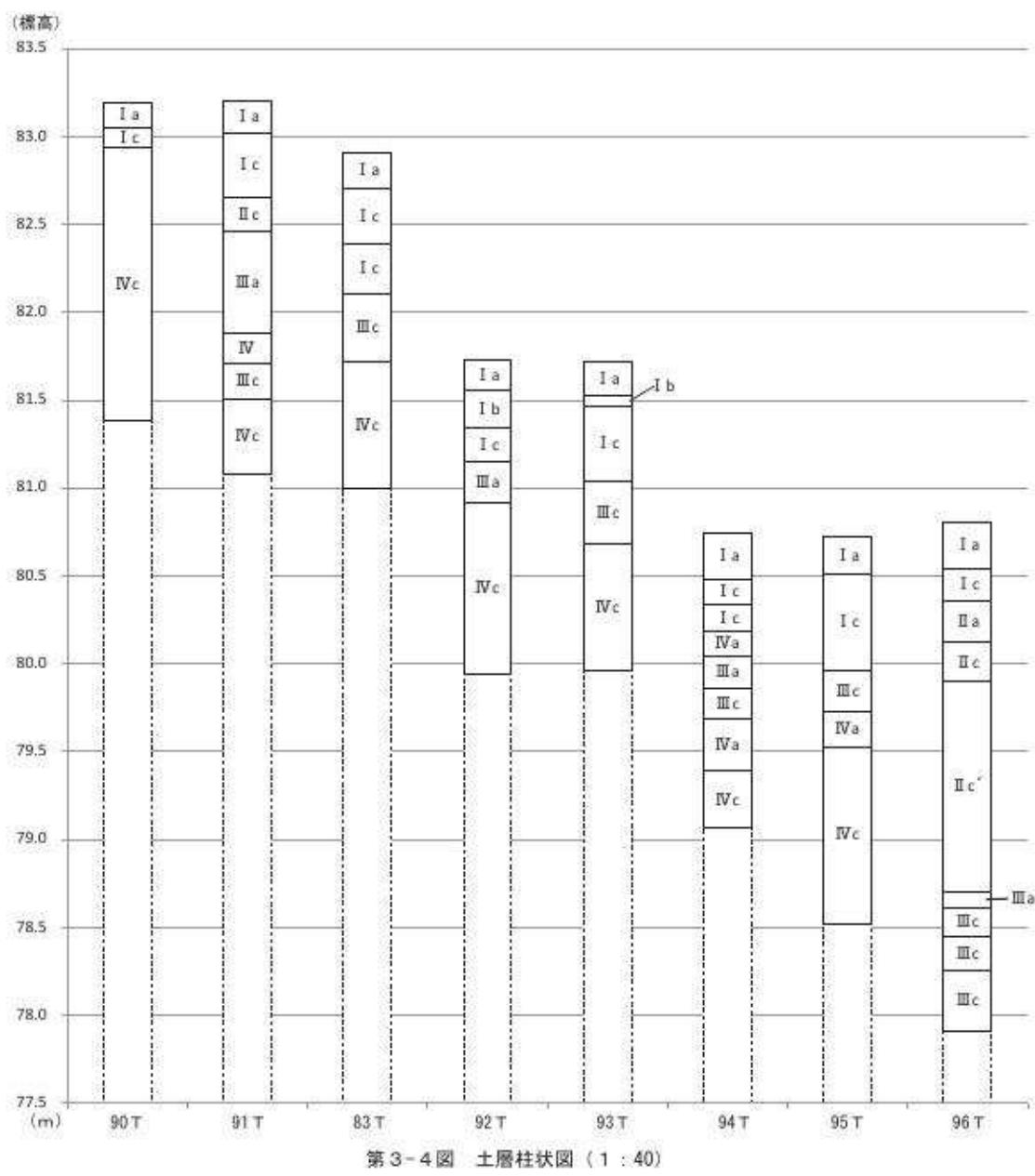
第3-3図 土層柱状図 (1 : 40)

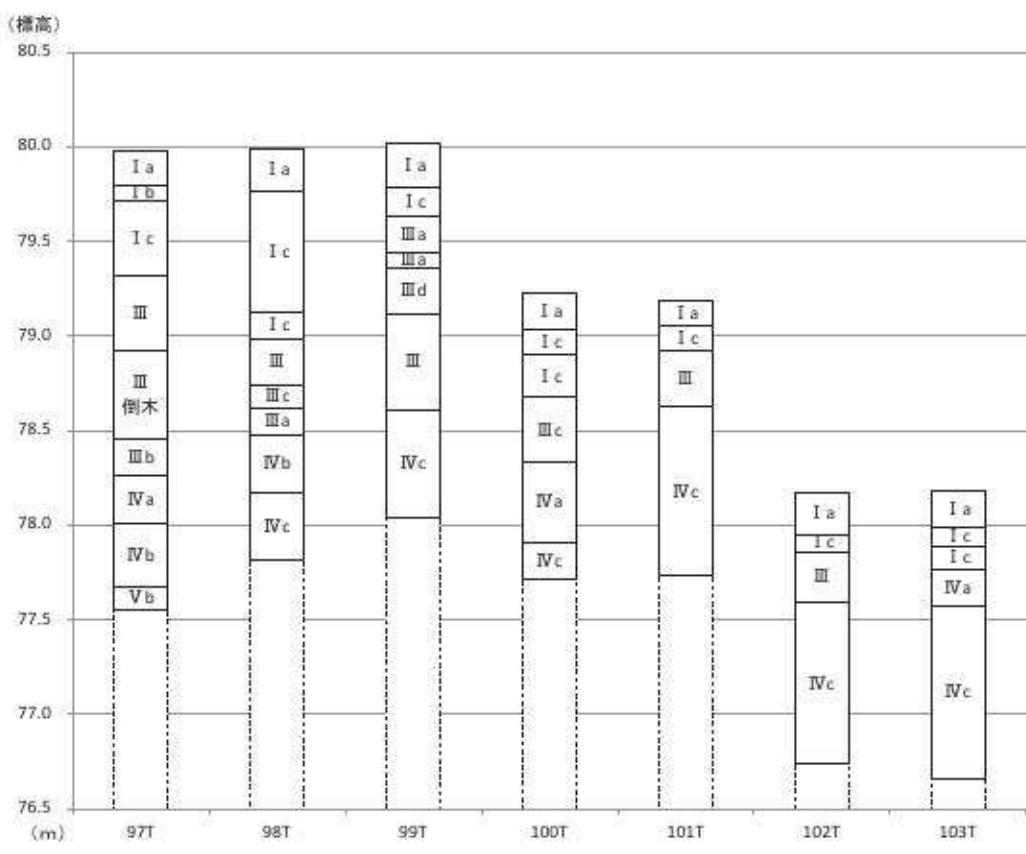


第9図 88T 土層断面（南から）



第10図 85T 土層断面（北から）

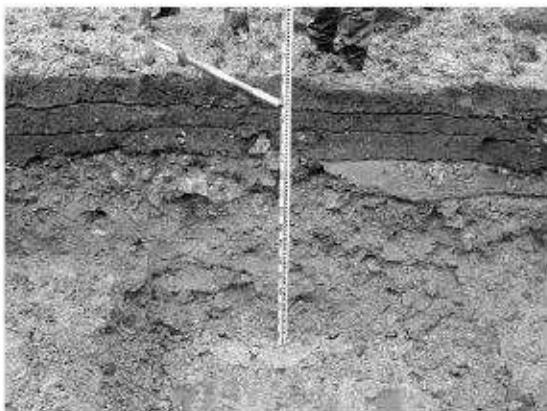




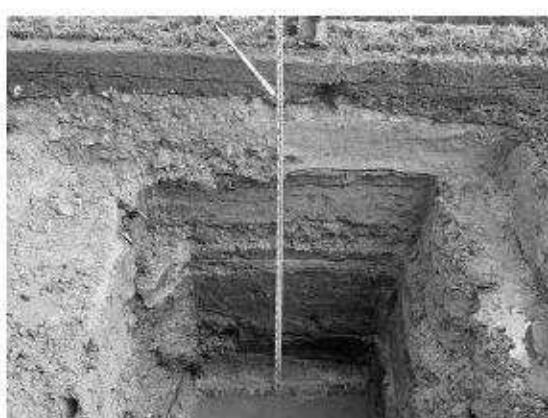
第3-5図 土層柱状図 (1 : 40)



第13図 97T 土層断面 (北から)



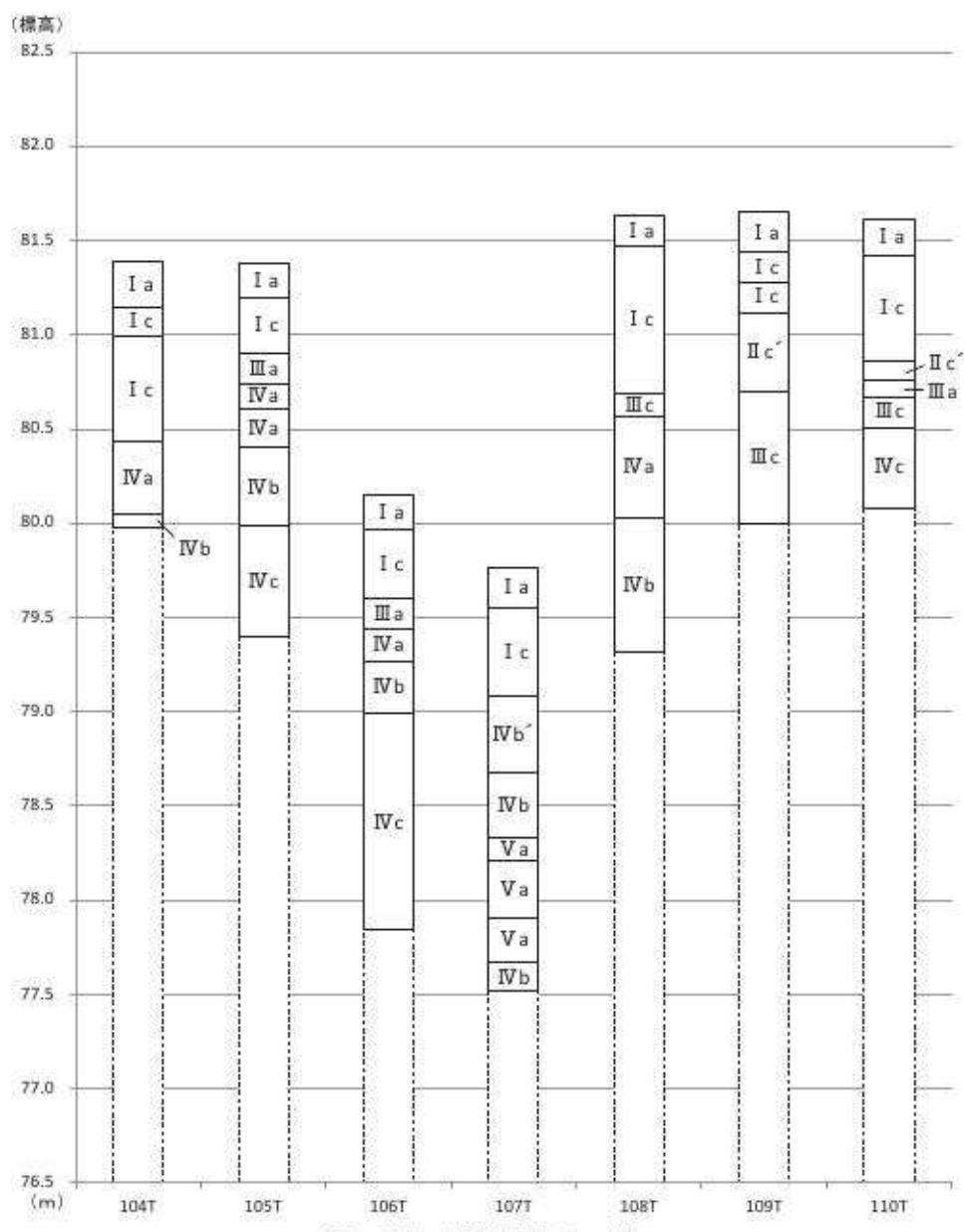
第14図 103T 土層断面 (北から)



第15図 113T 土層断面 (北西から)



第16図 119T 土層断面 (西から)



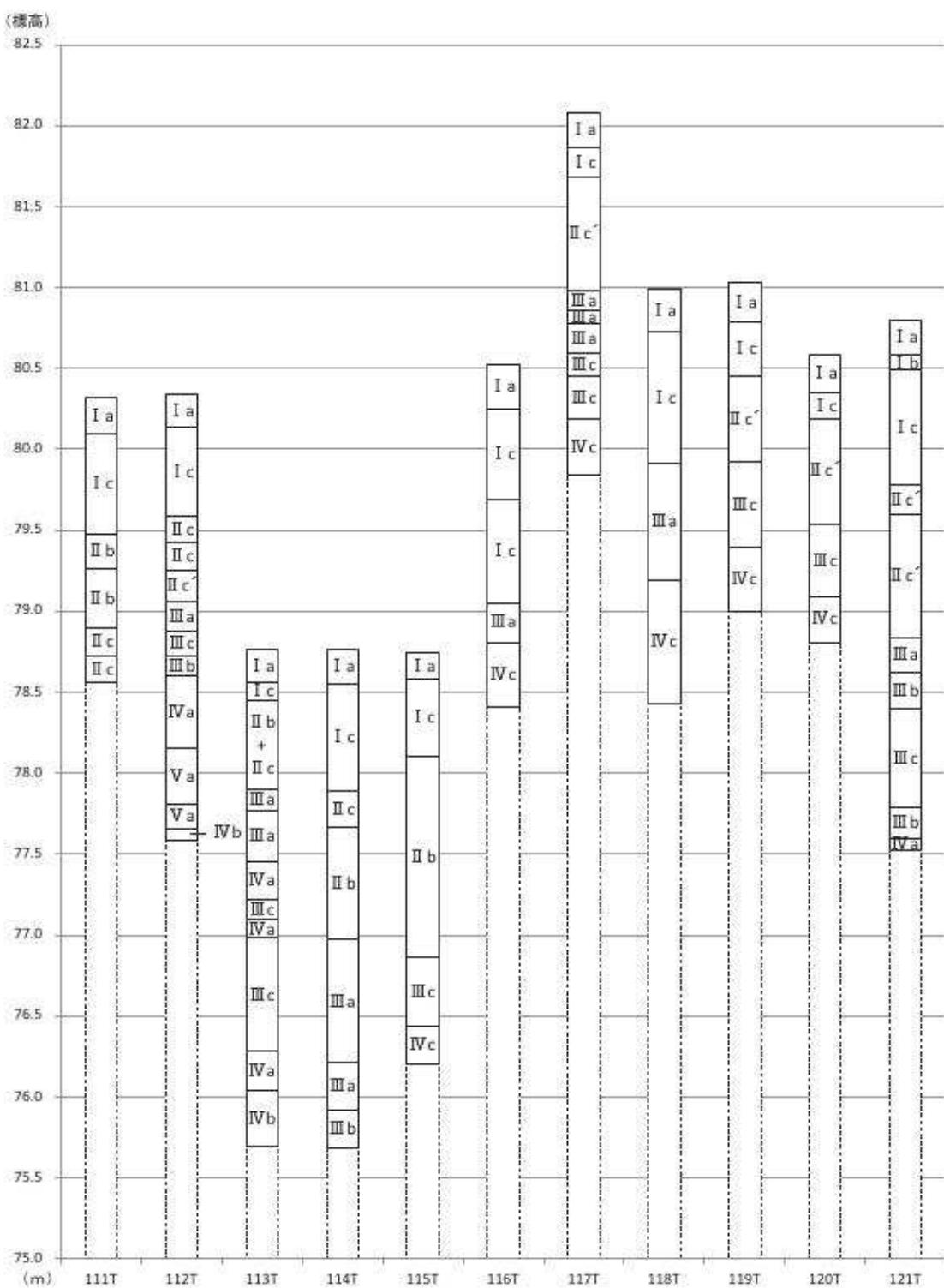
第3-6図 土層柱状図 (1 : 40)



第17図 105T 土層断面 (北西から)



第18図 110T 土層断面 (北西から)



第3-7図 土層柱状図(1:40)

4 一般国道7号朝日温海道路建設事業関係

「周知1」「推定地1」(村上市桧原地区・猿沢地区)

試掘・確認調査

(1) 立 地

高根川右岸で、周知1が丘陵裾部、推定地1は水田部からなる。周知1では丘陵が崩壊したと考える土砂が厚く堆積して形成されている。推定地1の水田部は、丘陵裾部～高根川間に広がる。地形は西側の丘陵裾部から、東側の水田部に向かってなだらかに標高が下る。周知1は標高約28.7m～37.2mと北西側が高くなる。推定地1は28.5m前後で、現況は畑地・水田・雑林となっている。

(2) 調査の概要

47か所のトレンチで試掘・確認調査を行なった。平成27年度のトレンチ位置を考慮し、判断保留範囲及び未調査区を判断できるようにトレンチを設定した。深さは河川堆積由來の砂礫層であるIX層を目途とした。

(3) 層 序

対象範囲の堆積状況は、色調・土質とともに平成27年度の調査区に近接することから、大別層は平成27年度調査成果に対応させ、適宜細別層を追加した。下記はその各層のおおまかな傾向であるが、今回検出できなかった層は除いている。

I層 表土・耕作土・圃場整備に伴うものと考える層。

I a層 暗褐色～黒褐色土。表土及び現耕作土。

I b層 暗褐～暗灰色土（圃場整備時の盛土及び旧表土や旧耕作土）。

I c層 暗黄褐～暗灰色シルト・粘質シルト（水田部で検出した圃場前の旧耕作土）。

II層 丘陵由來の層を一括した。丘陵を形成する花崗岩が風化崩壊し、土砂（真砂土）となり丘陵裾に厚く堆積している。土・シルトが比較的多い層と、砂礫が主体となる層があり、複数回に渡って堆積した層と考える。縄文時代の遺物もこの層中に含まれる。各層で互層を呈する場合は、「II ac」層と標記した。

II a層 黄褐色シルト主体。II b層より上に堆積する層で、比較的均質である。

II b層 灰白色砂礫主体。小～中礫が多い。土石流のような二次堆積層と考える。

II c層 黄褐～褐色シルト主体。シルトの割合が高くII a層と似るが、小砂礫が混じる場合が多い。

II d層 暗褐～黒褐色シルト。II層内に存在する黒色系のシルト層。安定した時期に堆積した旧表土層の可能性がある。

III層 灰白～明緑灰色粘質シルト。水成堆積と考える粘質シルト層。本来はIV層で、上層（I層）の影響を受けて変質した層の可能性がある。

IV層 褐色または灰白～黄灰色を呈する層。丘陵裾部で褐色系、水田部で灰白色系を呈する。水成堆積層と考える。

IV a層 シルト層が主体となる層。

IV b 層 砂質シルト層が主体となる層。

IV c 層 細砂・砂礫層が主体となる層。

IV d 層 粘質シルト層が主体となる層。

V層 明青灰色～青灰色粘質シルト主体。薄い層状の砂質シルトと互層を呈する。粘性が非常に強い層がある。水成堆積層。

VII層 灰色砂質シルト主体。細砂層も含み、小礫が混じる場合もある。粘質シルトと互層を呈する層で、IX層の直上で検出される地点も多い)。当該地では黄褐色系を呈する。

VII a 層 砂質をほとんど含まないシルト層。

VII b 層 細砂・小礫と互層を呈する。

VIII層 暗灰・灰・暗青灰～暗緑灰色粘質シルト・シルト主体。VII層以下の暗灰色系で、砂礫層が検出できる層までを一括した。粘性が無くて固く締まる地点、砂質シルトと互層を呈する地点、腐植物が多く黒褐色を呈する層が存在する地点がある。

IX層 河川堆積由来の砂礫層。

IX a 層 褐色～褐色砂礫層。IX層の中でもマンガンを多く含む。遺物が含まれる層を一括した。

IX b 層 灰色砂礫層。河川堆積層で、細砂・砂質シルトも含む。丘陵砂礫と異なり、礫の角は丸い。

(4) 遺構・遺物

遺構は検出されなかったが、遺物は合計22トレンチから、珠洲焼・中世陶器、銭貨、縄文土器・石器が出土した。出土トレンチ、層位の詳細は別表の通り。

珠洲焼・中世陶器は6トレンチ(15・18・21・22・127・129T)から出土した。出土層位はI b 層、旧表土・旧耕作土層を中心である。銭貨は135Tの表土から1点出土した。「熙寧元寶」(きねいげんぽう)の篆書体で、初鋳年は1068年である。

縄文土器は、15トレンチ(23・24・28・31・33・128・131・134・135・136・137・139・141～144T)から、合計で7606.4g出土した。縄文土器の時期は、縄文時代後期前葉(南三十稻場式期)を中心に、後期後葉(縮付土器期)がわずかに混じる。

石器は2トレンチ(139・144T)から3点出土した。いずれも剥片である。縄文時代の遺物は、丘陵由来と考える層(II層)から出土した。II層の大部分は、礫が混じる層や、水平堆積していない層であることから、通常の遺物包含層とは言い難い。遺跡本体を削平しての大規模な流れ込み、斜面部への意図的な廃棄(土器捨場)遺物の移動等、二次堆積遺物包含層と考える。二次堆積遺物包含層は、杭No.592+80付近まで抜がっていることが、今回の調査で確認できた。上野遺跡の本体は平成27年度に遺構を検出し、遺物を多量に出土した杭No.596+80以北である可能性が高い。

(5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、中世の遺物(珠洲焼・中世陶器)が希薄ながらも出土する範囲を確認した。原位置を保った層位からの出土では無いが、近隣に中世の遺跡が存在する可能性がある。よって、未調査区を含む杭No.591+70～No.592+60間は判断保留範囲とし、今後の試掘調査の結果で判断する。

縄文時代の遺物は、杭No.592+80以北のII層から出土した。二次堆積遺物包含層の可能性が高い。II層は一時的・短期間での堆積では無く、複数回の堆積が認められるので、今後遺構が検出できる可能性もある。平成27年度の調査成果と併せて判断すると、遺構が検出できる範囲と遺物が一定量まとめて出土する範囲、杭No.594+40～No.597+60間は上野(かみの)遺跡として本発掘調査が必要である。

トレンチ	上から の層順	出土 層位	出土遺物種別								備考	
			縄文土器		中世鉢器(珠洲)		中世陶器		その他			
			点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	種別	点数	重量(g)	
H28-15T	3	I b			1	48.0	1	38.0				越前焼
H28-18T	1	I a			1	32.0						
H28-21T	2	I b			1	88.0						
H28-22T	2	I a			1	54.0						
H28-23T	4	II a	1	18.0								
H28-24T	5・6	II d		175.0								
	7	II b		382.0								
表採					1	46.0						No.591+20付近
H28-28T	7	IXa	6	170.0								
H28-31T	7	IXa	1	6.0								
H28-33T	8	IXa	2	26.0								
H28-127T	2	I b			2	45.7						大破片は落ち込み内から出土
H28-128T	3	II c	1	4.6								
	4	II b	5	137.6								
H28-129T	2	I b			1	53.7	2	626.3				
	5	II b	16	403.7								
	6	II b	2	979.3								南三十稻場式復元可能個体
H28-131T	6	II b	1	23.1								
	3	II b	1	8.5								
	4	IXa	1	9.5								
	1	I a					錢貨		1	2.5	錢種:熙寧元宝	
H28-135T	5	II b	2	16.3								
	5	II b	7	83.6								
H28-136T	6	II b	22	838.0								
	6	II d	6	44.1								
	7	II bc	14	626.9								
H28-139T	2	I b	1	22.6								
	3	II b	8	225.5			剥片		1	6.1		
H28-141T	4	II b	2	5.6								
	4	II c	1	16.5								
	5	II b	4	17.5								
H28-142T	8	II b	6	30.7								
	5	II d	6	246.5								
	3	II a	3	137.6			剥片		1	13.5		
H28-144T	5・6	II d		2,741.7			剥片		1	2.4		
	7	II bc	6	210.0								

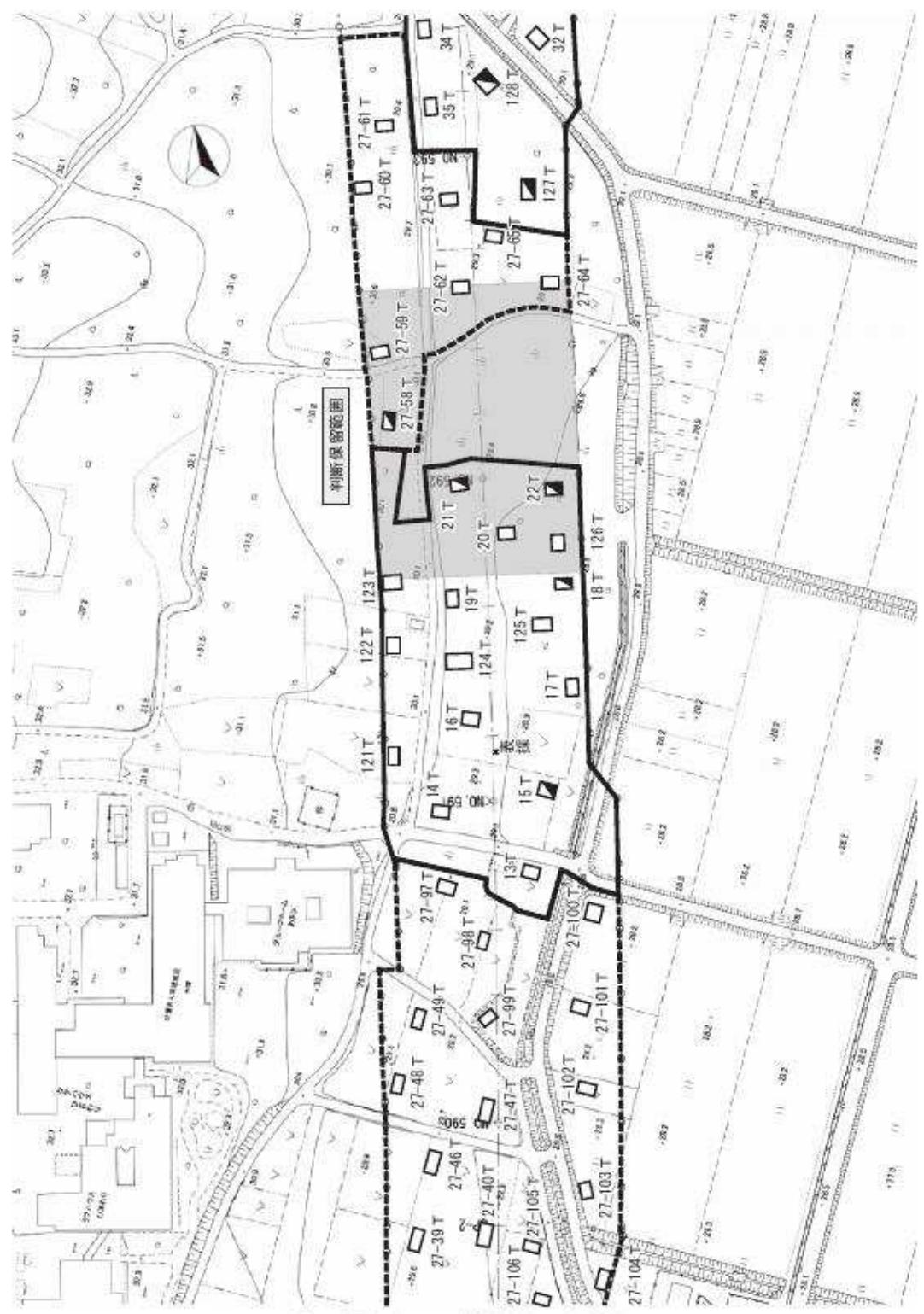
第1表 出土遺物表



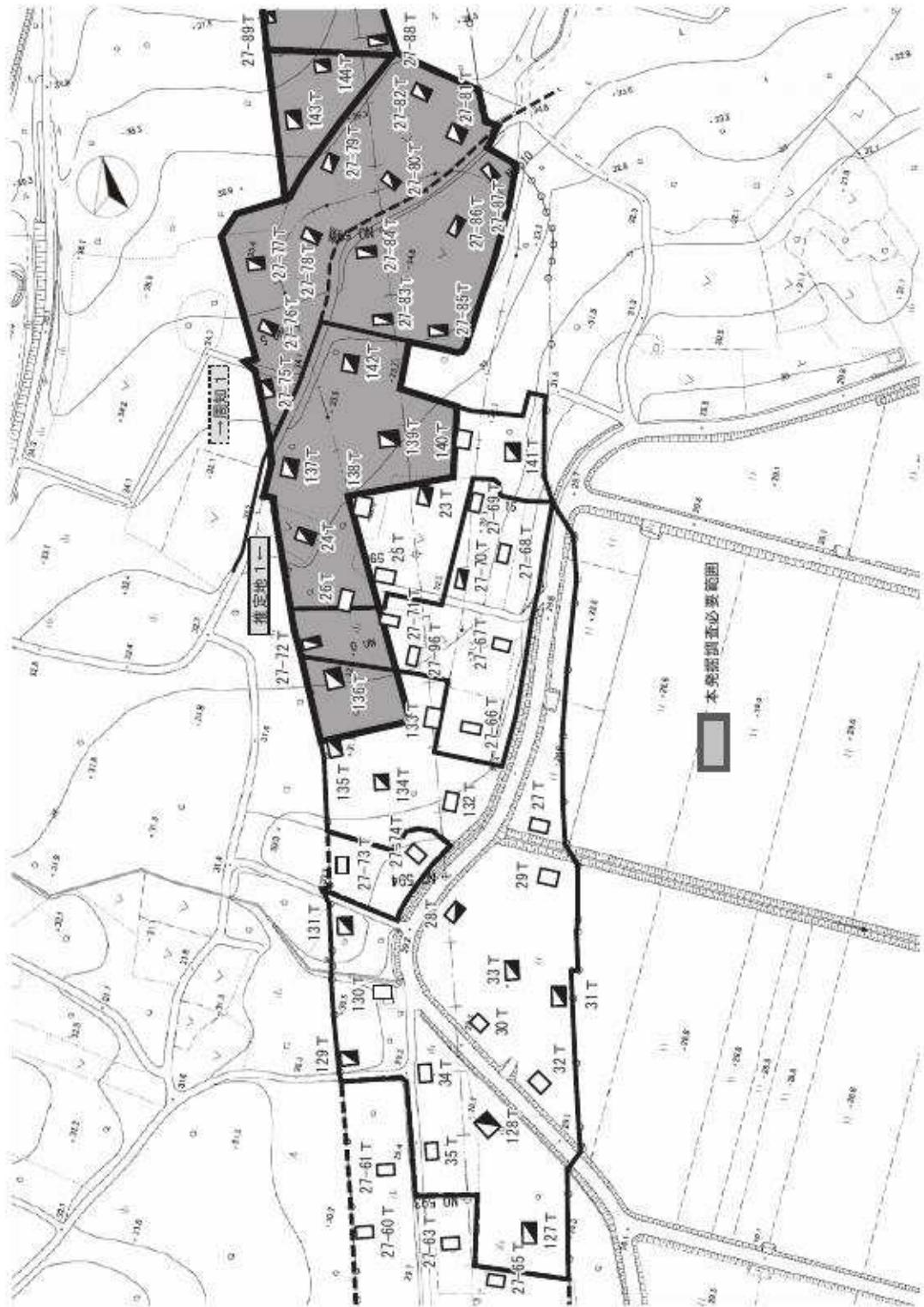
第4図 13~17T付近全景（南から）



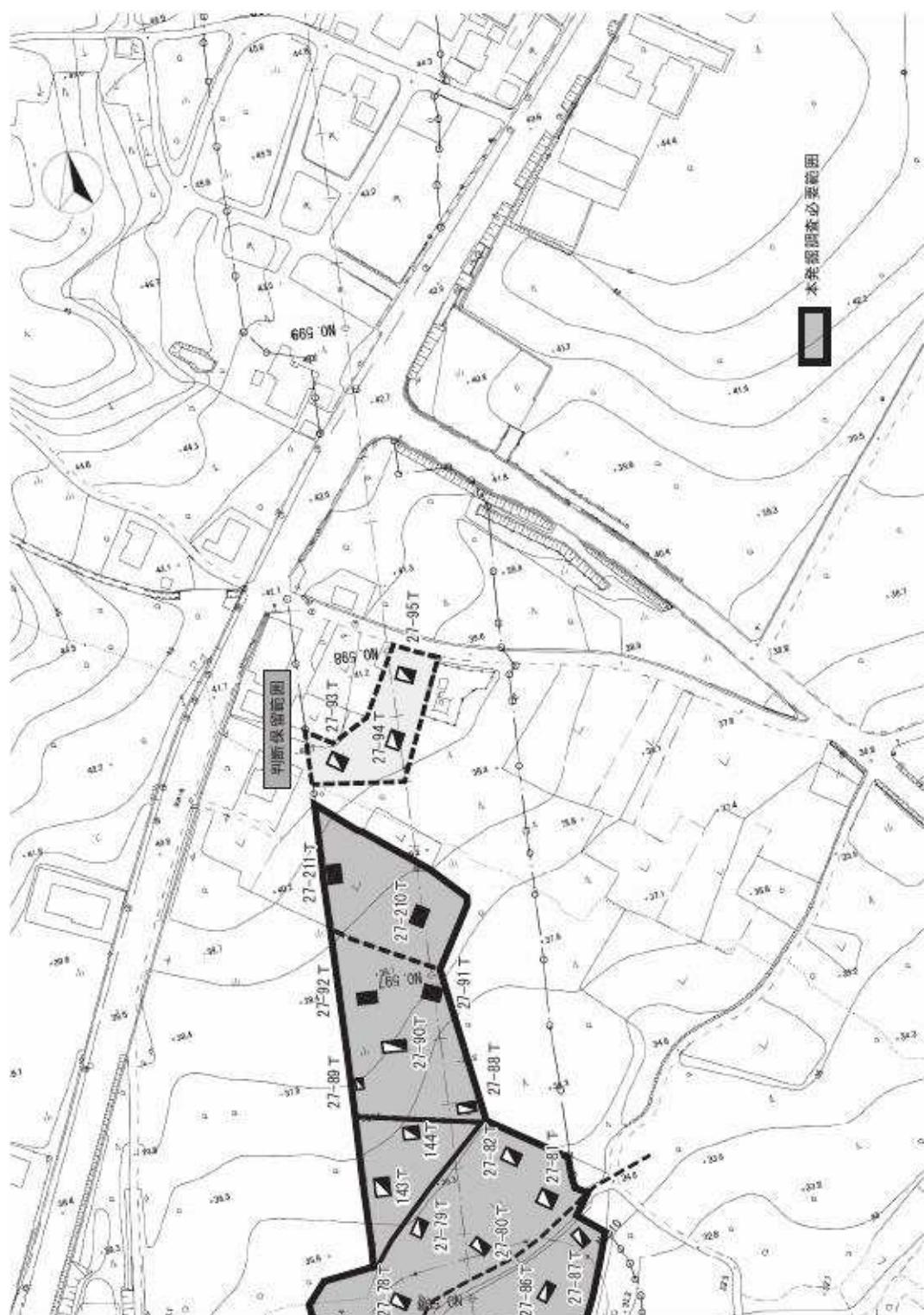
第5図 27~33T付近全景（北から）



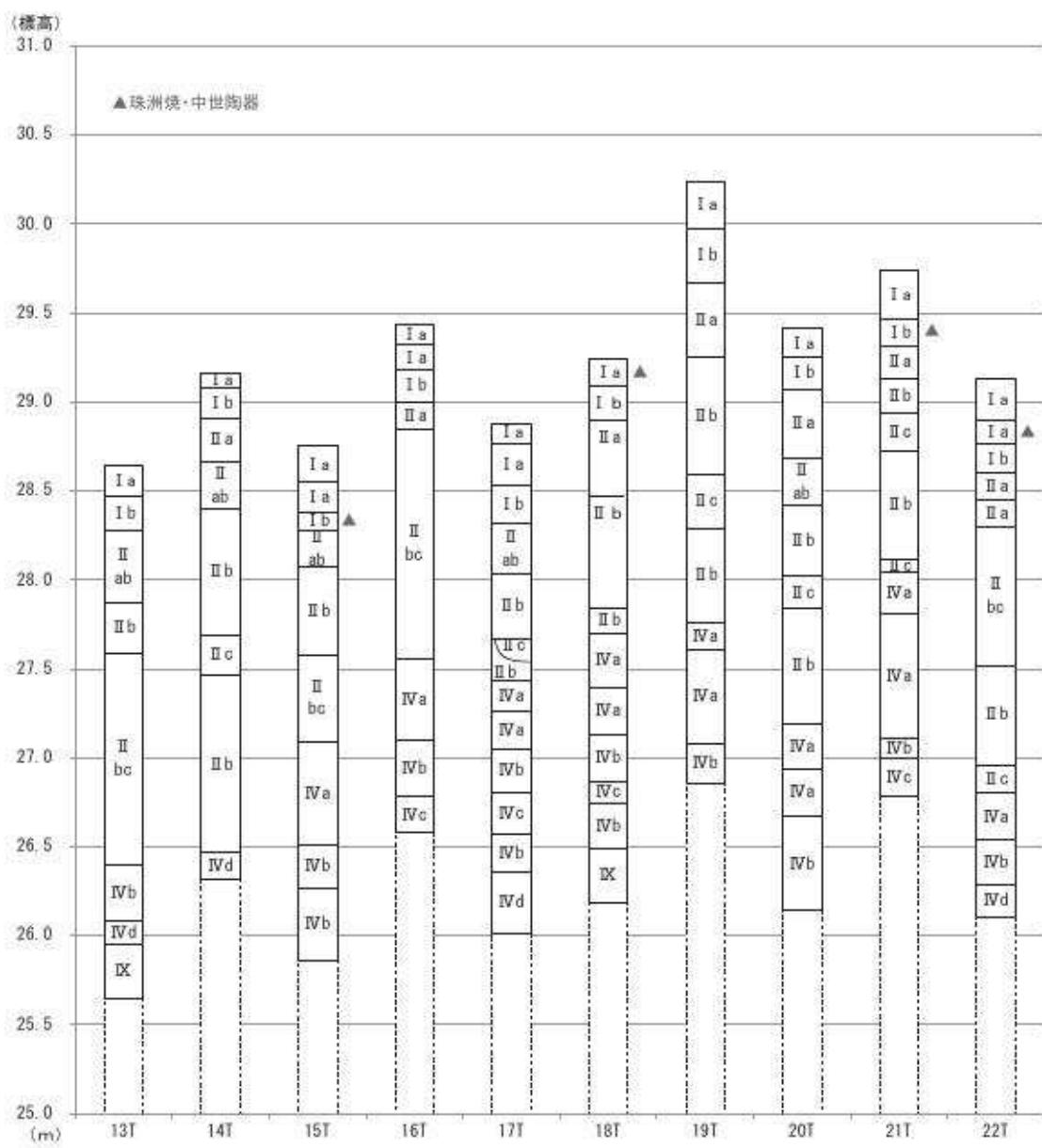
第2-1図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



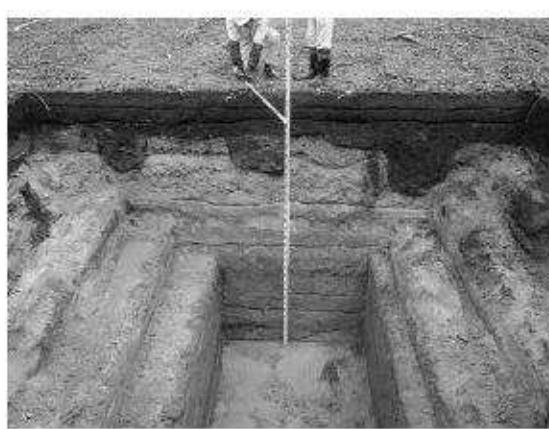
第2-2図 ドレンチ位置図 (1 : 2,000)



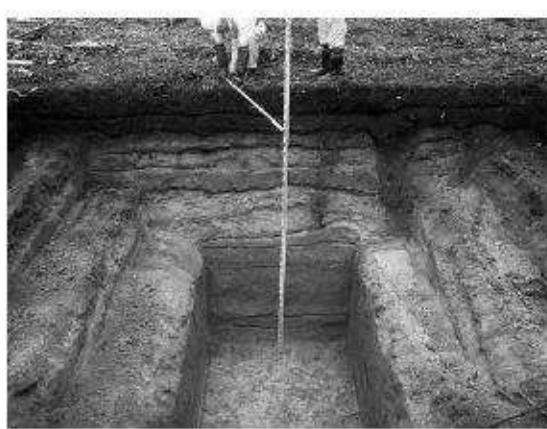
第2-3図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



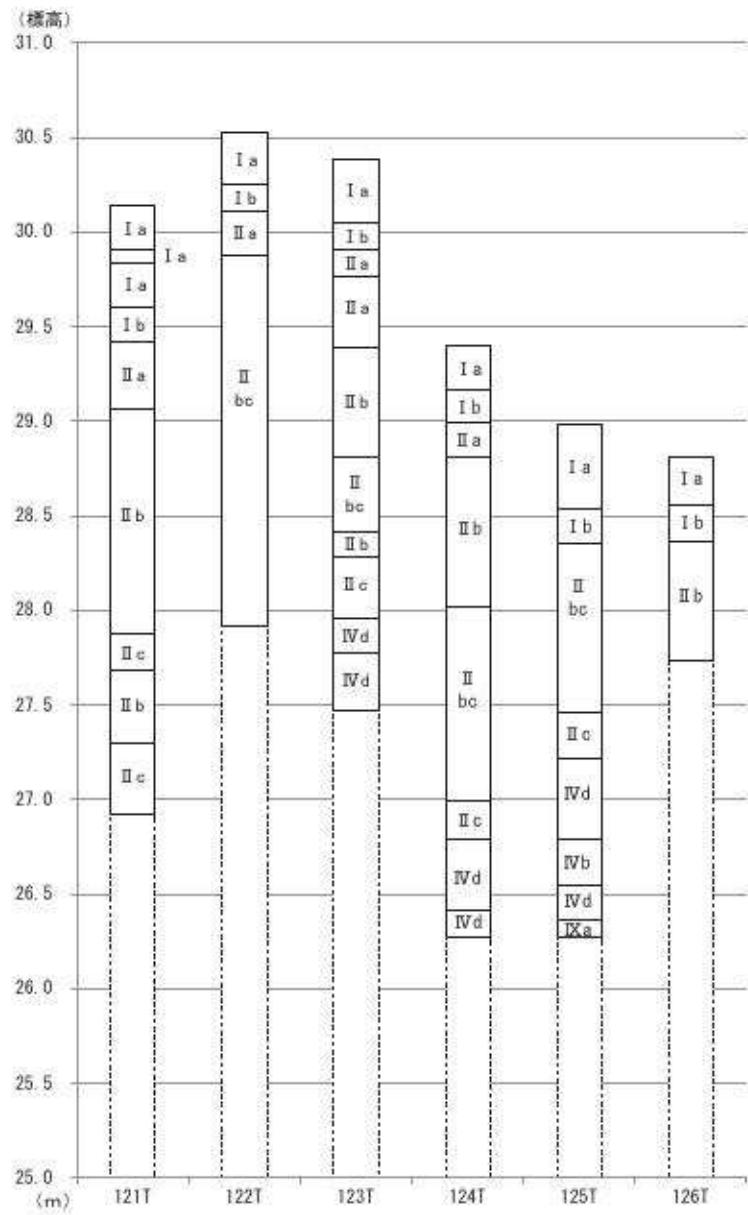
第3-1図 土層柱状図（1:40）



第6図 15T土層断面（北から）



第7図 21T 土層断面（北から）



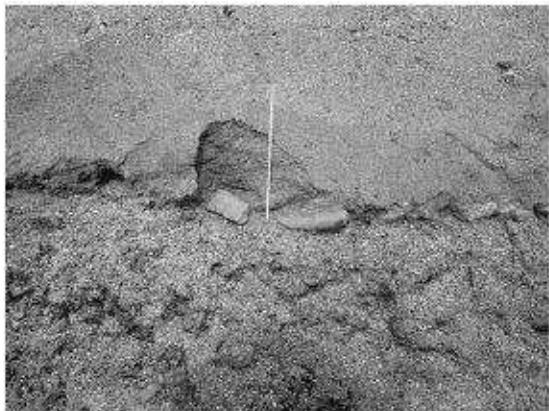
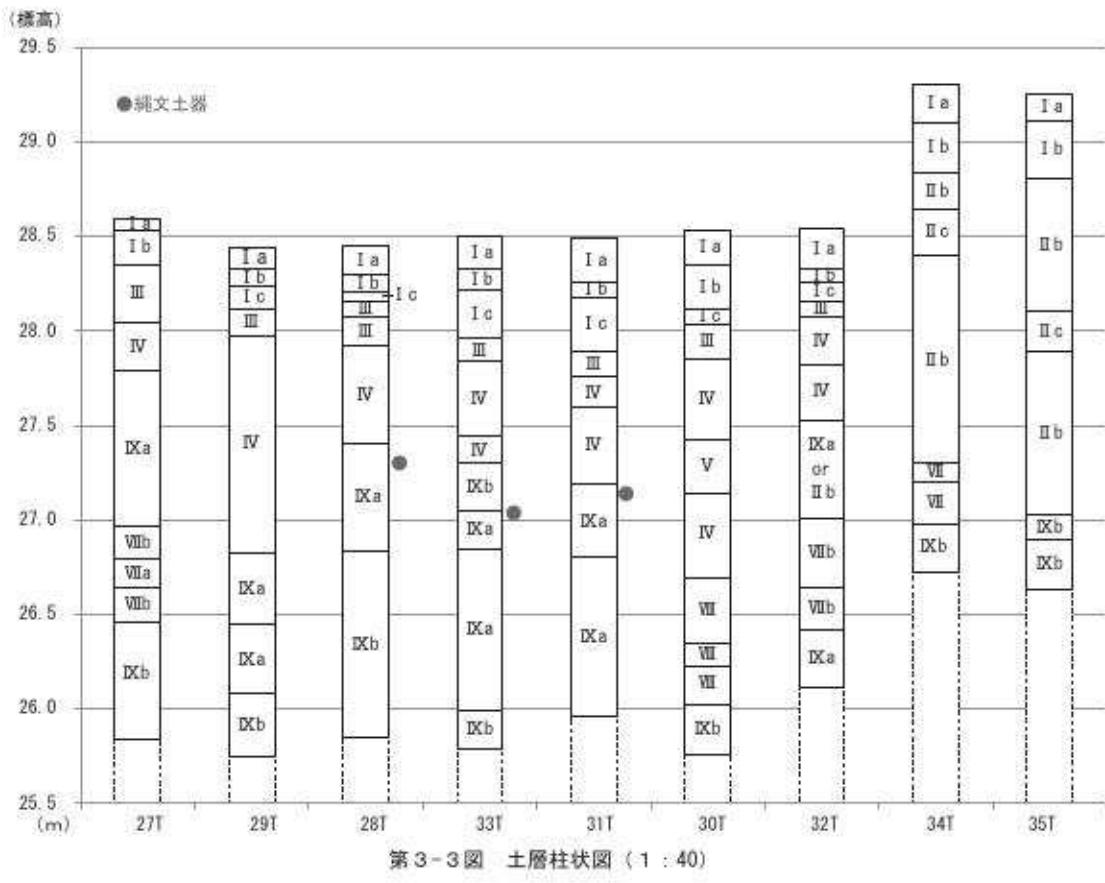
第3-2図 土層柱状図(1:40)



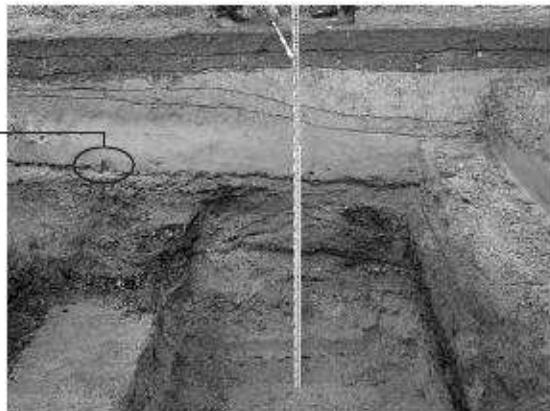
第8図 121T土層断面(東から)



第9図 123T土層断面(南から)



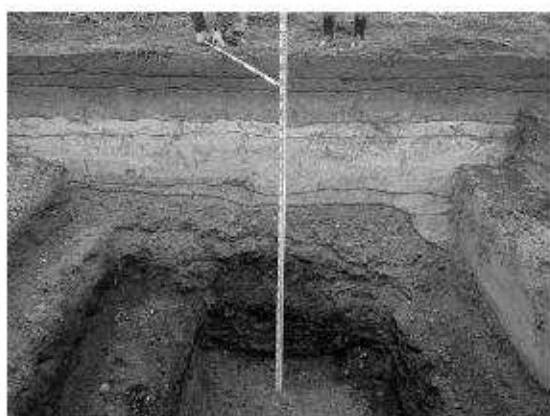
第10図 28T 遺物出土状況（南東から）



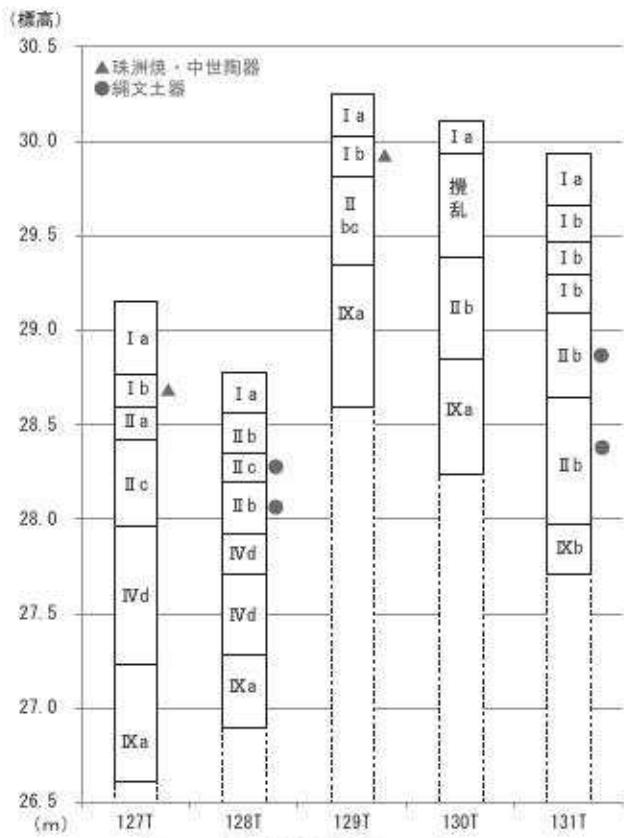
第11図 28T 土層断面（南東から）



第12図 30T 土層断面（東から）



第13図 33T 土層断面（西から）



第3-4図 土層柱状図 (1:40)



第14図 127T 土層断面（西から）



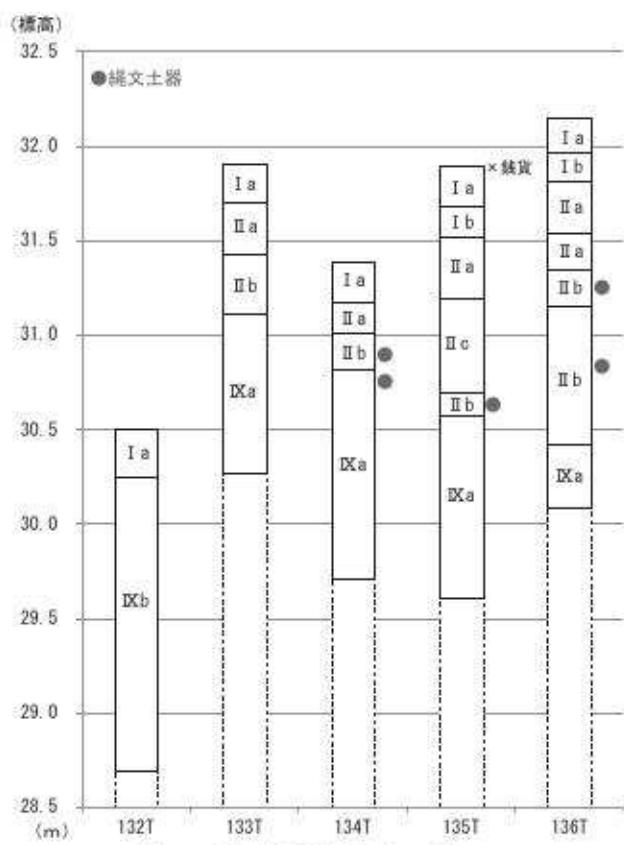
第15図 128T 土層断面（東から）



第16図 131T 土層断面（東から）



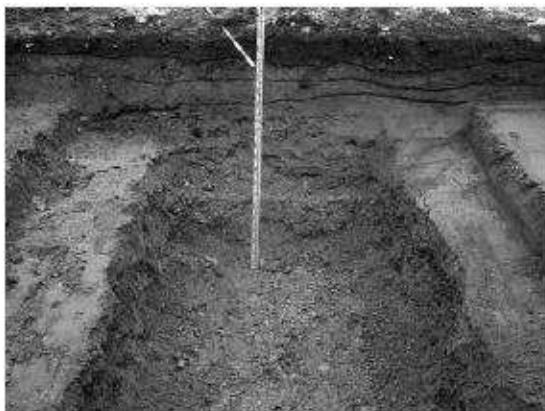
第17図 131T 遺物出土状況（南から）



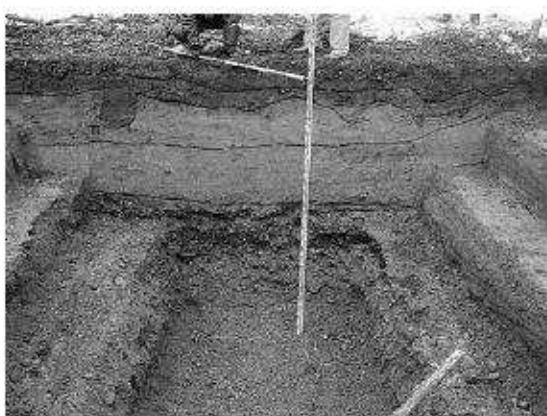
第3-5図 土層柱状図 (1:40)



第18図 132T 土層断面 (東から)



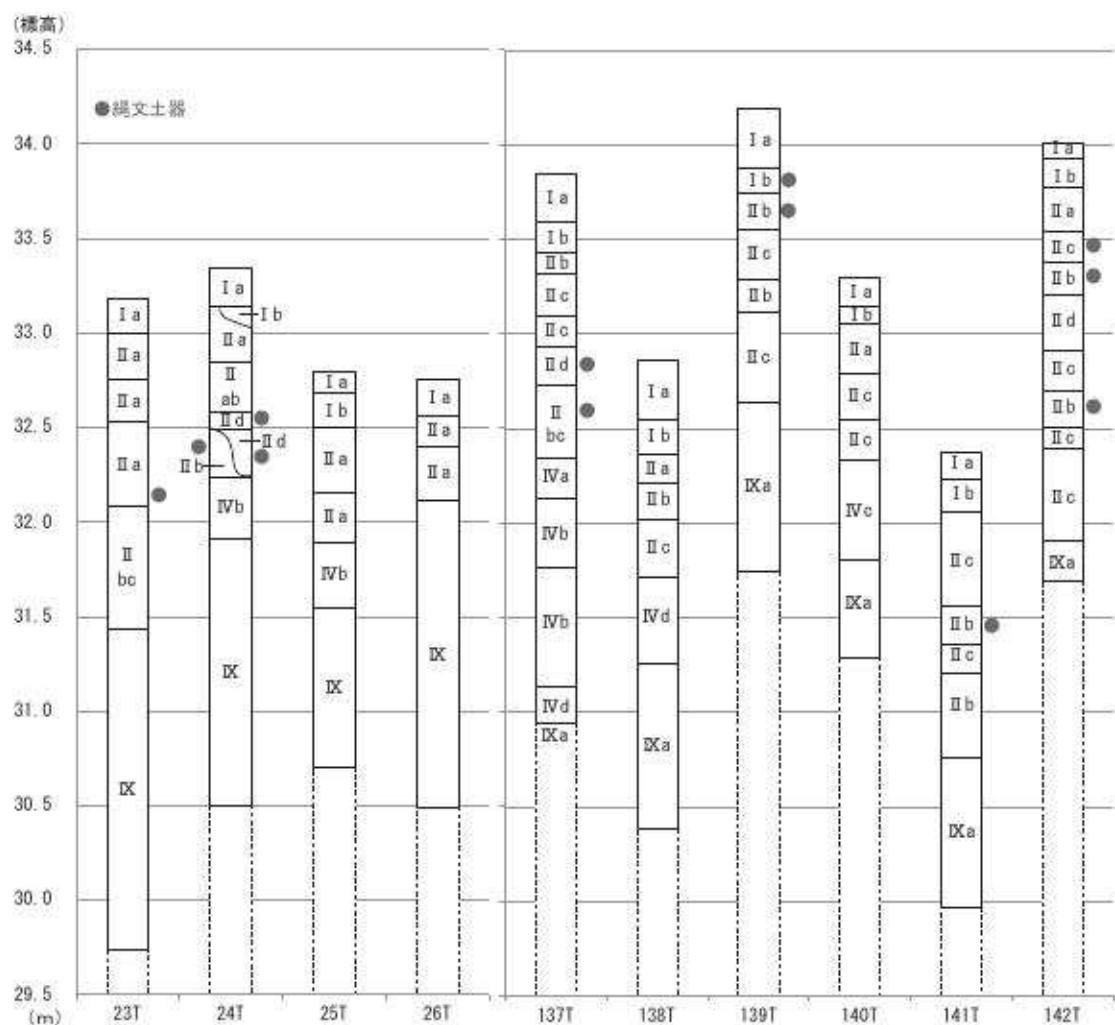
第19図 134T 土層断面 (東から)



第20図 135T 土層断面 (東から)



第21図 136T 土層断面 (東から)



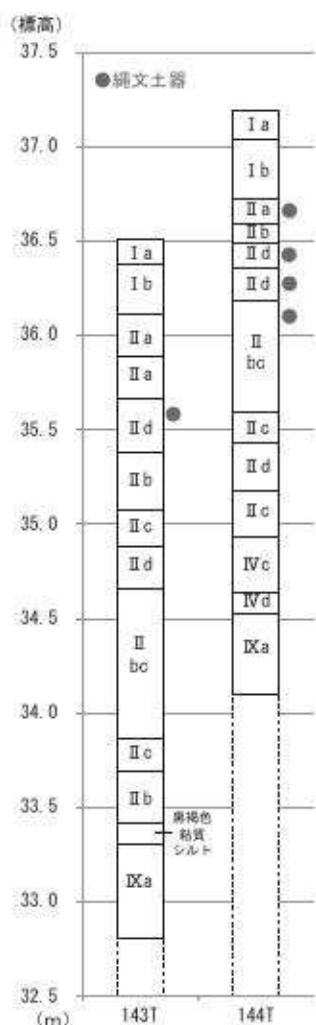
第3-6図 土層柱状図 (1 : 40)



第22図 24T 土層断面 (北から)



第23図 25T 土層断面 (北から)



第3-7図 土層柱状図 (1:40)



第24図 137T 土層断面（東から）



第25図 140T 土層断面（西から）



第26図 142T 土層断面（東から）



第27図 143T 土層断面（東から）



第28図 144T 土層断面（南から）



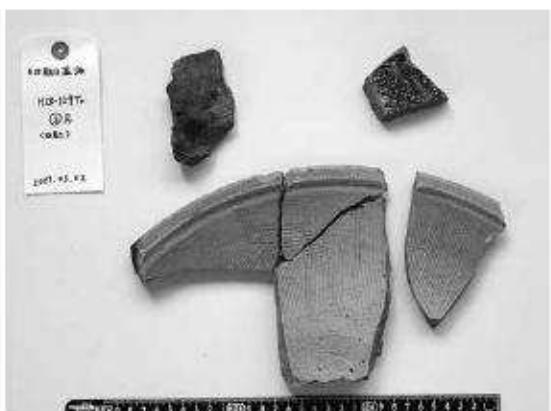
第24図 12T・15T・18T・21T・22T出土遺物・表採



第25図 28T・31T・33T出土遺物



第26図 127T (Ib層)・128T (IIb・IIc層)出土遺物



第27図 129T (Ib層)出土遺物



第28図 131T (IIb層)出土遺物



第29図 136T (IIb層)出土遺物



第30図 139T (Ib・IIb層)出土遺物



第31図 144T (IId層)出土遺物

5 一般国道7号朝日温海道路建設事業関係

「推定地1」(村上市猿沢地区・川端地区) 試掘調査

(1) 立 地

調査対象地は、猿沢地区と川端地区に分かれるため、下記では区分して記す。

【猿沢地区】

高根川右岸の丘陵裾部に位置する。丘陵が崩壊したと考える土砂が厚く堆積しており、地形は西側の丘陵裾部から東側の水田部に向かってなだらかに傾斜する。標高は27.9m～29.4m前後で、現況は畠地・雑林となっている。

【川端地区】

高根川西岸の自然堤防上に位置する。南側の水田面とは約2mの高低差があり、河岸段丘縁の可能性もある。現地表面の標高は約23m前後で、現況は畠地である。

(2) 調査の概要

猿沢地区で10か所、川端地区で2か所の計12か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。平成27年にも同近接区を調査したが、遺構・遺物は検出できなかった。

深さは、河川堆積由來の砂礫層であるIX層を目途とした。

(3) 層 序

今回の対象範囲の堆積状況は、色調・土質ともに平成27年度の調査結果と差異が無いことから、その基本層序と対比させた。下記はその各層のおおまかな傾向であるが、今回検出できなかった層(Ⅲ層)は除いている。

I層 表土・耕作土・圃場整備に伴うものと考える層を一括した。

I a層 暗褐色～黒褐色土。表土及び現耕作土。

I b層 暗褐～暗灰色土。圃場整備時の盛土及び旧表土や旧耕作土。

II層 丘陵由來の層を一括した。丘陵を形成する花崗岩が風化崩壊し、真砂土となり丘陵裾に厚く堆積している。土・シルトが比較的多い層と砂礫が主体の層があり、複数回に渡って堆積した層と考える。縄文時代の遺物もこの層中に含まれる。

II a層 黄褐色シルト主体。II b層より上に堆積する層で、比較的均質である。

II b層 灰白色砂礫主体。小～中礫が多い。土石流のような二次堆積層と考える。

II c層 黄褐～褐色シルト主体。シルトの割合が高くII a層と似るが、小砂礫が混じる場合が多い。

II d層 暗褐～黒褐色シルト。II層内の黑色系シルト層。安定した時期に堆積した旧表土層の可能性がある。

IV層 褐色シルトまたは灰白～黄灰色粘質シルト主体。丘陵裾部で褐色系、水田部で灰白色系を呈し、水成堆積層と考える。

V層 灰色砂質シルト主体。細砂層も含み、小礫が混じる場合もある。粘質シルトと互層を呈する層。

V a層 黄褐色シルト層。砂質が少なく、しまりが強い。

V b層 灰白色砂質シルトに小礫が混じる。

V c層 灰白色粘土質シルトと砂質土の互層。

IX層 灰色砂礫層。河川堆積層で、細砂・砂質シルトも含む。丘陵砂礫と異なり、礫の角は丸い。

IX-a層 径約3cm以下の小礫質砂層。

IX-b層 径約3cm以下の小礫質砂層に径約10cm上の中礫が混じる。

(4) 遺構・遺物

【猿沢地区】

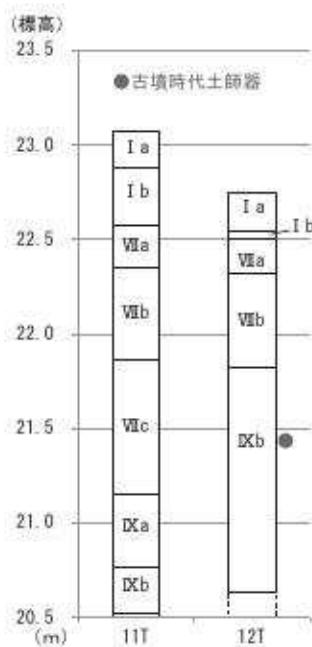
遺物は検出できなかった。8・9TのIV層中で炭化物を比較的多く検出したが、遺構のような平面的なまとまりは認められなかった。炭化物は軟質なものが多く、一部は指で簡単に潰せないものもあった。

【川端地区】

12TのIX-b層中より、古墳時代の可能性がある土師器片が1点出土した。出土層位や周辺の他のトレントの調査結果から、遺物包含層に伴うものではなく、原位置を移動した流れ込みと考える。

(5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、川端地区で古墳時代の可能性がある土師器を検出したが、流れ込みと考える。このため、今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



第3-1図 柱状図 (1 : 40)



第2-1図 トレント位置図 (1 : 2,000)



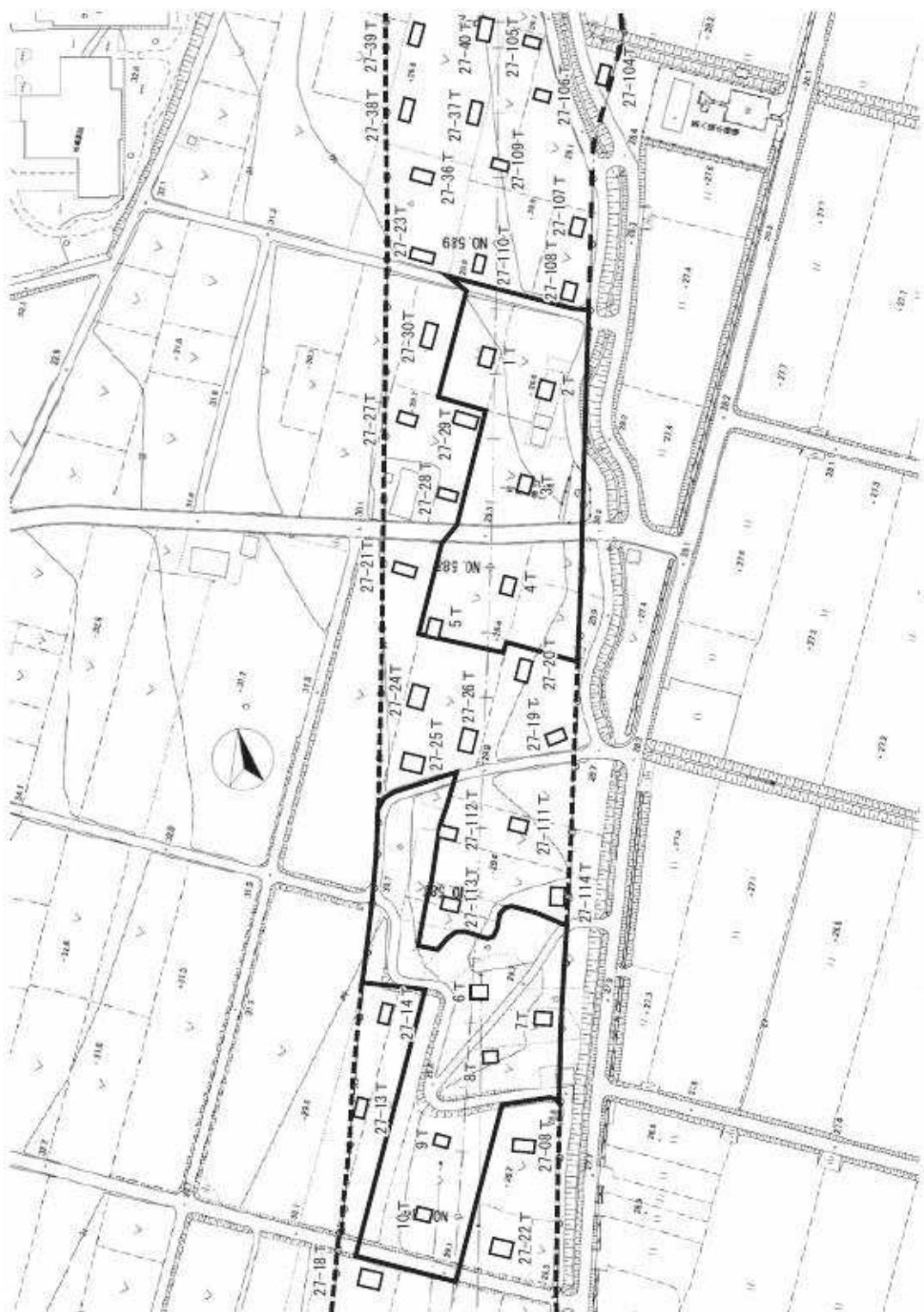
第4図 12T 土層断面 (東から)



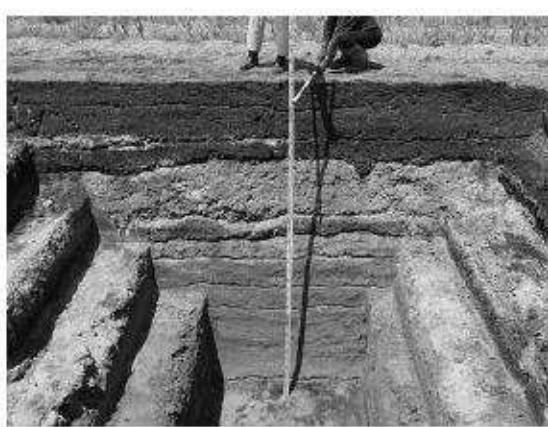
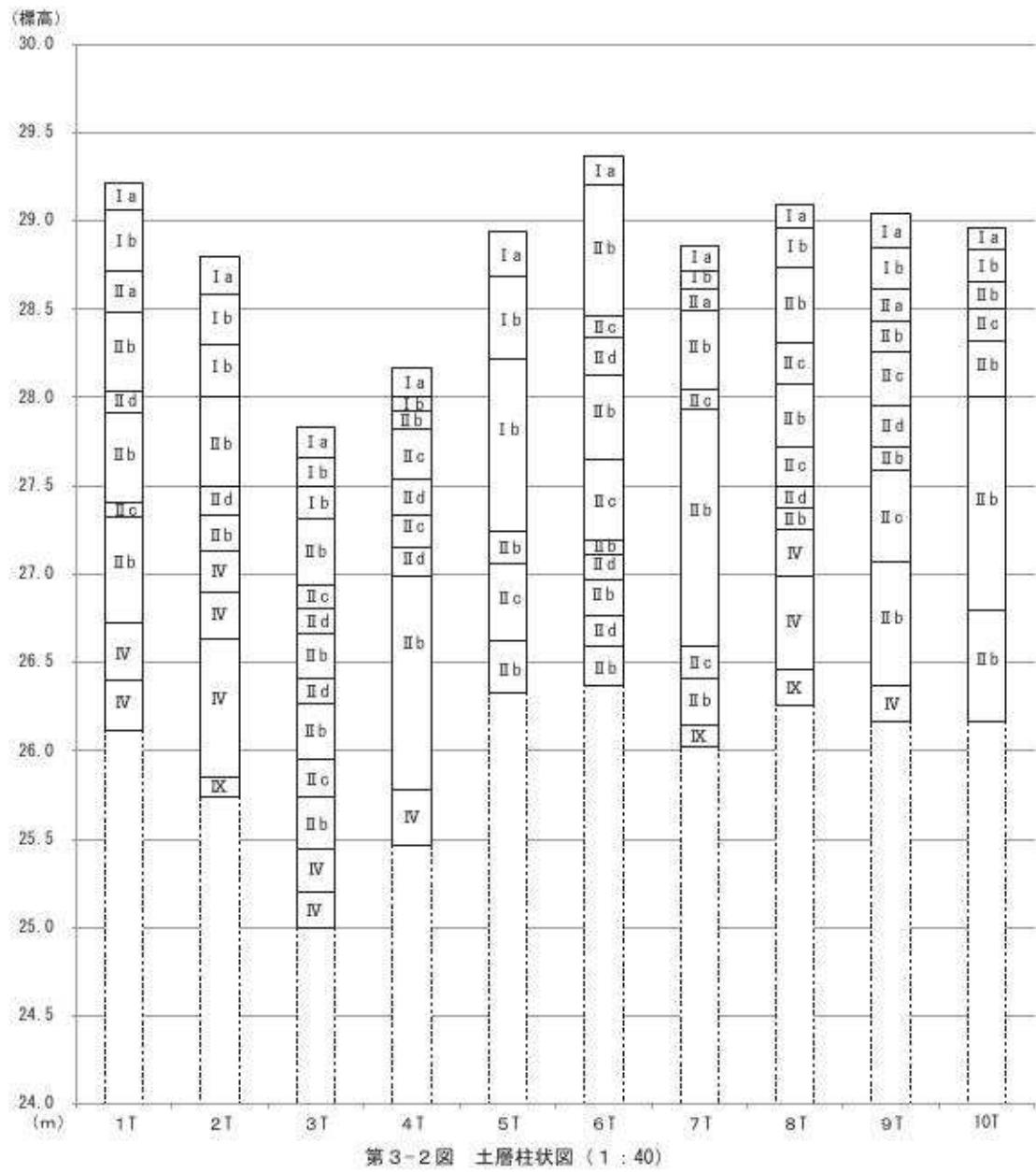
第5図 11・12T付近全景 (北から)



第6図 1～5T付近全景 (北から)



第2-2図 トレンチ位置図 (1 : 12,000)



第7図 2T 土層断面（西から）



第8図 8T 土層断面（北から）

6 一般国道7号栗ノ木道路関係

新潟市笹口地区・鏡が岡地区・長嶺町地区試掘調査

(1) 立地

新潟市街の中心地に立地し、商業地・住宅地に立地する。標高は現地表面が0～1mである。笹口地区は新潟砂丘列新砂丘第Ⅲ列1に位置する。また、鏡が岡地区は貞享元年（1684年）の沼垂町域に含まれる可能性があった。

(2) 調査の概要

笹口地区で3か所、鏡が岡地区で5か所、長嶺町地区で2か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。平成25・26年度にも笹口地区の調査を実施しているが、遺構・遺物は検出できなかった。

深さは、現地表下3mを目途としたが、調査区が狭小なために深さが2.5m程度のトレンチが多い。

(3) 層序

【笹口地区】

平成25年度調査の3トレンチの近くであるが、今回の堆積状況は大きく異なるため、対比させてはいない。

0層 暗褐色～暗褐色のシルト・砂層。近・現代の表土・盛土と考える層である。堆積には時期差があるため、遺構状の落ち込みもいくつか確認できた。陶磁器類も含まれるが、1TではI層との境付近で板ガラス片が出土した。

0'層 暗褐色系のシルト・粘質シルト・腐植土・砂の互層。2Tで確認した。この層の上位で木杭と板で構築された遺構を検出した。井戸の可能性もあったが、遺構内外の堆積状況に変化は認められない。層中には加工木材片・自然木が多く含まれており、近世以降の陶磁器類が少量含まれる。洪水などの自然堆積によるものが、意図的な廃棄の結果であるのかは不明である。

1層 暗緑灰色砂質シルト。径5cm以下の礫、木材片が少量含まれる。近世と考える陶磁器が少量出土する。

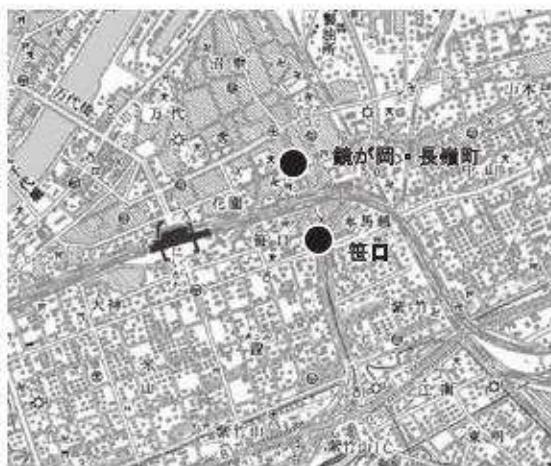
地形の参考として、調査区から道路を挟んだ西側に居住する人の話を聞くことができた。子供の頃は居住地付近が栗ノ木川に沿って堤防上の高まりになっており、そこから東側（栗ノ木川方向）に向かって地形が下っていたそうである。また、付近には木材を加工する店や、船大工もいたとのことで、近・現代は川と身近な環境であったことがうかがえる。今回想定した深度で砂丘堆積物が確認できなかつたことは、砂丘列が途切れていることや、後世に開削された場所であった可能性がある。

【鏡が岡地区・長嶺町地区】

0層 表土・旧栗ノ木を埋める盛土層。近現代の陶磁器を含む。

焼層 火事由来の焼土、瓦礫層（3・5・8T）。

I層 青灰色 砂層、近現代陶磁器を含む。旧栗木川の護岸工事痕跡（4・8・9T）。



第1図 位置図 (1 : 50,000)
(国土地理院「新潟」1:50,000原図 平成9年発行)

II層 腐植土を含む層。

II a層 青灰色 腐植土・シルト質砂層。腐植土とシルト質砂が互層になる層もある。近現代陶磁器を含む。

II b層 青灰色 腐植土・砂質シルト層、近現代陶磁器を含む。

III層 腐植土を含まない層。

III a層 青灰色 シルトと砂の互層、近現代陶磁器を含む。

III b層 青灰色 砂質シルト層、近現代陶磁器を含む。

III c層 青灰色 黏土質シルト層、近現代陶磁器を含む。

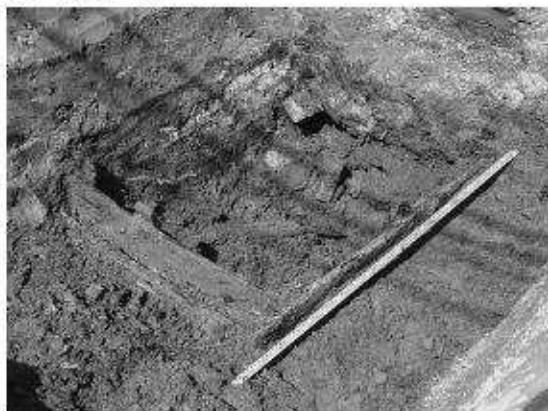
(4) 遺構・遺物

鏡が岡地区・長嶺町地区では、全てのトレンチで表土・盛土層（0層）下に、旧栗ノ木川由来の河川堆積層（I層以下）が厚く堆積しており、河川堆積層より下の層を確認できなかった。また、4・8・9Tからは旧栗ノ木川の護岸工事跡と考えられる木組み、木杭が検出された。0層～III層から明治期以降の陶磁器が多数出土した。ここから、本調査区は旧栗ノ木川の中であった可能性が極めて高く、17世紀後半頃の沼垂町域は今回のトレンチより東側（国道より東側）にある可能性が示唆される。また、旧栗ノ木川は現在の国道7号線の幅より東西に広いことがわかった。

ただし、全ての地点で17世紀後半以前と考える遺構・遺物は検出できなかった。

(5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



第4図 笹口地区 2T木枠検出（南西から）



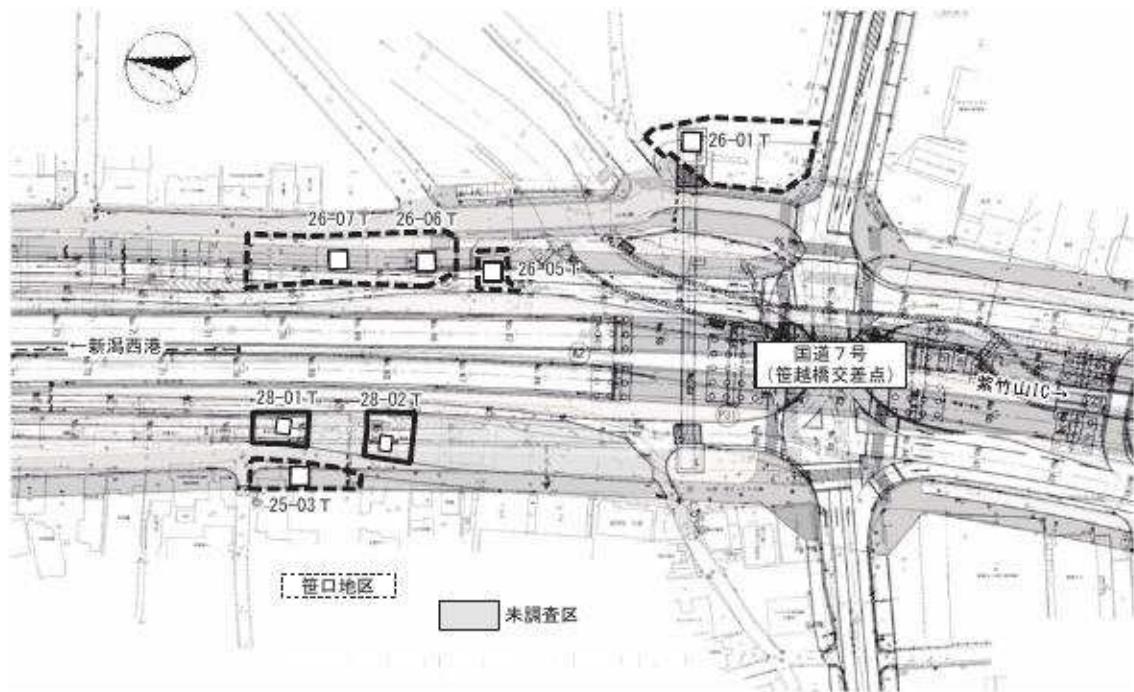
第5図 笹口地区 2T土層断面（南から）



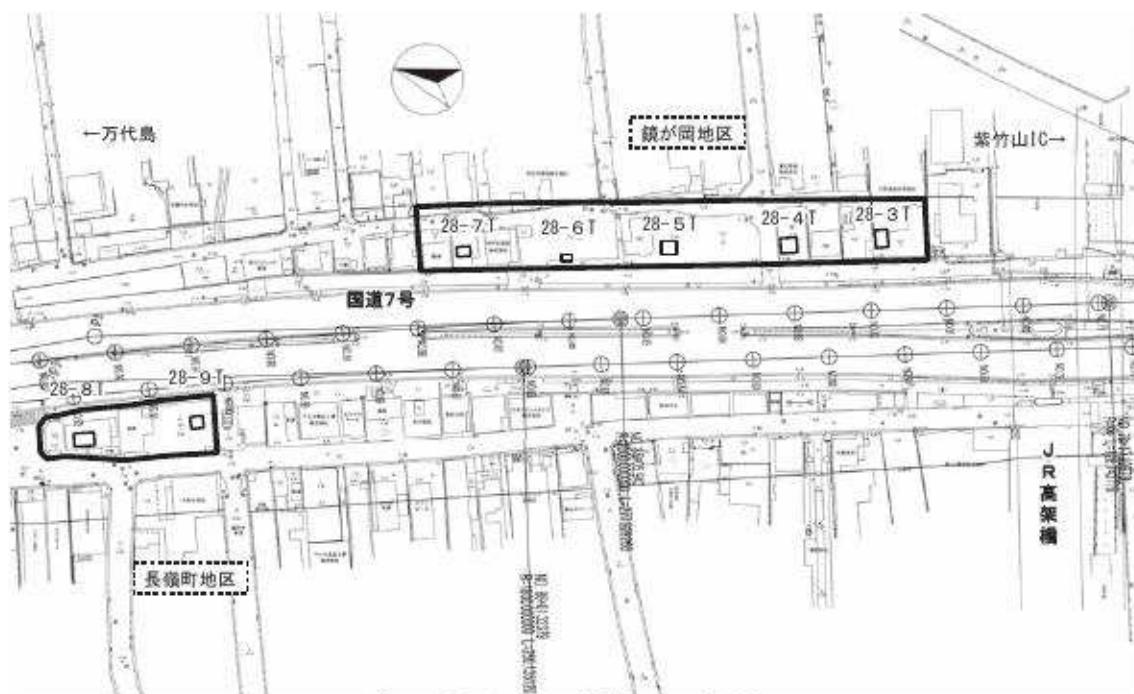
第6図 鏡が岡地区 3T土層断面（北から）



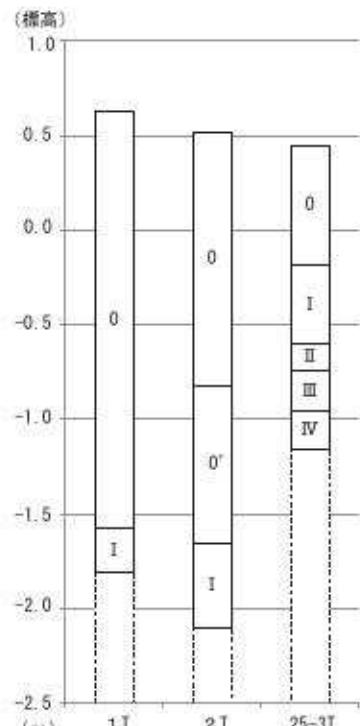
第7図 鏡が岡地区 5T土層断面（北から）



第2-1図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



第2-2図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



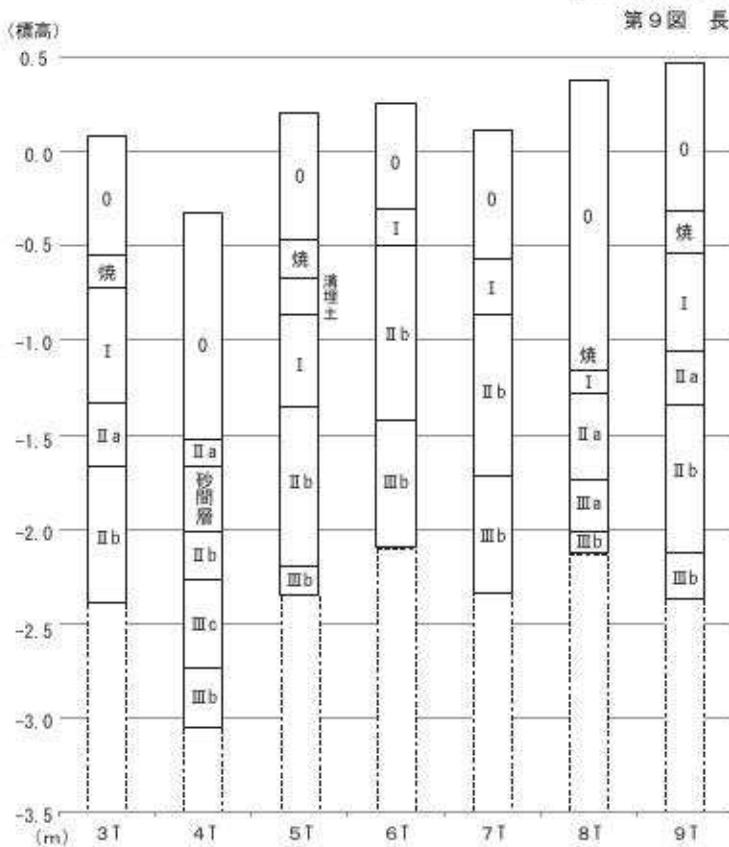
第3-1図土層柱状図(1:40)



第8図 長嶺町地区 B-T護岸材検出状況（東から）



第9図 長瀬町地区 9T 土層断面（北から）



第3-2図 土層柱状図（1:40）

7 一般国道8号猪子場新田南地区・一つ屋敷新田地区事故対策事業関係 いのこばしんでん ひとつやしきしんでん **三条市猪子場新田地区・一つ屋敷新田地区試掘調査**

(1) 立地

信濃川右岸の標高8.3～9.5mの自然堤防間の沖積地に位置する。現況は水田及び店舗駐車場で、現在の国道8号開通前は工業用地である。

(2) 調査の概要

9か所のトレーナーを設定して試掘調査を行った。平成27年度に隣接地の調査を実施したが、遺構・遺物は検出されていない。

(3) 層序

今回の対象範囲の堆積状況は、色調・土質とともに平成27年度の調査結果と差異が無いことから、その基本層序と対比させた。下記はその各層のおおまかな傾向であるが、今回検出できなかった層は除いている。

深さは緑灰色粘質シルトのIX層を目途とした。

0層 盛土・攪乱(底面から湧水)。

I層 耕作土。

II層 灰色粘質シルト。6Tから近世陶磁器出土。

III層 暗灰色粘質シルト。黄灰色ブロック状に混じる。

IV層 緑灰色粘質シルト+砂互層。

V層 黒褐色腐食土。

VI層 黄灰色粘質シルト。腐植物混じる。

VII層 暗緑灰色粘質シルト。

VIII層 暗褐色腐食土。

IX層 緑灰色粘質シルト。

(4) 遺構・遺物

なし。

(5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:50,000)

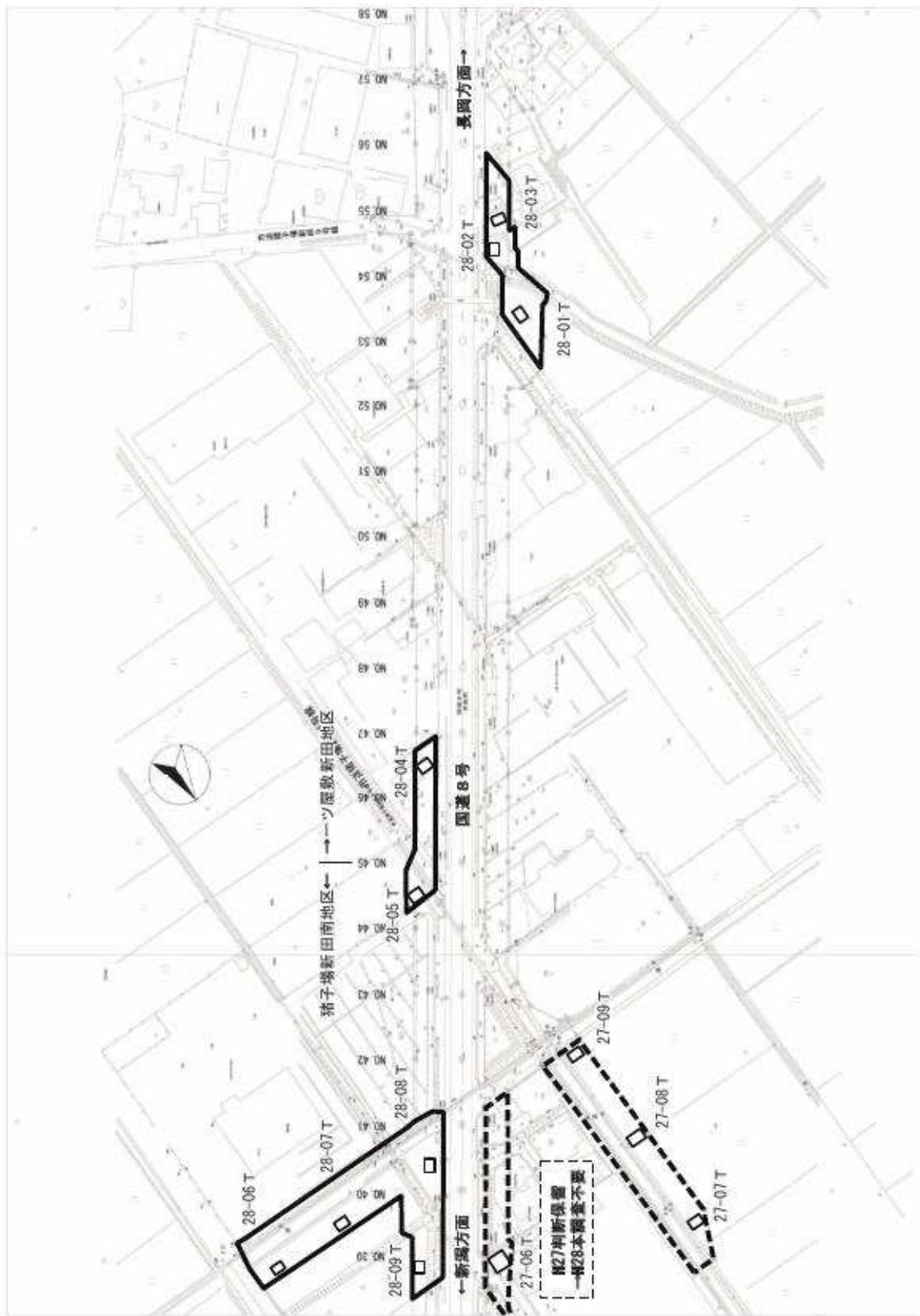


第4図 1～3T付近全景 (北から)

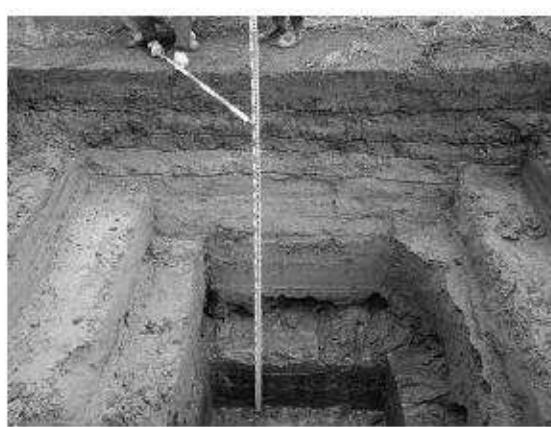
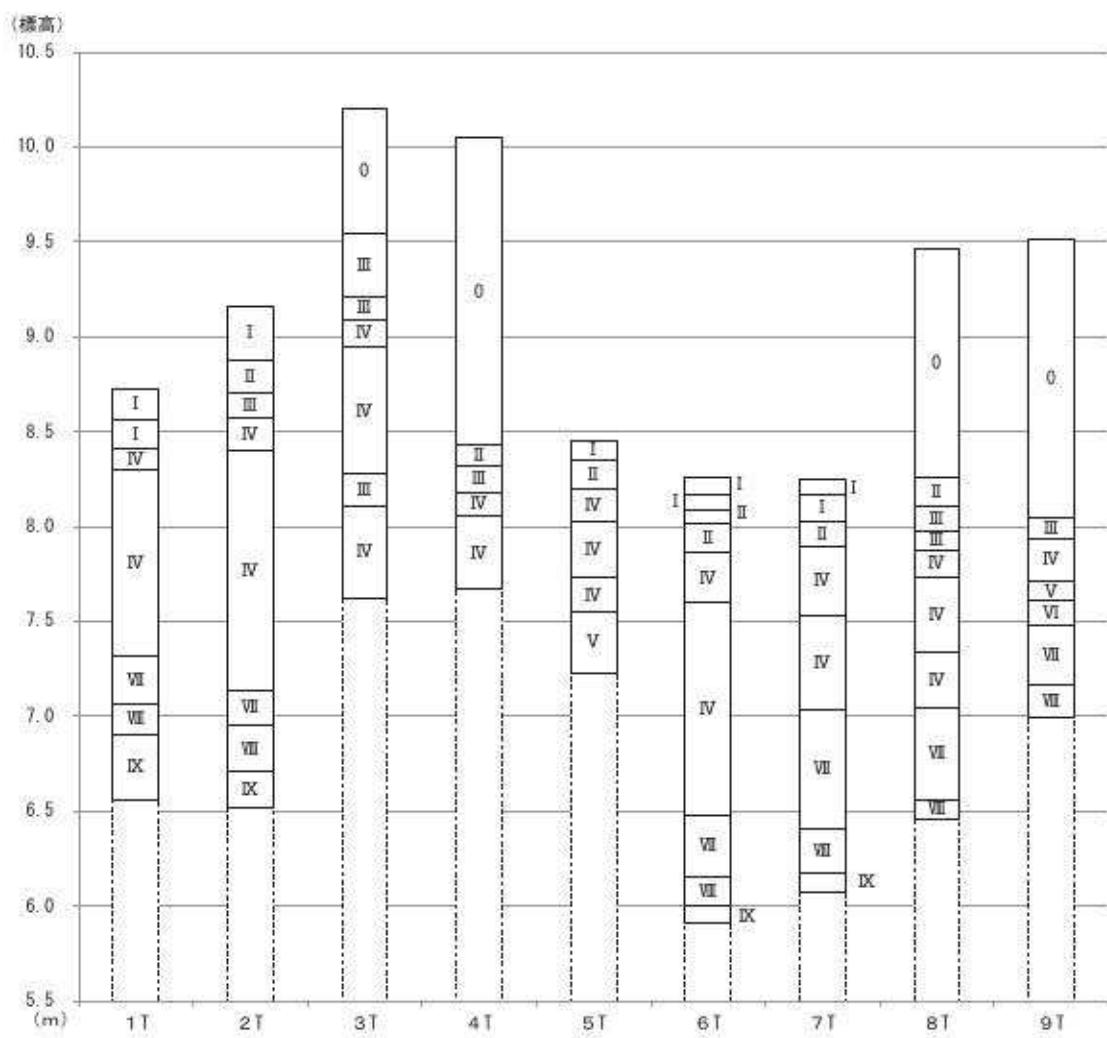


第5図 6～8T付近近景 (西から)

(第1図出典:国土地理院「三条」1:50,000原図 平成8年発行)



第2図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



8 一般国道17号和南津改良事業関係

かわぐちわなづ 長岡市川口和南津地区試掘調査

(1) 立地

魚野川左岸の低位段丘上に位置し、現況は水田・草地・雑林である。現況の水田部分は、昭和50年代以前まで畠地であった。今回の対象地の標高は93.3m前後である。

(2) 調査の概要

8か所のトレンチで試掘調査を行った。平成27年度に今回の調査区の東西を調査したが、遺構・遺物は検出されていない。

深さは基盤層と考える砂礫層のV層を目途とした。

(3) 層序

平成26・27年度の調査成果に合わせるように分層したが、Ⅲ層中で粘質が高い層が認められたので、新たにⅢa層として分層した。

I a層 暗褐色シルト。現水田耕作土。

I b層 黒褐色シルト。耕作時の影響を受けない水田耕作土。

I c層 暗褐色シルト。灰白シルトブロックが混じる。盛土。圃場整備等の造成土。

II層 明黄褐色～黄褐色シルト。小～中疊を含む。

III層 灰白色砂質シルト。粘質シルトと互層を呈する。

IIIa層 灰白色粘質シルト。

IV層 灰白色砂質土。細砂を含む。

V層 砂礫層。

(4) 遺構・遺物

なし。

(5) 調査の結果と取扱い

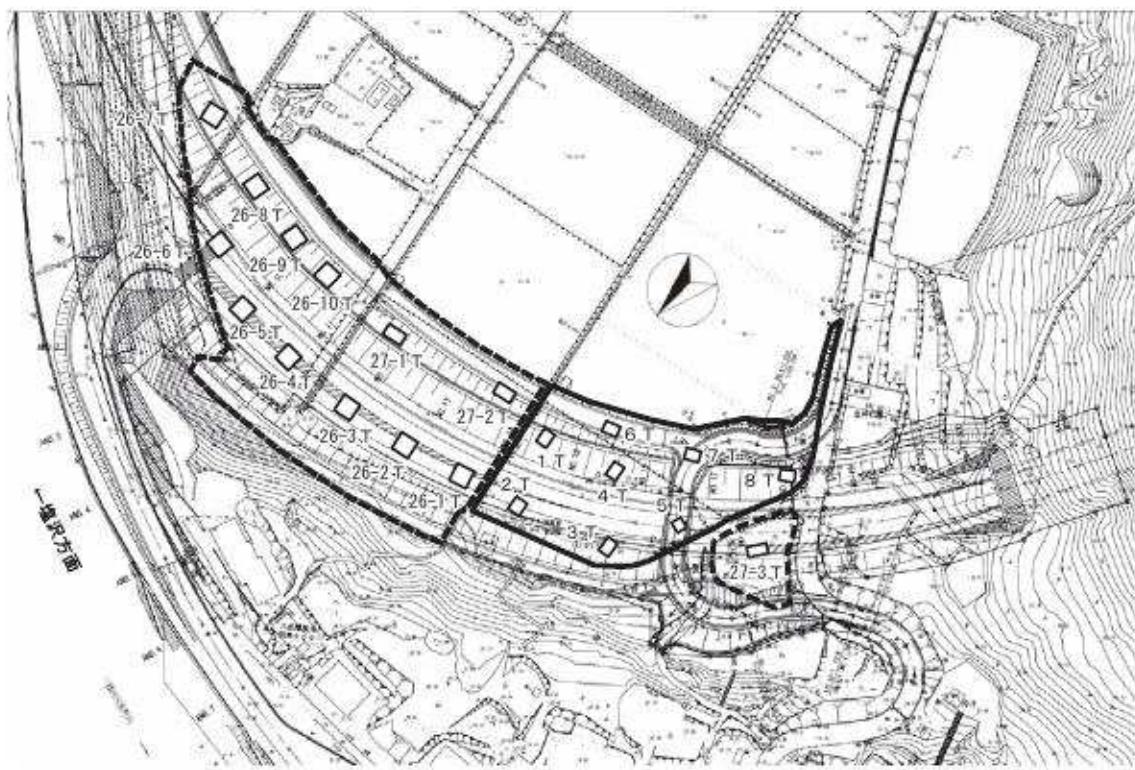
調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



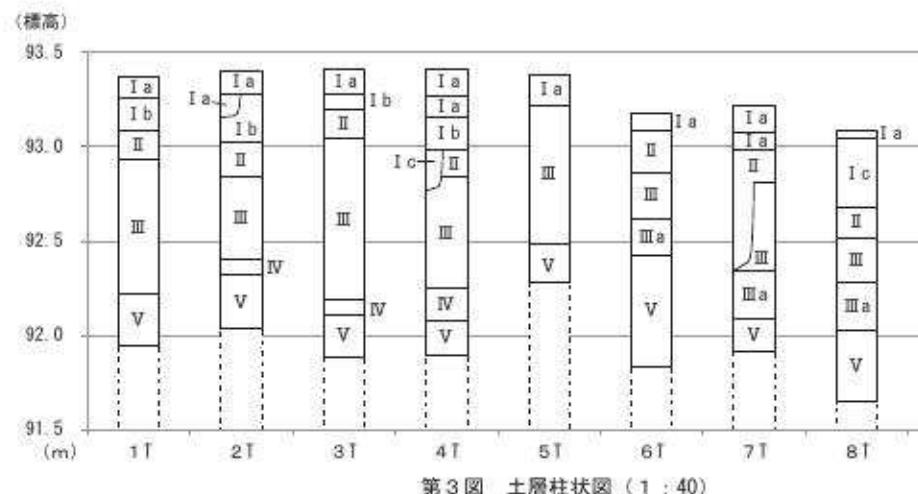
第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「小千谷」1:50,000原図 平成6年発行)



第4図 調査区全景（西から）



第2図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



第3図 土層柱状図 (1 : 40)



第5図 2T土層断面 (西から)



第6図 8T土層断面 (南から)

9 一般国道17号浦佐バイパス事業関係

おおうら むしの 魚沼市大浦地区・虫野地区試掘調査

(1) 立地

大浦地区は魚野川の支流である三用川右岸の氾濫原に位置する。標高は約105～106mで、現況は市道沿いの宅地跡・水田である。虫野地区は魚野川右岸の城山の丘陵裾部に位置する。標高は約101m前後で、現況は水田・荒蕪地である。

(2) 調査の概要

大浦地区で10か所、虫野地区で17か所、計27か所のトレーナーで試掘調査を実施した。平成26・27年度に隣接箇所の調査を実施しており、杭列が検出されている。

深さは、疊層であるXI層を目途とし、杭が検出された場合は検出面のV.a層で留めた。

(3) 層序

虫野地区と大浦地区で堆積状況が異なることから、各地区で分層を行った。

【虫野地区】(1～17T)

- I a層 黒褐色シルト。現耕作土。
- I b層 暗褐色シルト。現耕作土床土。
- II層 盛土。
- III層 暗褐色シルト。旧表土。
- IV層 褐灰色シルト。
- V層 褐灰色シルトと細砂の互層。
- VI層 暗褐色粘質シルト。
- VII層 灰色粘質シルト。
- VIII層 黄褐色砂質シルト。
- IX層 疣層。
- X層 シルトと細砂の互層。
- XI層 疣層。

【大浦地区】(18～27T)

平成27年度調査の基本層序を参考に分層したが、一部変更した。

- I a層 灰黄褐色粘質シルト。現耕作土。表土。
- I b層 褐色シルト。耕作土。盛土。
- I c層 灰白色砂質土。耕作土。盛土。
- II a層 褐灰色シルト。



第1図 位置図 (1:50,000)



第5図 虫野地区 調査区全景（北から）



第6図 大浦地区 18～23T調査区全景（南から）

(第1図出典：国土地理院「小千谷」1:50,000原図 平成6年発行)

- II b層 褐灰色シルト。腐食物を含む。
- III層 灰白色シルト。礫を少量含む。
- IV層 灰～褐灰色シルト。V層の上位堆積物。腐植物含む。
- V a1層 灰～褐灰色粘質シルトと砂礫の互層。
- V a2層 灰～褐灰色粘質シルト。腐植物を含む。
- V a3層 灰～褐灰色粘質シルトと砂礫の互層。
- V a4層 灰～褐灰色砂礫層。
- V a5層 灰～褐灰色粘質シルトと砂礫の互層。
- V a6層 灰～褐灰色粘質シルトと大砂礫の互層。
- V b層 暗褐色シルト。腐食物を含む。
- V c1層 灰～褐灰色砂礫。
- V c2層 灰～褐灰色粘質シルトと砂礫の互層。腐食物含む。

(4) 遺構・遺物

ア 遺構（第4図・第2-2図）

15 T の VI 層下位で、時期不明のピットを 3 基検出した。いずれの埋土も、湿地的環境下で堆積したと考える VI 層及び VII 層に近似する。やや不整な部分もあることから、人為的なものではなく、植物の根等で形成された可能性がある。

24 T ではほぼ等間隔に並ぶ杭を 4 本検出した。平成 27 年度調査の 27-13・14 T で検出した杭とほぼ検出面が同じで、杭列の方向は 27-13 T の杭列の延長上にあたるので、一連の遺構と考える。昨年度同様に、杭列の左右で堆積状況は変化が無いことから、土留め目的の杭列の可能性は低い。構築年代は不明である。

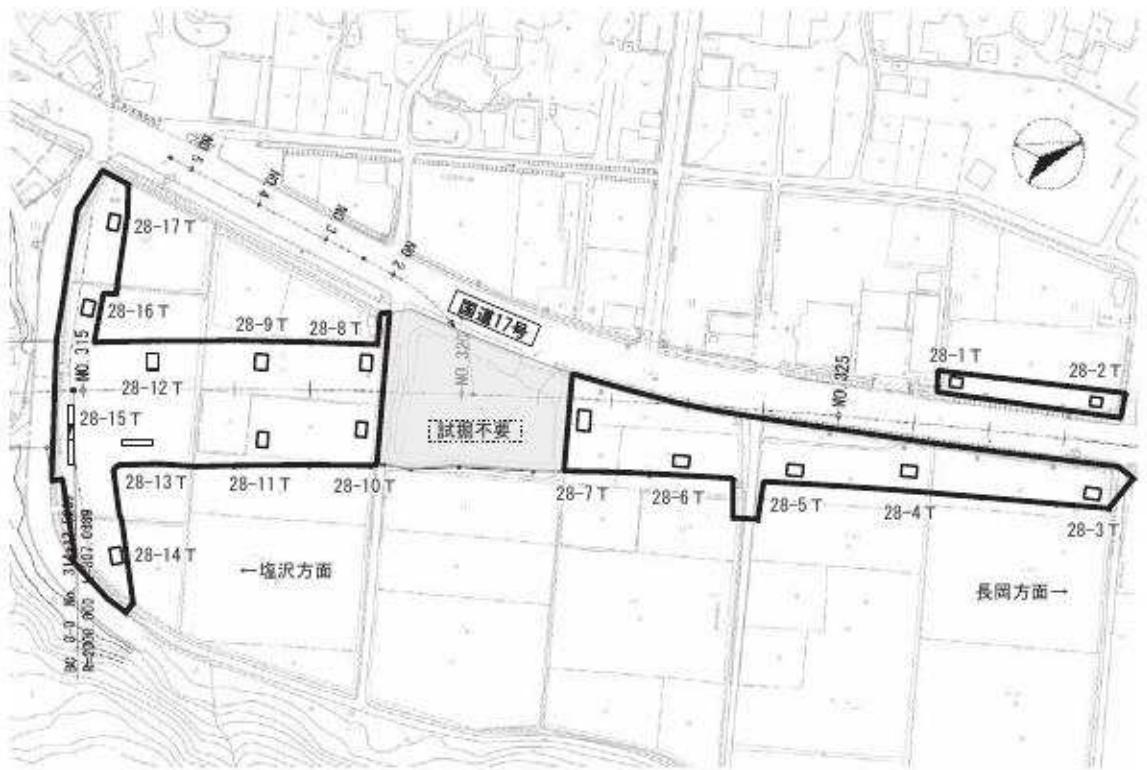
イ 遺物

24 T から中世の珠洲焼 1 点が出土した。河川堆積層からの出土であり、原位置を保っていない流れ込みの遺物である可能性が高い。25 T からは曲物の底板が 1 点出土した。同一層から遺物が出土していないことから時期は不明である。珠洲焼同様に流れ込みの遺物である可能性が高い。

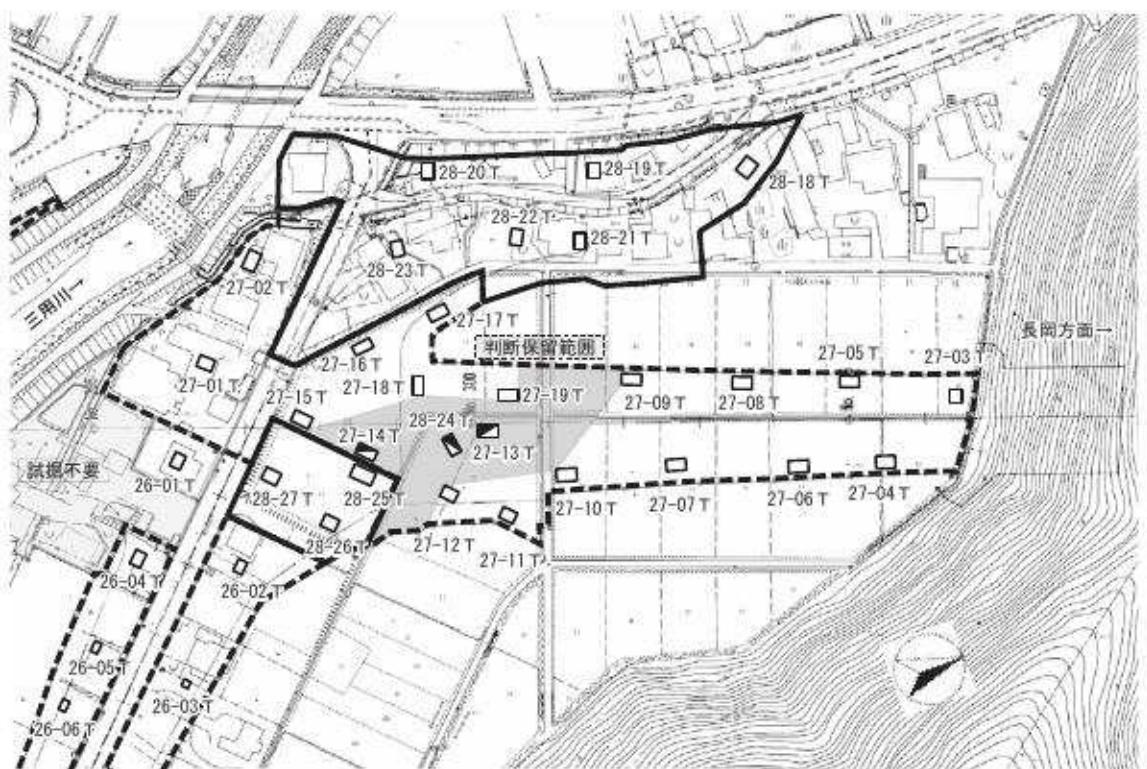
(5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、虫野地区で中世以前の遺物は出土しなかったが、時期不明のピット 3 基 (15 T) を検出した。ただし、周辺の堆積状況及びトレーンチ周辺で遺物が出土していないことから、中世以前の遺跡が存在する可能性は低い。今回の未調査区 1,686m² (杭No.319～321 + 10付近) についても同様と考える。よって、虫野地区 (杭No.315～329付近) について、本発掘調査及び今後の試掘調査は不要と判断する。

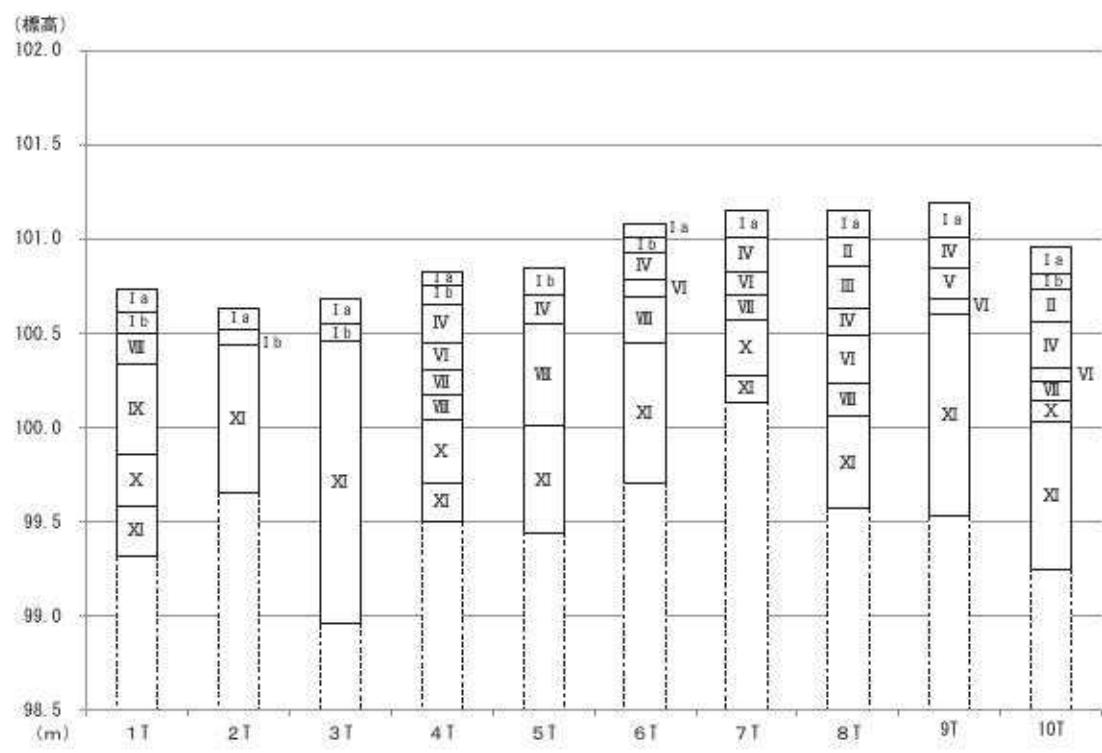
大浦地区では珠洲焼と時期不明の曲物底板が出土したが、原位置を保っていない流れ込みの遺物と考える。また昨年度の検出遺構と一連の杭列を検出した。構築時期は不明だが、珠洲焼の出土層より下位で検出できることから、中世以前の可能性もある。この杭列周辺を判断保留範囲とし、今後の試掘調査又は自然科学分析によって取扱いを判断する。



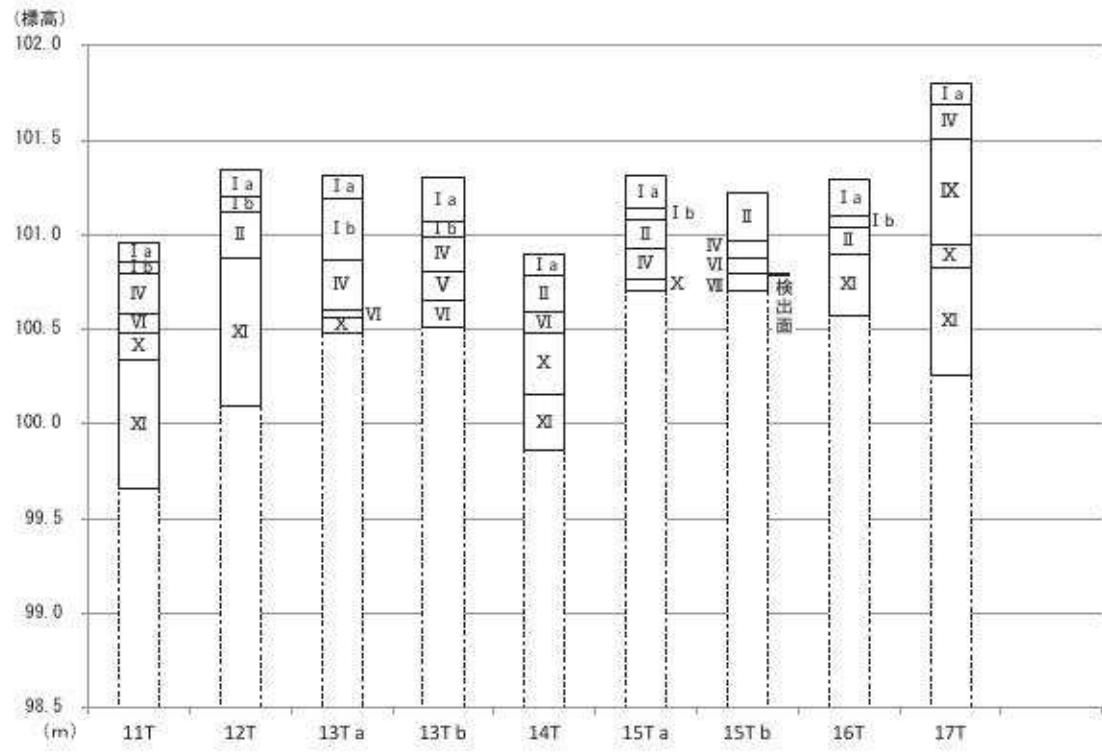
第2-1図 トレンチ位置図【虫野地区】 (1:2,000)



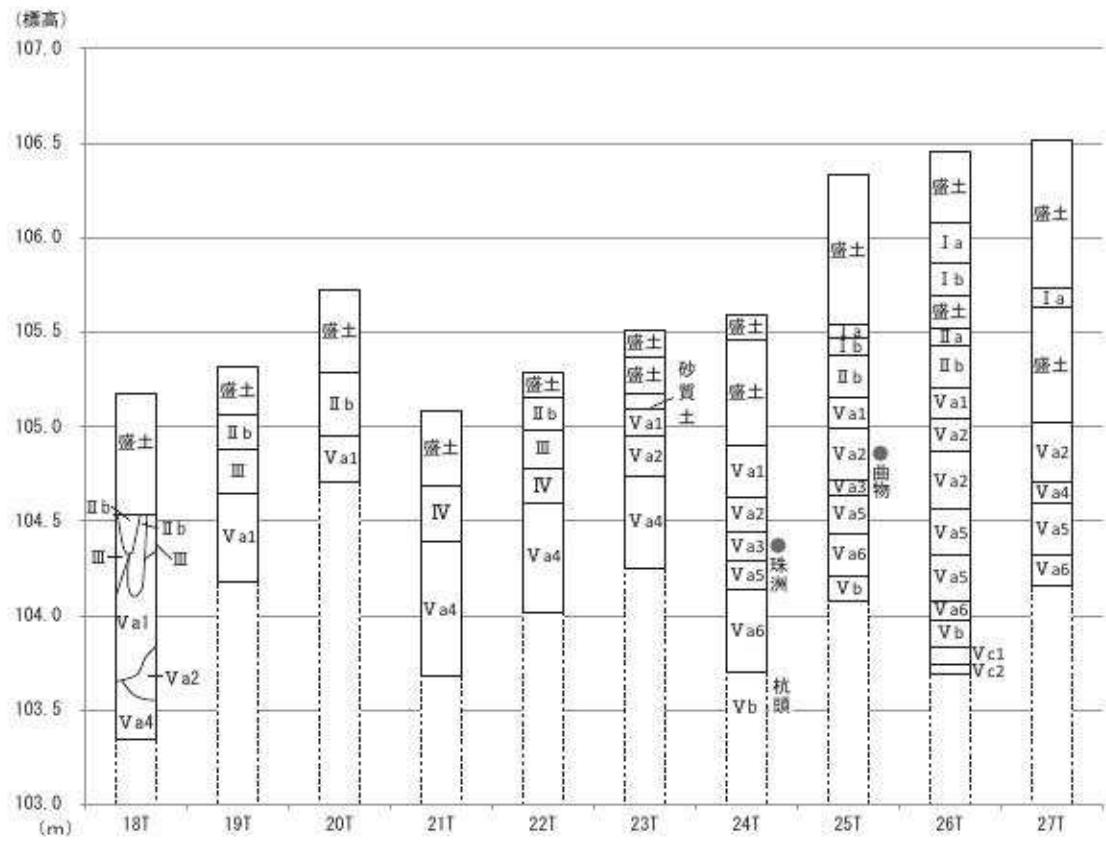
第2-2図 トレンチ位置図【大浦地区】 (1:2,000)



第3-1図 土層柱状図 (1:40)



第3-2図 土層柱状図 (1:40)

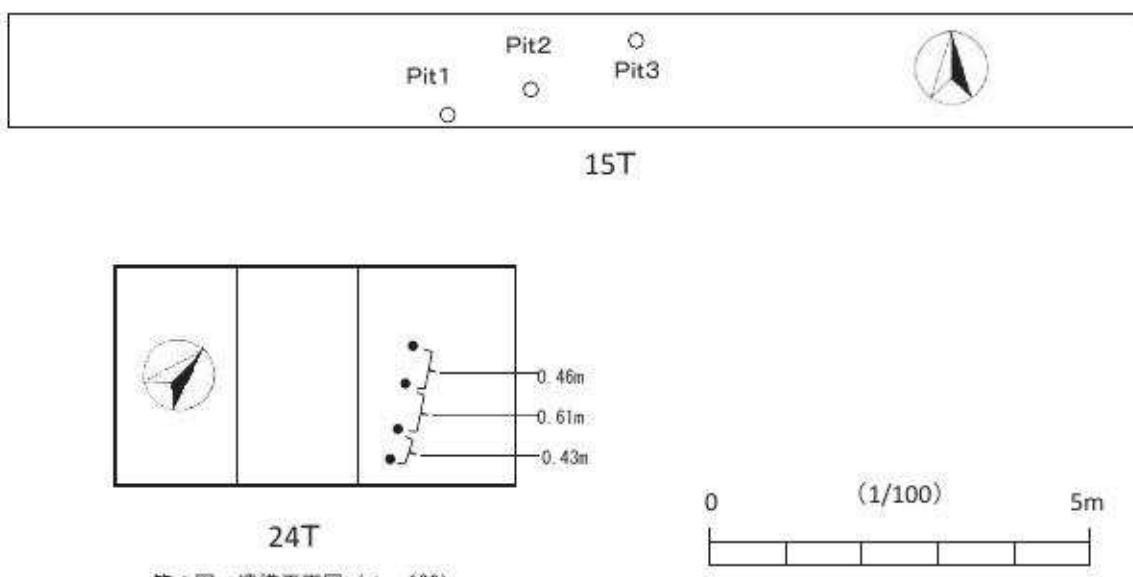


Pit1
径約24cm
深さ約35cm

Pit2
径約25cm
深さ約35~40cm

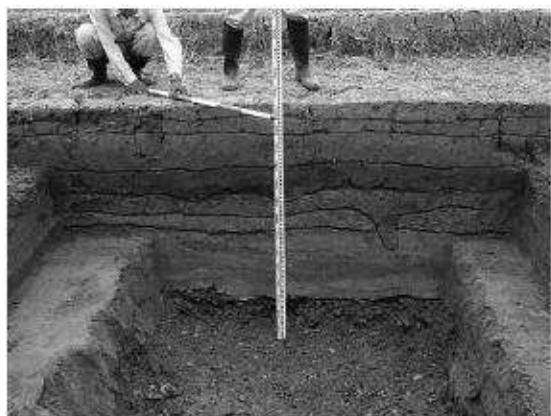
Pit3
径約15cm
深さ約7cm

埋土共通: 灰褐色粘質シルト 径1~5mmの炭粒少量含む。





第7図 2T 土層断面（南から）



第8図 4T 土層断面（西から）



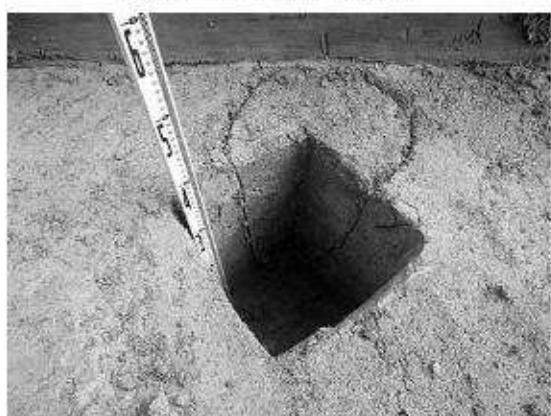
第9図 7T 土層断面（北から）



第10図 8T 土層断面（南から）



第11図 15Tb 土層断面（北から）



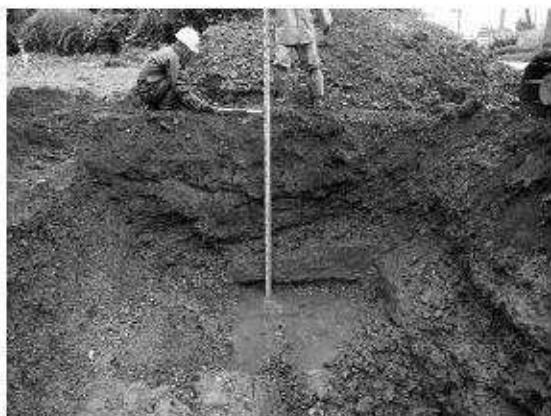
第12図 15T Pit 1 断面（北から）



第13図 15T Pit 2 断面（北から）



第14図 17T 土層断面（南から）



第15図 18 T 土層断面（北から）



第16図 22 T 土層断面（南から）



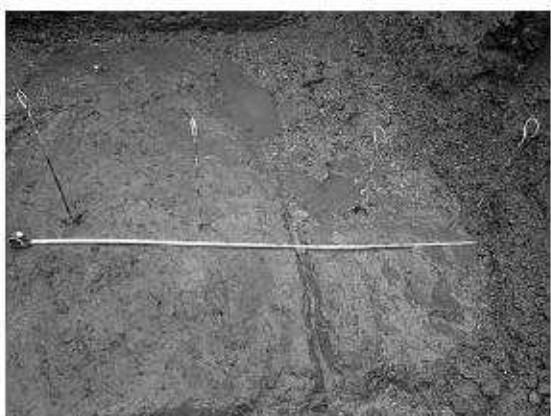
第17図 23 T 土層断面（南から）



第18図 24 T 全景（南から）



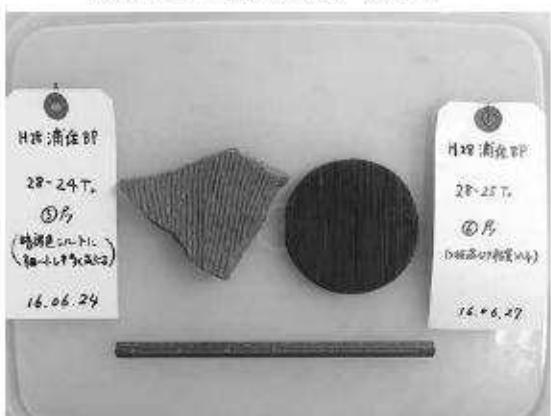
第19図 24 T 土層断面（南から）



第20図 24 T 杭列検出状況（西から）



第21図 25 T 土層断面（東から）



第22図 24 T (Va3層)・25 T (Va2層)出土遺物

10 一般国道17号六日町バイパス事業地内

よかわ 南魚沼市余川地区試掘調査

(1) 立 地

六日町盆地北部、魚野川左岸の庄之又川が形成した扇状地の扇端南部に位置する。標高は180.0～182.0m前後である。現況は荒蕪地であるが、以前は整備された水田であった。

(2) 調査の概要

8か所のトレンチを設定して調査を行った。平成15・27年度にも隣接地域の調査を行っており、遺構・遺物が検出されている。

深さは前回調査の実績をもとに、下面の遺構確認面であるV層を目途とした。

(3) 層 序

平成27年度の調査成果に合わせるように分層したが、V層・VI層を土質によりa・b層に細分した。

0層 盛土層・現代の擾乱層。

I層 現代耕作土関係の層。

I a層 現水田耕作土。

I b層 灰黄褐色シルト。水田の床土など。

I c層 灰白色シルト。溝など、ほ場整備後に掘り込まれた層。

II層 現代耕作土より下位の、人為的堆積層。

II a層 明黄褐色系のシルト層で、ほ場整備時の造成土（客土）。遺物が比較的多く含まれる層。

II b層 暗褐色シルト層で、旧水田耕作土と考えられる層。

III層 IV層前の自然堆積層で、黄褐色系（浅黄橙～灰白色）粘質シルトが主体。V層と異なり、砂質はあまり含まれない場合が多い。

IV層 褐灰色～にぶい黄褐色粘質シルト。炭粒少量含む。古代の遺物包含層。

V層 IV層（古代遺物包含層）とVI層（古墳時代遺物包含層）間の自然堆積層で、黄褐色系（浅黄橙～灰白色）を呈する。

V a層 砂質シルト。砂質土が主体となる層。

V b層 粘質シルト。粘質土が主体となる層。

V s層 指頭～拳大の砂礫が含まれるまたは主体となる層。

VI層 暗褐色～褐灰色粘質シルト。炭粒少量含む。古墳時代の遺物包含層。2～3層に分層出来るトレンチもある。上層（VI a層）の色調が濃く、下層（VI c層）が薄い傾向にあり、遺物は上層に多く含まれる。

VI層 VI層以下で、砂礫が主体となる層（VII層）が検出できるまでの層を一括した。自然堆積層で黄橙～灰白色系を呈する。

VII a層 砂質シルト、砂質土が主体となる層。



第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「十日町」1:50,000原図 平成10年発行)

VII b 層 粘質シルト、粘質土が主体となる層。

VII 層 砂礫主体層で、拳大以下の礫や砂が主体となる。V s 層との区別が困難である。

IX 層 VII 層以下の自然堆積層を一括した。灰白色系の粘質シルトで、VII 層より色調が明るい。

なお、V 層やVII 層に含まれる砂礫、砂質分が示すように、土石流のような堆積が多く認められる範囲であり、その都度地形が大きく変化した可能性がある。なるべく対応層の把握に努めたが、各トレンチ間で色調や含有物が異なる場合も多い。

(4) 遺構・遺物

ア 遺構

明確な中世以前の遺構は検出できなかった。しかし、5 T のIV 層（古代の遺物包含層）以下で、北寄りに緩やかに落ち込む層を確認した。古代の遺物を含む。また不整形で浅いピット状の落ち込みを数基検出した。いずれも今回の調査では遺構と認定できなかったが、当該期の遺構の可能性も残す。

イ 遺物

古墳時代中～後期初頭と古代（平安）の遺物が出土した。各トレンチの出土数量・層位・重量等は下表に記した。

トレンチ	上から の層順	出土層位	出土遺物								備考	
			古墳土師器		須恵器		土師器		珠洲焼			
			点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)		
H28-4T	1	I a 層							1	12	臺 R か	
H28-5T	2	II 層					12	43			古代(平安)か	
	3	黄灰砂質土					3	17			古代(平安)か	
	7・8	VIIa 層 VIIc 層	30	338							黒色土器2点含む。 古墳中～後期初めか	
H28-6T	4	暗黄褐砂質土					1	16			古代(平安)または近世	
	7・8	VIIa 層 VIIc 層	11	113							古墳中～後期初めか	
H28-7T	7	VI 層	5	8							古墳中～後期初めか	
H28-8T	4	IV 層			1	502	28	216			古代(平安)か	

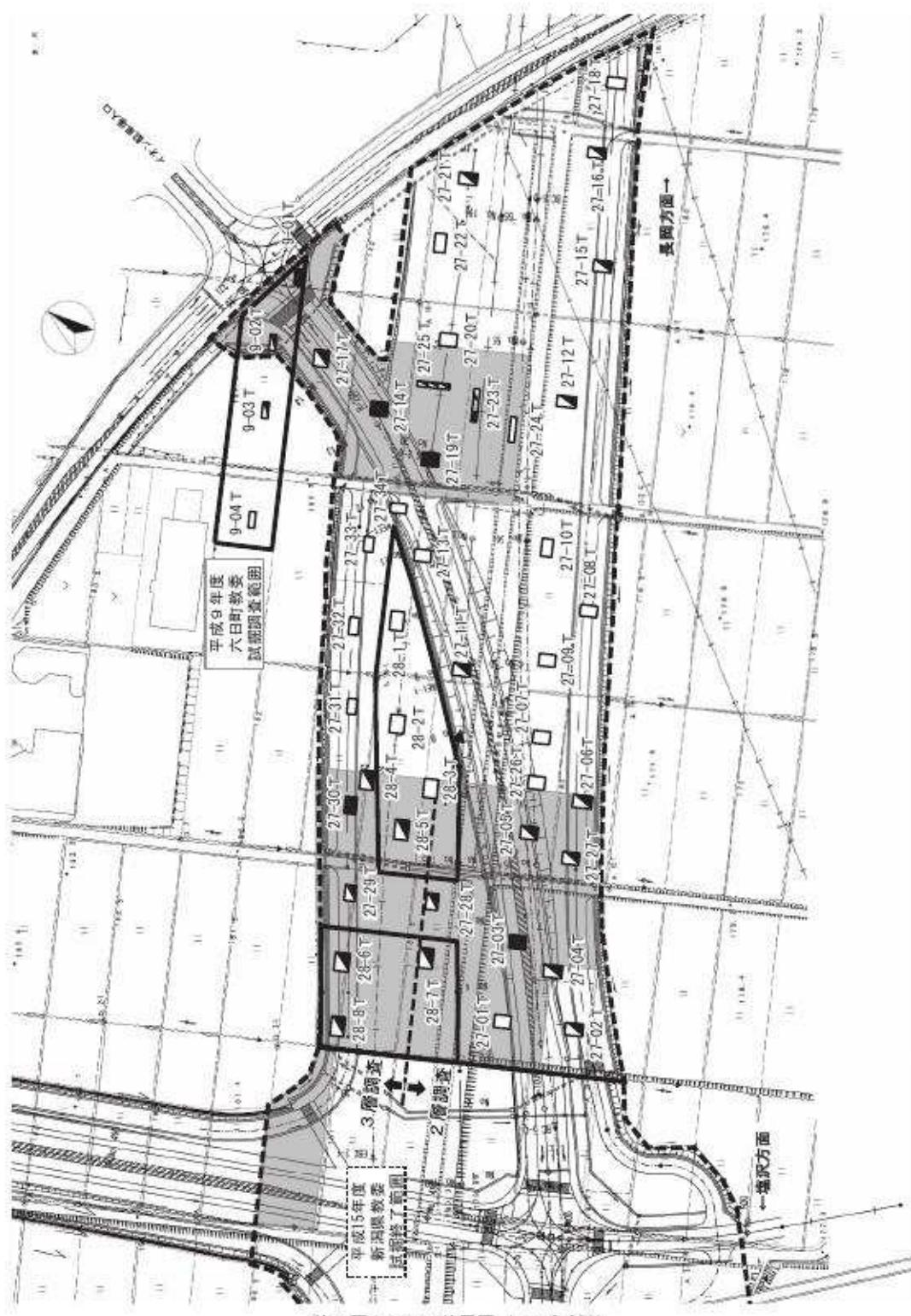
第1表 出土遺物表

(5) 調査の結果と取扱い

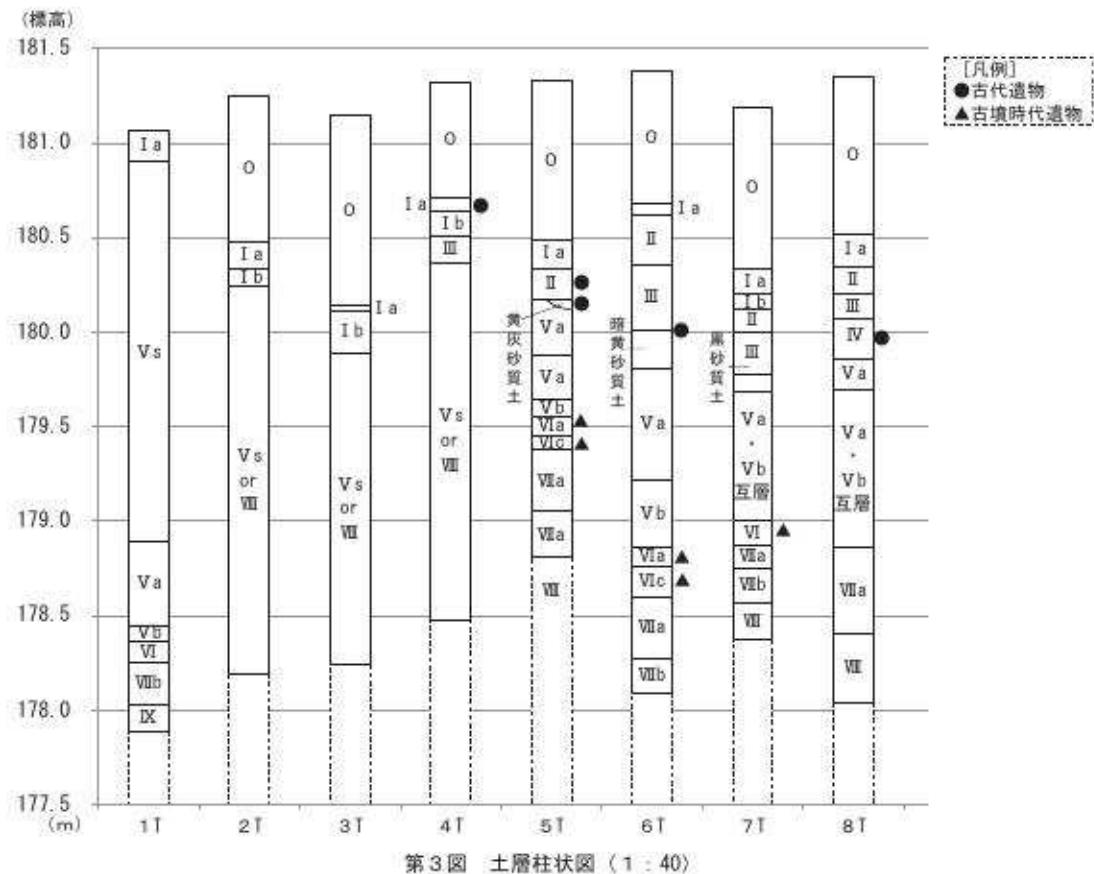
調査の結果、本線センター杭No 186 付近より南西の範囲で、中世以前の遺物が出土した。六日町藤塚遺跡の周知範囲（平成 27 年度範囲変更）内で、出土遺物の時期は、古代（平安）と古墳時代（中期～後期初頭）に分かれる。古墳時代の土器はほぼ全域で出土するが、古代の遺物はセンターラインより西側（山側）で多く出土する。

平成 27 年度の調査成果と併せて判断すると、六日町藤塚遺跡では第2図に示した範囲で本発掘調査が必要である。古墳時代の範囲は、本線センター杭No 182 ～ 186 付近のはば全域で、さらに遺物包含層が 2 層に分かれる可能性があることから、延べ面積約 14,060 m² (7,030 m² × 2 層) が本調査対象となる。古代の範囲は、古墳時代の範囲と重複するが、西寄りの約 2,750 m² (1 層) が本調査対象となる。

以上のことから、六日町バイパスのセンター杭No.178～197の区間では、六日町藤塚遺跡約18,000m²（古代2,750m²+1,190m²、古墳時代7,030m²×2層）、坂之上遺跡約3,780m²、合計21,780m²で本発掘調査が必要と判断する。



第2図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



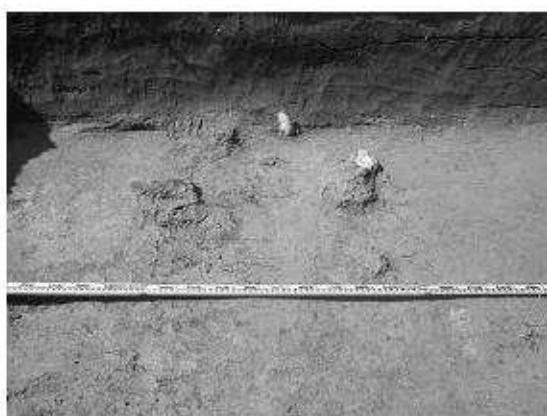
第3図 土層柱状図 (1:40)



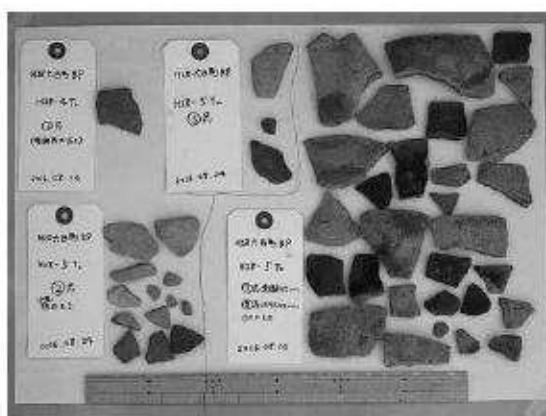
第4図 1T 土層断面（東から）



第5図 6T 土層断面（東から）



第6図 8T 古代土器出土状況（東から）



第7図 4T・5T出土遺物

11 一般国道17号五十嵐入口交差点事故対策事業 いしうち 南魚沼市石打地区試掘調査

(1) 立地

魚野川左岸の河岸段丘面に立地し、標高は265m前後である。地形は全体的に南西から北東に向かって低く傾斜する。現況は宅地・水田で、東側が周囲より一段高くなっている。

(2) 調査の概要

5か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。

1~3Tと4·5T間は約20mの未調査区がある。

深さは基盤層と考える砂・礫層のIV層を目途とした。

(3) 層序

0層 家屋等の盛土及び撤去後の埋土。

I a層 褐色粘質土。表土。現代水田耕作土。

I b層 灰褐色砂質シルト。現代水田の底土。

II a層 暗青灰色~褐色砂質シルト。現代耕作土より下位の人為的埋土。径50cm以上の礫も含む。

II b層 青灰色砂質シルト。礫を含み、II a層に似る。人為的埋土でII a層とは時期差がある。

II c層 暗褐色砂質シルト。旧耕作土またはその影響を受けた土の可能性がある。

III層 褐色砂質シルト。3·4Tで確認。粘質シルトが混じり、小~中礫を含む。

IV a層 灰色粗砂(基盤層)。

IV b層 褐色砂質シルト。基盤層。細砂と互層を呈する。

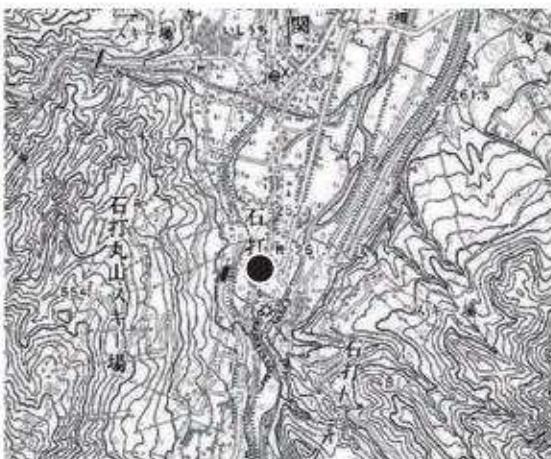
IV c層 褐色~黄褐色砂礫層。基盤層。人頭大以上の礫を多く含む。

(4) 遺構・遺物

なし。

(5) 調査の結果と取扱い

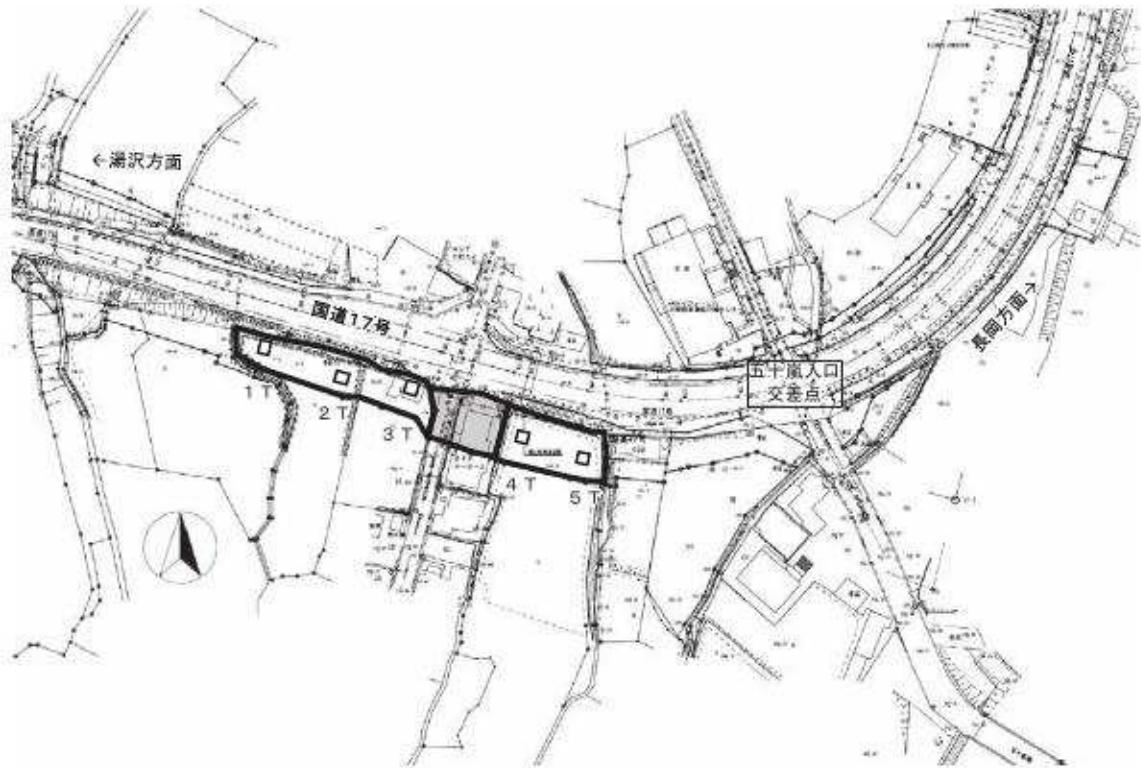
調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



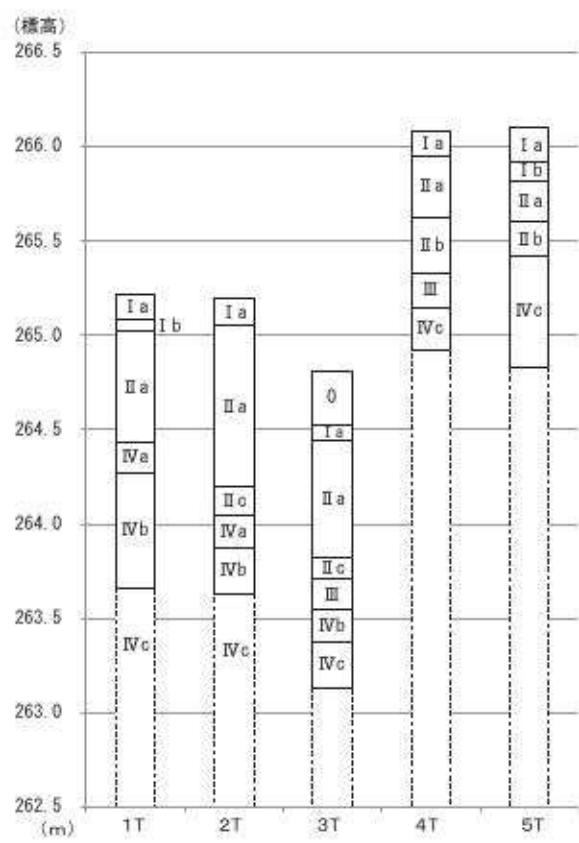
第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「越後湯沢」1:50,000原図 平成7年発行)



第4図 4T·5T調査前全景(西から)



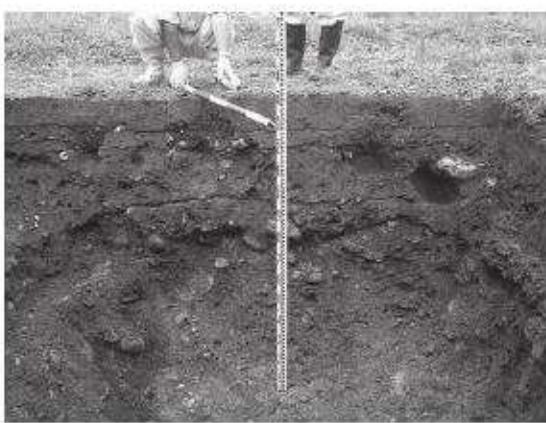
第2図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



第3図 土層柱状図 (1 : 40)



第5図 3T 土層断面 (西から)



第6図 5T 土層断面 (西から)

12 一般国道8号九戸浜事故対策事業関係

上越市大潟区九戸浜～潟町地区試掘調査

(1) 立地

海岸線から500～700m程内陸の海岸砂丘上に立地し、標高23.8～28.0mである。地形は南西から北東に向かって低く傾斜するが、本調査区は砂丘の南向き斜面に位置する。現況は宅地・商業地である。

(2) 調査の概要

11か所のトレンチで試掘確認調査を行った。2～3T間、5～6T間に調査の空白地がある。深さは3mを目途としたが、調査区が狭小なため2m前後のトレンチが多い。

(3) 層序

0層 碎石・盛土など。

I a層 黒褐色～褐色砂質土。旧表土、耕作土。

I b層 暗灰色砂主体。近・現代の造成による埋土や攪乱。

II層 砂丘を構成する灰色系の砂で、ほぼ水平に堆積し、乱れ等は確認できなかった。粒径で細分した。

II a層 灰色細砂主体。

II b層 灰色粗砂主体。

II c層 灰色細砂・粗砂の互層ではほぼ均等な割合。

II d層 灰色細砂主体。砂質シルトが少量混じる。

(4) 遺構・遺物

なし。

(5) 調査の結果と取扱い

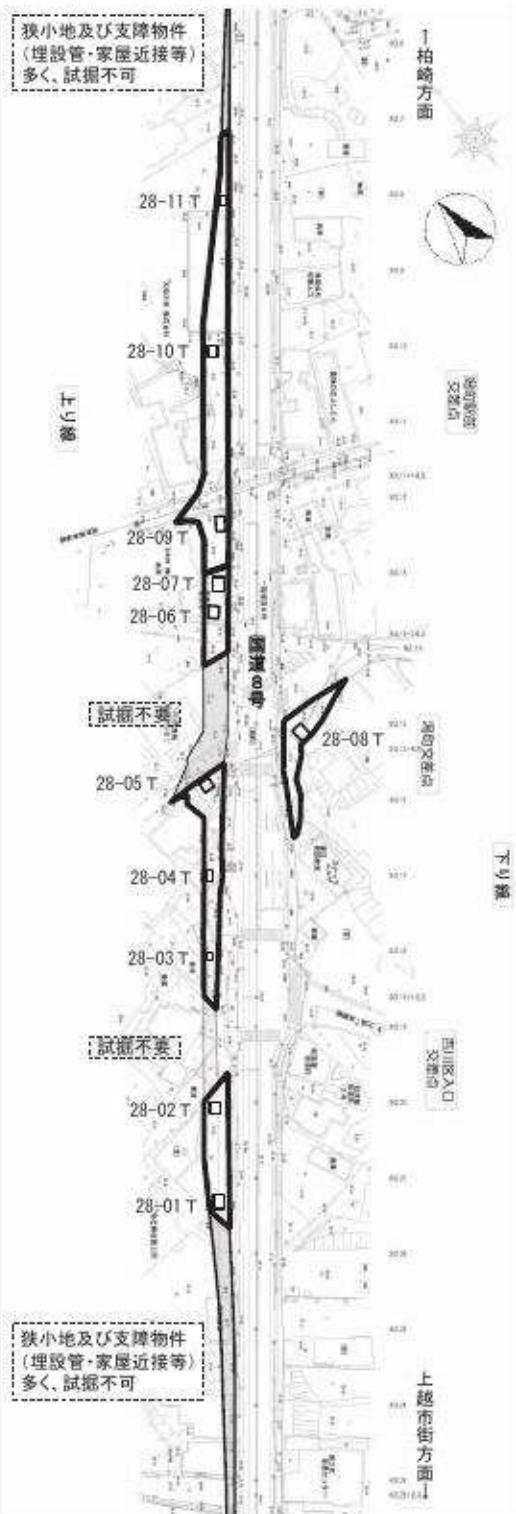
調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「柿崎」1:50,000原図 平成10年発行)



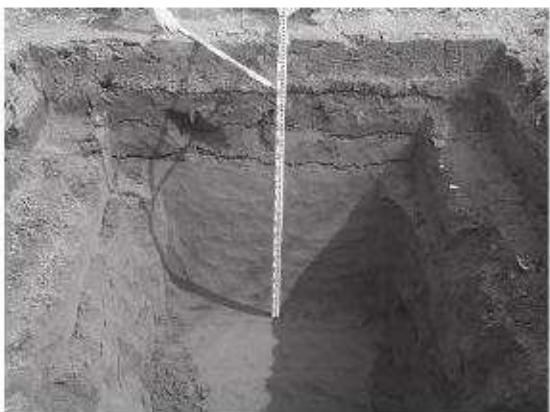
第4図 1T・2T調査前全景（北東から）



第2図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



第5図 1T 土層断面 (北東から)



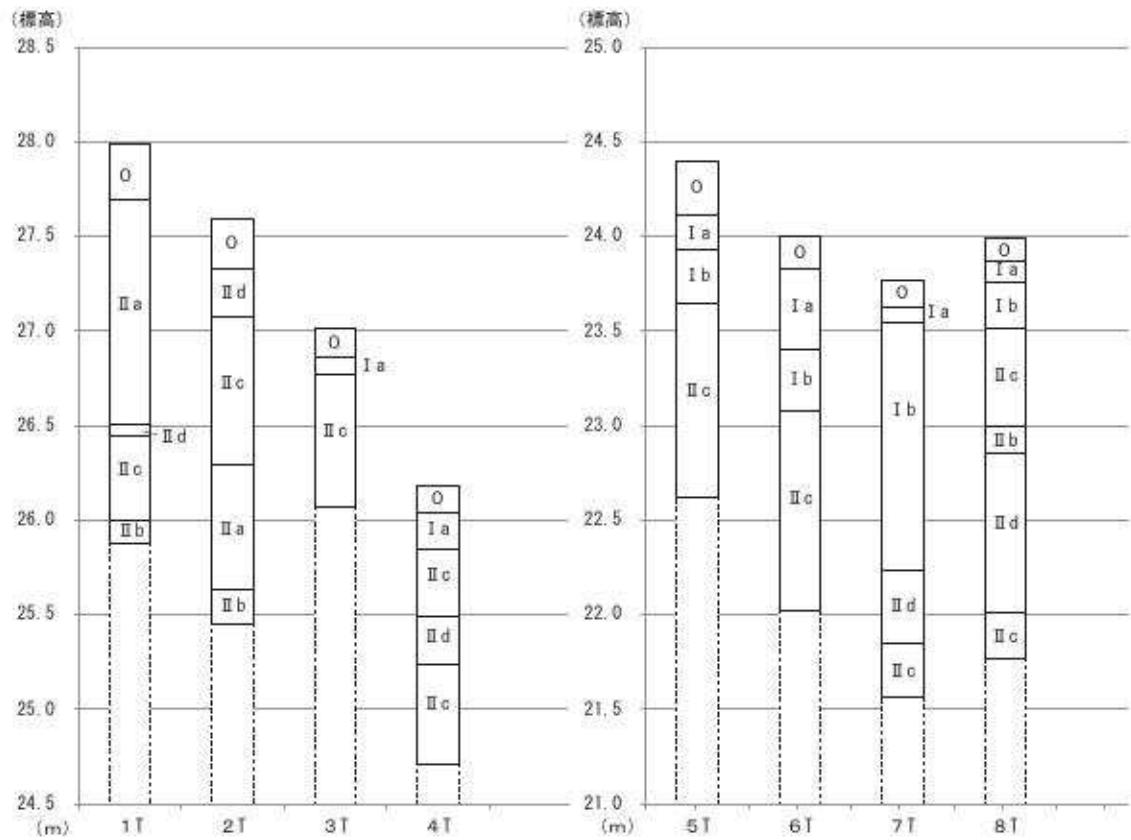
第6図 5T 土層断面 (南から)



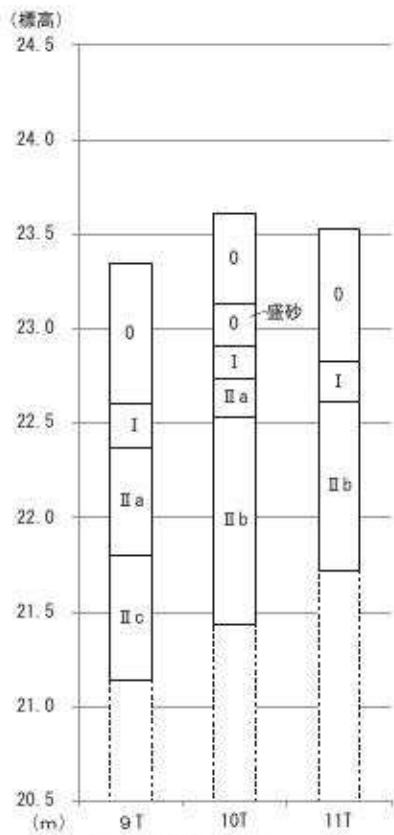
第7図 8T 調査前全景 (東から)



第8図 8T 土層断面 (東から)



第3-1図 土層柱状図 (1:40)



第3-2図 土層柱状図 (1:40)



第9図 10T・11T調査前全景(南西から)



第10図 10T 土層断面(北西から)

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうはぢねんどけんないせきしきつ・かくにんちょうさほうこくしょ						
書名	平成28年度県内遺跡試掘・確認調査報告書						
副書名	県内遺跡発掘調査報告書						
巻次	VI						
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第280集						
編著者名	石川智紀・滝沢規朗						
編集機関	新潟県教育委員会						
所在地	新潟県中央区新光町4番地1						
発行年月日	2018(平成30)年3月20日						

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'\"	東經 °'\"	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみのいせき 上野遺跡	（ぐらかみしきるさわいざいみの） 村上市猿沢字上野	15212	608	38° 17' 32"	139° 31' 46"	20160726～ 20160729・ 20161004～ 20161007・ 20170227～ 20170310	665	国道建設
ひいがまらふにづか 六日町藤塚 遺跡	（みなみうおぬましょかわあざふじつか） 南魚沼市余川字藤塚	15226	301	37° 04' 38"	138° 52' 40"	20160823～ 20160825	209	国道建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
上野遺跡	集落跡	縄文		縄文土器・石器・珠洲焼・鉄貨				
六日町藤塚遺跡	集落跡	古代・古墳		須恵器・土師器・珠洲焼				
要約	道路事業に伴う試掘・確認調査を12か所で実施した。周知遺跡である上野遺跡、六日町藤塚遺跡の範囲が拡大した。特に上野遺跡は、縄文時代後期を中心とする遺物が広範囲から出土し、土器・石器等も出土した。							

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第280集 県内遺跡発掘調査報告書VI 平成28年度県内遺跡試掘・確認調査 平成30(2018)年3月19日印刷 編集・発行 新潟県教育委員会 平成30(2018)年3月20日発行 〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1 電話 025(285)5511 印刷・製本 株式会社小田 〒945-1352 柏崎市安田4153-1 電話 0257(23)4052
